

326
367



始



近世殖民史

拓殖局

326-367



本書ハ獨逸フライブルヒ大學助教授タル政治家
 Veit Valentin 氏ノ著 Kolonialgeschichte der Neuzeit ト稱スルモノ
 ニシテ當局事務上ノ參考ニ供スル爲ニ翻譯シタルモノ
 天正七年六月
 膽寫ニ代フルニ印刷ヲ以テセリ

拓殖

〃
寄贈本

大正
 7.9.20
 寄贈



南洋叢書



序 言

本書近世殖民史は學生教師其他通く一般愛史家に對し、未だ我國に於て充分に研究せられざる近世史に關する概念を與ふるに便せんとて試みたるものに外ならず。予か此の試みは本書出版者たるドクトル、パウ、シーベック氏の激勵に基きたるものにして、予か喜んで同氏の激勵に應じたるは數年以來予の着手せる千八百四十八年より千八百四十九年に至る獨逸革命に關する根本研究を繼續すること能はざる事情の生じたと、殖民史の問題は千九百十二年及昨冬行ひたる特別講演に依りて自ら稍々信する所あるに至りたるに因る。

然れども予か本書に於て概要的敘述を試みたるは予の有する材料を近代の科學的見地に基きて之を編成せんとしたるか爲めなり。

歐洲諸國民の殖民的企業は各種の學術に關係を有す、即ち地理學者、人類學者、國民經濟學者の如きは土地の境界、地質、氣候の關係、土民の人類學上の種類及其の社會的狀態、移住關係及經濟關係の問題に就きて研究を爲す。

然らば政治史家の任務は如何と云ふに、政治史家たる者は其科學上の問題を解決し得んか爲め

に是等一切の學術研究の結果に就きて學ぶ所なかるへからず。又歐羅巴國民に對して海外領土の有する意義を評定し得んか爲めに海外に於ける領土の具備する價值に關して精確なる概念を得ざるへからず。而して此の意義たるや實に歴史的研究の眞の題材にして其根本に於て自から稍々政治的性質を有するものなり。

然れども此の最高の終局目的を達せんと欲せば歴史家は最も大なる困難に打ち勝たざるへからず。是れ殖民史の材料の性質上自から然らしむる所なり。即ち吾人の研究すべき材料は無數なる個々の事實と、地方的天然の性質に伴ふ出來事と極めて錯綜纏綿せる發展の經路と、吾人の平素何等の交渉關係を有せざる複雑交錯せる無數の土地と人とに及ぶ。而して殖民史に關する事實は常に二個の世界、即ち本國と海外との兩方面に屬するか故に二個の互に異なる歴史的發展の經路を連結する關節とも稱すべきものにして、隨つて又容易に解決すへからざる如き矛盾撞着の生ずることあり。

予は材料の研究及其觀察上の困難を除去せんか爲めに世人の試むる觀察法を分つて左の三様と爲す。即ち其の觀察法の第一は殖民地の地理學上の分類に依るものにして、其の第二は個々の國民の殖民事業に就いてし、其の第三は一般歴史的經過の時代別に依るもの是れなり。

今日まで現はれたる殖民史の著書は上述の如き三様の觀察法中の一を用ひたり。予は本書に於て政治史家の立場よりして此等三様の觀察法を連結併用するの新しき試みを爲せり。

即ち予は第一章に於ては近世殖民史の時代別を論せんとするものにして、這是スーパン(Suppan)の説に則り個々の國民の優勢なる地位を占めたる跡に徴し之を主たる原則として分類せり。而して西班牙葡萄牙の殖民、和蘭の殖民英佛の殖民を順次に論述して其の將來の發達に對する基礎となりたることを明らかにし、進んでは英國が殖民上其の勢力を擅にしたる事實に論及し、次に國運の隆盛に汲々たる諸強國競争の狀況に就きて叙せんとす。予は「遊星的」『planetarisch』と云ふ便宜なる語に就きてクジエレン(Kjeller)に感謝するものなり。如上の時代分類法は往古の殖民強國(Kolonialmächte)と近世の世界強國(Weltmächte)との大なる歴史的對照を瞭然たらしめ且つ美化するものにして、予は之を以て最も自然的にして又最も實際的なものと認む。予の見る所に依れば政治的思想の發達を主たる原則とするか如き分類、例へば帝國主義的の殖民と重商主義的の殖民とを對照するか如きは適當にあらず。何となれば政治的立場より見るときは古來殖民の態様は變遷したりと雖も、殖民の意義に至りては依然として變化せされはなり。殖民思想は近世の初期以來國家思想及權力思想の流露したるものなりとは予か經濟學上の見解を否定して常

に唱ふる所なり。斯くの如くにして今や殖民なるものは實に國民の能力と國民の自覺とを測量すへき最も嚴密にして精確なる最後の分度器となれり。

斯る問題につき時代分類に依りて論したる後更に個々の國民の殖民に就きて叙述せり。而して其の叙述に當りては毎に其の國民に關する一般の歴史的發達と關聯して殖民か其の國民の歴史的經路、歴史的運命、歴史的名譽に對して如何なる意義を有するかを明かにせんことを勉めたり。尙ほ個々の殖民地に就きて論述するに當りては前述の三様の觀察法中の一たる地理的分類の方法を用ひたり。

斯くの如くにして予の解釋に依れば本書は特殊の見解に基きて殖民國民 (Kolonialvölker) の歴史と、殖民の歴史と、殖民地の歴史とを綜合したる『殖民史』たるなり。

予は殖民史を叙述せんと欲したるものにして決して殖民政策を論せんとしたるにはあらず。然れども殖民史を論せんか爲めには恰かも政治史に於けるか如く殖民政策に關する一切の知識を大に必要とすること固より言を俟たず。而して現代の觀察に近づくこと益々密接となるに従ひ、歴史上の全景に於ける殖民地の價値を明かに示さんか爲めに移住問題、人口問題及經濟問題に立入るの必要益々切なるを覺えたり。然れども之か系統的の論述は予の願ふる所に非ざりき。殖民地

分類法の説明—即ち例へば移住殖民地 (Siedlungskolonien) 獲利殖民地 (Ausbeutungskolonien) 殖民上の根據 (Koloniale Stützpunkte) の如き—は必要なしもあらざるか如きも予は之を避けたり。予は殖民史の論述すへき限界を嚴密にせんことに重きを置けり。歴史家は常に一國民の各個の殖民地に於ける特殊の事件を反覆觀察して其の事件の特徴を論せんとするの傾向あり。

然れども殖民に於ける此の種個別的觀察の傾向は更に予か記述の最後の目的として認めたる一般知識の新たなる一種、即ち殖民國民の特徴及其の事業の比較研究を可能ならしめたり。

斯の如く諸種の知識に關係を有する尨大なる問題なるか故に著者か或る事項に就きては徹底的に且つ精確に熟知するも、他の或る事項には疎きことあるへきは讀者の諒とする所なるへし。參考書目は往々にして了解し難き事項ある場合に於て之か研究上の參考に供すへき資料として掲載したるものにして、這は單に書籍の標題を記載したるのみにあらず。予か實際參考としたるものには批評をも加へたり。此等書籍の學術上の價値に至りては固より區々にして一様ならず。

二個の略圖を附したるは往古の殖民強國と近世の世界強國との大なる歴史的對照を明らかにせんか爲めなり。第一の地圖に革命前に於ける佛國の舊殖民帝國並に合衆國獨立前に於て存在したりし英國の舊殖民帝國をも併せて記載することは實際上困難なりしを以て之を止めたり。地圖は

ふ。——印度人。——政府の保護政策。——宗教傳道。——行政組織。——殖民地の本國に對する意義。——閉鎖政策と其の失敗。西班牙殖民地の獨立。

第三章 葡萄牙の殖民

葡萄牙人の殖民事業の價值。——バスコダガマ。——印度を支配せんとの計畫。——武装せる印度貿易。——本國に及ぼす影響。——奴隷賣買。——亞弗利加の殖民地に於ける最近の狀態。——葡萄牙の殖民地たるブラジル。——ブラジルの獨立。——結論

第四章 和蘭の獨立

和蘭の新機軸。——東印度會社。——政治的鬭爭機關。——東印度會社の組織。——東印度會社の東印度及亞弗利加に於ける成功。——西印度會社。——ブラジルに於けるモリッツ伯。——和蘭の衰微。——東印度會社の最後。——王國の殖民地。——「クルテウール、スラルベル」の制度。——東印度殖民地の意義。

第五章 佛蘭西の殖民

英國との關係の意義。——第一殖民帝國と第二殖民帝國。——端緒。——加奈陀。——西印度。——殖民會社。——ルイジアナ。——殖民上の失策。——革命前に於ける殖民の盛況と實質上の缺點。——更に殖民の獲得に着手す。——セネガール。——アルゼリア。——アルゼリヤの意義。——占領。——行政方針。——殖民上の條件。——土地政策。——ナポレオン三世。——エルザス、ロートリンゲン。——結合か將た自治制か。——結論。——チュニス。——西亞弗利加。——コンゴゝ殖民地。——オボク。——フアシヨダの危機。——印度洋に於ける群島。——マダガスカル。——印度支那。——オセアニア。——佛國殖民の一般的特点。——マロッコ。——殖民政策と復讐政策との撞着。

第六章 英吉利の殖民

發見航海。——英吉利の物興。——北亞米利加。——殖民の國家構成方。——清淨教主義。——ニュートン、イングララン諸國。——自治殖民地と主權殖民地。——北亞米利加殖民地の行政

及經濟。——内部の衝突。——本國に於ける權力思想。——亞米利加の自覺と本國の政策。
 ——合衆國の獨立と國家の組織。——西印度。——ジャマイカ。——カナダ。舊佛領カナダ
 と新英領カナダ。——自治。——土地の分配。——『大加奈陀』。——カナダ領。——印度と
 印度問題。——印度歴史の新時代。——東印度會社。——果して英國の責任なりや。——
 クライヴ卿。——印度戰爭。——國家の殖民地獲得。——帝政時代。——行政。——殖民地
 内部の勢力。——英國の衰微と國民的印度運動。——英國の世界的地位の根據たる印度。——
 東亞に於ける英國。——濠洲。——新發見。——流刑時代。——住民の混血。——新殖民
 地。——黄金鑛の發見。——發展。獨立熱。政治的功名心。——結論。——共和國。——
 ユーゼーランド。——亞弗利加。——奴隸賣買。——奴隸賣買の防止と其の政治的意義。——
 シーラ、レオン。——南亞弗利加。——『ブーレン』族。——獨立のブーレン諸國。——カ
 ープロネーの發達。——金鑛及金剛石の發見。——セシル、ローツ。——ブーレン諸國の
 顛覆。——南亞弗利加の聯合。——埃及。——スーダン。——東亞弗利加。——殖民帝國の
 行政。——舊帝國主義。——新帝國主義。——チャンパーレン。——殖民地英人と内地英人
 との二種。

第七章 露西亞の殖民

露國の亞細亞に於ける伸張の真相。——西比利亞並に中央亞細亞。——國境に追求す。——
 英吉利との衝突。

第八章 合衆國の殖民

新大陸。——其の分割。——國家の組織。——ハワイ。——サモア。——西班牙の後継者と
 なる。——合衆國と權力思想

第九章 小なる諸國の殖民

十七世紀及十八世紀に於ける殖民の頂點。——東海の諸國。——白耳義國王レオポルド二
 世。——國際的亞弗利加協會。——コンゴ。——柏林に於ける亞弗利加會議。——ロン
 ー國。——中立コンゴ國、中立白耳義の殖民地となる。——經濟的發展。——コンゴに
 於ける暴虐。——署名國の異議申立の權利。——伊太利の殖民。

第十章 獨逸の殖民

獨逸人の殖民能力。——獨逸人の個人的殖民。——殖民的運動。——殖民協會。——亞弗利加に於ける殖民地の獲得。——ニューギニア英國の嫉妬。——ビスマルクの殖民政策。——ヘルゴランド條約。——殖民行政。——トイゴ。——カメルン。——獨逸南西亞弗利加。——獨逸東亞弗利加。——亞弗利加及太平洋に於ける獨逸の地位。——膠州灣。——青島の發達及其の價值。——歐米文明國民に對する反抗的勢力。——亞細亞國民の殖民。——一般歷史上に於ける殖民の意義。

附錄第一 引書及參考書目(譯者曰、略す)

附錄第二 殖民地現況比較表

附錄第三 各殖民地一覽表

附錄第四 年代表

附錄第五 地圖

一、舊殖民強國
二、新世界強國
(譯者曰、略す)

第一章 近世殖民史の時代別

終局最高の意味に於ける殖民とは成熟せる近代國家の權力の發現(Machtandruck)なり。歴史を案するに殖民は一個人の冒險又は發見に始まり、後經濟的企劃を生し航海業の發達を促かし武力を用ひて經濟的精神的膨脹を遂くるに至りしものなり。故に殖民は國民の能力並に國民の自覺の程度を測定すへき好個の標準なりと謂ふことを得へし。歐洲列國は皆悉く殖民を企てたり。而して此等列國は之に依りて道徳上及び經濟上の能力に就き嚴密なる試験を経たり。近世史の變化並に歐洲に於ける政治的勢力及び主權の争は殖民的競争に關する知識なくして之を解すること能はざるへし。

吾人は近世殖民史を數多の時期に分ち以て各時期に屬する問題、事件の概念を得んとす。殖民史上の事件を純年代記的に研究記述するは紛糾錯雜、勞多くして效少なき虞れあり。蓋し殖民的事業の意義並に個々の國民の企業計畫及び失敗の特殊なる理由は其の國の國運の消長と多大の關係を有す。故に先づ殖民的事件の經過を概括的に考察し、然る後に一國民の殖民的施設の跡を個別的に研究するを可なりとす。

近世史
殖民史

第一期は西班牙葡萄牙時代なり。此の時代を開始したるものは葡萄牙人なり。葡萄牙人の大膽不敵なる商業上又は冒險の爲めにする航海は中世紀の末葉に於て新たな意義を有するに至れり。亞弗利加の北西岸は古來葡萄牙の有なりき。然るに茲に東歐羅巴の一部に強大なる回々教國あり印度に通ずる古來の道路は爲めに妨害せられ、遂には全く杜絶せらるゝに至れり。是に於てか亞弗利加を迂回し、海路より印度に達するの必要を生したり。當時此の事果して可能なりしか？、今や葡萄牙人は大なる世界的企業の目的に向つて進まざるへからざるに至れり。葡萄牙人は其の性格、中世的にして浪漫的なり。葡萄牙のハインリッヒ親王は勇敢なる大事業を成さんと欲し、千四百十五年十字軍士の如く亞弗利加のセウタ(Ceuta)を略取し、航海者の異名を博せり。後葡萄牙人はカナリヤ群島(Canarische Inseln)アゾール(Azoren)マデイラ(Madeira)等を占領し、亞弗利加海岸の諸處を征服したり。境界を爲せるか如き廣漠たる砂漠の彼方に豊沃なる土地の存在するや否やは當時全く一の大きな謎なりき。「マウレン」(Mauren)族の商業關係より見るに當時葡萄牙人は南進して彼の歴史上著名なるカープ、フェルデ(Kap Verde)、即ち緑の岬を發見せるか如し。海路より彼の無盡藏の寶庫と稱せらるゝ印度には達すること能はざりしと雖も、而かも既に

亞弗利加の此の富源は之を發見することを得たり。奴隸及金粉は葡萄牙に輸入せられ、城砦は築造せられ、木製の十字架及石造の紋柱は海岸に建てられ、コンゴ河口に於ける酋長は洗禮を受くるの狀況を呈し、葡萄牙の國王は自らグイネアの王(Herr von Guinea)と稱ふるに至れり。其の後葡萄牙人バルトロモイス、ディアズ(Bartolomäus Diaz)は希望峯に達せり。

印度に達する海路を發見せんとする大なる希望は各國の競争心を刺戟せり。長きに亘る内亂終熄の後、西班牙は國內の統一を計り國力を養ひ、以て國家の權力の發揚を企てんとして、其の隣邦たる葡萄牙に對抗せり。西班牙のゴンブスは今や亞米利加を發見せり。彼れは初め亞米利加に到着するや、思へらく之れ亞細亞の東部なりと、豈に圖らんや其の日本と思惟せしはハイチ(Haiti)なりき。王アレキサンダー六世は葡萄牙の既に得たる結果と西班牙の未だ全く定かならざる新たなる期望とを仲介したり。彼の有名なる分界線(Demarkationslinie)はカ伽嘶的の寶庫を藏する未發見の邪教新大陸を東西兩方面、即ち西班牙に屬する一半と葡萄牙に屬する一半とに分割するものなり。舊世界及舊時代に於ける最高の權威者は全く性質を異にする、將來歴史上歐洲と何等の關係なかりし人類の運命、未だ曾て見ざりし想像外の地帯を解決したり。此の解決は粗暴大膽なるものにして、幾多の争鬭を醸し幾多の變更を見たりと雖も、而かも遂には其の權威犯す

へからざるものとなり、次の時代の出發點となり、争闘の目的物となれり。

四

斯くて迅速なる歩調を以て發見、占領及び開拓は相踵いて行はれ、西班牙人は貴重なる所謂『西印度』諸島を獲得し、中央亞米利加の大陸に指を染め、北進してメキシコを略取し、南進してペルー、チリを併せ、大膽にして勇敢なる武士的、征服的の事業に力を用ひたり。

一方葡萄牙人は此の間に於て其の根本的の大地たる印度に達することを得たり。千四百九十八年ヴァスコ、ダ、ガマ(Vasco da Gama)はカルカッタ(Calcutta)に上陸したり。斯くして工場及び城砦は建設せられ、友誼的通商關係は結はれたり。由來商業は葡萄牙人の特長なり。随つて其の殖民は主として一地域に局限せらる。されと後ろに國家の能力の存するなくんは其の殖民の永續すること難きは歴史の教ゆる所なり。千五百年ゴア(Goa)は征服せられたり。當時ド、アルメイダ(D. Almeida)は書して曰く印度に主たらんと欲せば海上に覇たらざる可からずと。即ち彼れは土耳其、アラビヤ及び埃及の「サルタン」(Sultan)の艦隊と戦ひて勝を制せり。後更に印度に進入し、スンダ群島(Sundainseln)を占領し、ムルク(Muluk)を奪ひ、印度洋に面せる東亞弗利加をも占領せり。更に又支那とも通商を開くに至れり。是に於て東亞細亞に於ては二個の基督教殖民國、即ち葡萄牙及び西班牙の二國互に覇を争ふて衝突せしか、漸く和成りて條約を結ぶ

に及び、所謂子午線界(Meridiangrenze)は少しく東方に進み、西班牙はフィリッピン群島及びマリアーネン(Marianen)を取り東印度の一部を得、葡萄牙人はブラジルに在りて西印度の一部を領有せり。

斯くて西班牙人及び葡萄牙人は其の航海及び殖民事業に依りて世界の開明區域を著しく擴張したり。彼等は金銀の豊富なる土地を得、加特力教を弘布し、歐洲の生活要件及び權力關係を一變せしめたり。亞弗利加、亞細亞及亞米利加を閉せる幕は未だ開かれず、彼等の生活は未だ充分之に觸れざりしと雖も、聽て此の幕は彼等に依りて開放せられ、其の誘惑的なる状態は歐洲の競争者等と呼んで大世界に於ける争闘場裡と化するに至れるなり。

第二期は和蘭時代なり(自千五百九十八年至千六百七十年)。聯合和蘭か其の自由自主の爲めにせる争闘は此の時代の骨子を成せり。和蘭はハイブスブルグ家(Habsburg)の優勢を挫かんとする戦争に於て有力なる地位にありたり。フィリップ二世は一君合邦(Personalunion)の政略に依りて西班牙及び葡萄牙の領地を併合したり。其の勢力は一時他を壓するに足りたりと雖も、永き間には國民の存在を充分に意識して、其の存在の爲めに戦はんとする國民に對しては固より力足

らざりき。和蘭人は其の自由を得んか爲め、海洋到る處に於て西班牙と干戈を交へたりしか、葡萄牙人は西班牙人に依りて其の殖民地を保護せらるゝこと薄かりしか爲めに、斯る戦争毎に其の殖民地を失ふの不幸を見たり。同時に英國及び佛國に於ける國民的思想は和蘭人と共に強固となり、是等ハープスブルグ家に反對して勃興し來り、諸國に於ても漸く殖民地の發達を來し、丁抹及び瑞典も亦相踵いて殖民地の獲得に意を用ひたり。

今や殖民の支持者として商事會社の設立を見るに至れり。此の商事會社は單に「會社」と稱せらるゝ所のものなり。此の商事會社は外國貿易を營み、武装を以て航海を保護し、海外に於ける殖民事業を行へり。斯くの如くにして個人は商業上の危険を避くるを得へし。國家は會社に獨占權を與へて之を保護せり。此の商事會社就中和蘭印度會社は大なる事業を爲せり。和蘭は香料島(Gewürzinseln)を占領し、臺灣に移住し、セイロン、マウリチウス(Mauritius)を獲得し、次いで給糧所としてセントヘレナ、カーブ(Kap)を併せたり。西班牙人は其の大陸に於ける地位を保ちし間は亞米利加に於て殖民地の獲得に熱中し、西印度諸島に於ては有力なる競争者現はれたり。各國の海賊、流賊、冒險的密貿易者等は小アンチルレン島(Antillen)に巢窟を構へ、西班牙人を襲撃して其の殖民地に於て得たる收穫を略奪したり。英國は尙ほ遲疑して所謂海上搶掠を行はさ

りしも、セント・クリストファー(St. Christopher)、バルバドス(Barbados)、トバゴ(Tobago)、ジャマイカ(Jamaika)を占領して、漸く殖民地の獲得に着手するに至れり。佛國に於てはコリニ、リオ、ヂャネイロ(Coligny Rio de Janeiro)、ノーグノー教徒(十六世紀頃の佛國新教徒)の爲めに努力し、マルチニック(Martinique)及びグワデループ(Guadeloupe)を占領せり。西印度に於ける各國殖民の盛衰に關聯して歴史上至大の意義を有するものは、北亞米利加に於ける移住殖民地なりとす。亞米利加に於てはニューホーランド、ニューフランス、ニューイングランド等成立し、此等國力の發展に汲々たる諸國の冒險的國民の避難所となれり。亞米利加に於ては和蘭人は初め各國民の移住を拒みたれども、而かも彼等は新進の強大なる殖民國の如く。國家的自覺と横溢する國力とを有せざりしなり。

英佛兩國の競争は第三期たる英佛時代を形成す(自千六百七十年至千七百八十三年)。佛國は急進的の國にして、燃ゆるか如き政治的野心を以て世界に覇たらんとするの希望を有せり。リシエリユー(Richelieu)着手してコルベール(Colbert)之を完成したり。コルベールは佛國の殖民帝國の創設者にして前印度に商館を建て、シャムより和蘭の勢力を驅逐し、マダガスカル(Madagascar)

at)を占領し、小アンチレンよりは更にサント、クロア(St. Croix)サン、ルシア(St. Lucia)を獲得し、グイアナ(Guiana)に於てはカイエンヌ(Cayenne)を征服し、之に赤道佛蘭西帝國(Aequatorialfrankreich)なる名稱を冠し、加奈陀に於ては「フロネン」(Hronen)と聯合せる「イロケーゼン」(Irokesen)と戦ひを交へたり。又森林探險者と宣教師は上湖水地方の支配權を佛國人の爲めに確保し、ミスシッピイ流域に於てはルイシアナ(Louisiana)を建設し、亞弗利加に於てはセネガル(Senegal)殖民地を樹てたり。

之に對して今や英國も亦興る。ルイ十四世よりフリードリッヒ大帝に至るまでの凡ての歐洲戰爭に際し、英佛は西印度に於て殖民的優先權を得んか爲めに戦ひを交えたり。佛蘭西は歐洲大陸に覇を稱へんとして一敗地に塗みれ、其の歐洲に於ける一等陸軍國たらんとする企畫も一頓挫を來し、英國は世界の一等海軍國たらんとす。

前印度に於ける英國の會社は殖民地の局部的建設並に利を得んとする商館より百尺竿頭一步を進めて軍事的征服に移り、又北亞米利加に於ては新領土を多く加へたり。即ちカール二世の名に因める北カロリナ(Nordkarolina)、和蘭領の新アムステルダムを奪ひて新たに命名せるニューヨーク、「クエーカー」教徒の創設せるペンシルヴァニヤ、デラウエア、コンネチカット及び佛領

ニューフオンドランドの彼方なる北部に於ては新スコットランド、新ブラウンシュワイヒ(Neu-Braunschweiz)を併せ、「ウトレヒト」平和會議(Utrechter Frieden)に際し西班牙よりジブラルタル及びメノルカを得たり。

斯く歐洲に於て斷然頭角を現はせる英佛兩國は海上並に大陸に於て相對立す。佛國は海外に於ける占領と期望に於ては多く成功の望みを有せずと雖も歐洲を確保せんと欲し、英國は佛國をして野心ある小弱國を連らねて大陸の上に卓立せしめ、以て自ら海外に於ける地位を占めんとせり。千七百六十三年の巴里平和會議に於て佛蘭西は加奈陀を英國に譲り、一小漁場たるセント、ピエール(St. Pierre)及びミケロン(Miquelon)を得たるのみ。英國は小アンチレンの内セント、ピシヤント(St. Vincent)、ドミニカ(Dominika)及びトバゴ(Tobago)を得たり。佛國の東印度會社は解散し——前印度に於ては英國又其の主たり。當時英國は世界的地位を有せしか、北亞米利加十三州の背反と共に一變化を來せり。此の大事變は英吉利の殖民帝國の根據を亞米利加より亞細亞に移さしむるに至れり。爾來英吉利は亞細亞に於て勢力を得んと欲して大に努め、遂に其の亞細亞的地位は益々向上發展するに至れり。英吉利の印度に於ける地位は其の南洋に於ける膨脹に依りて愈々鞏固となりぬ。即ち英國は南に於てニュージブランド、濠洲、ハワイ等を發見し探險し、

占領し、征服したり。

十

第四期は英國時代なり(自千七百八十三年至千八百七十六年)。英國時代は世界的優勢の地位を得んとする英佛兩國間の最後の大戰闘を以て始まる。ナポレオン一世は舊佛蘭西王國の幻影を追ひて僅かに其の失脚前に於て國王絶對主義の成功彼れに可能なりしと雖も、埃及を略取し印度を眼中に有する彼れは、極めて短期の間歐洲大陸を拳下に克服し封鎖し、全力を傾注して以て前代未聞の方法を用ひて英國と戦はんと畫策したり。而かも英國は凡ての方面に於て依然として勝利者たるを失はず。佛國及び大陸に於ける凡ての佛蘭西の與國は英國に屈服し賠償を爲さるへからず。英國は丁抹よりヘルゴランド(Helgoland)及び印度の要地を獲得し、「マルタ」協會(Marteseorden)よりマルタを、和蘭よりカプランド及びセイロン並に佛領西印度を得、只たジャヴァ(Java)を交付したると、占領せるブエノスアイレス(Buenos Aires)を保有する能はざりしのみ。葡萄牙と共に英國は戰時同盟及び通商條約を締結したるか、之に依りて亞弗利加及び南亞米利加に於ける葡萄牙の殖民地の殘餘は永く英國の屬領なりと思惟せらるゝに至れり。是に於てか歐洲文明國は何れも長期の戰爭に依りて疲憊萎微せるか如きの狀を呈し、旭日冲天の勢を

以て發展しつゝある英國と覇を爭ふ能はず。此の間にありて海上に於て英國以外聳然卓立せる二國あり。北米合衆國及び露西亞是れなり。亞米利加共和國は英國に取りては不吉なる一凶兆にして、彼れは北亞米利加大陸に於て漸次領土を西方に擴大し、ナポレオンよりルイシヤナを買收し加奈陀を威脅す。千八百十二年より千八百十四年に亘りては英國と合衆國間に戰爭行はれたり。ナポレオンは合衆國に緩和を希望し、英國は速かに平和を克復して其の子國の征服し難きを承認せざるへからざるに至り、終に亞米利加は歐洲の干涉の手を脱れて成長發達し得ることゝなれり。南亞米利加に於ける西班牙殖民地の離反し、獨立國として憲政を布くや、英國先づ之を承認し、依つて以て追加的に再びナポレオン及び其の與國に對して勝利を得たり。

されと今や亞細亞に於ては領土擴張の爲めに敢て海上權を必要とせざる一の殖民帝國は發達し來れり。露西亞は絶へず好戰的なる遊牧民族と戦ひを交へつゝ毛皮貿易を行ひ、依つて軍事的勝利の容易なるに釣り込まれて、知らず識らず全亞細亞大陸に領土を擴張するに至りぬ。既にカタリーナ二世(Katharina II)の時にはアロイラン(Aleuten)を占領し露西亞人の毛皮收獲事業はアラスカ及びカリフォルニア方面にまで及べり。當時露國政府より獨占權を得たる露米會社の設けありき。廣大なる版圖と新たに獲得せる海岸線の恵に依り露西亞の政治的野心は大に増長せ

り。アレキサンダー一世は北太平洋を露西亞の海と化さんと欲し加奈陀に於て英國と衝突し、更に合衆國をも衝けり。

世界が英國化せるは千八百十五年後を以て最とす。復古時代に於ては佛國は殖民上殆んど何等の得る所なく、只た埃及を失ふてアルゼリヤ(Algerie)を取り、以て補ひを爲せるのみ。而してアルゼリヤ及びセネガール殖民地よりサハラ(Sahara)砂漠以南に進出せざるへからずとは佛國殖民政策の暗語たりき。而かも尙ほ安きを貪りて動かす。斯る間に突如として奴隸賣買廢止運動起り熱帯殖民地に忽ち一頓挫を來せり。奴隸賣買に對する道德的運動は其の起原を北亞米利加の獨逸人及び「グエーカー」教徒に歸す。英國の博愛家は此の思想を採用し英國政府又之を政治的並に商業上巧みに利用し、即ち英國は後援者及び保護者として各所に干渉する絶好の機會を茲に見出せるなり。ナポレオン戦争後英國の優勢は疑ふべくもあらず。故に英國は今や新なる企畫に對して餘り同意せず、靜かに内を守りて世界政策の準備を整へ、從來得たる處の殖民地の經營に心を傾けたり。佛蘭西と共に英國はグイネア海岸(Guineaküste)に於ける微弱なる競争者たる和蘭及び丁抹の殖民地を商業的に欺取し、亞弗利加の南部に於て英國は徐々に前進し、數多の「カッツフェル」戦争(Kafferkriege)を行ひ、不精々々にブレン(Buren)、トランスヴァール、オレンジ

自由國等の和蘭領殖民地を承認し、而かも尙ほ之か主權を獲得せんとするの野心を棄つることなかりき。又ナタール(Natal)及びグリクアランド(Griguland)を得て暫時其の保護國となせり。亞弗利加の東部に於て英國は「サルタン」に與せる佛國を衝て之を驅逐し、遂に尙ほスエズ運河に於て大成功を遂げたる佛國の埃及に對する全事業を自ら利用することに成功せり。斯くて英國は事業上及び政治上徐々と細心に埃及に侵入し、近東及び極東に對する政策上極めて有望なる地と爲せり。

英國は汽船の通航を盛ならしむるに緊要缺くへからざる給炭所を各所に設置し、次いで印度への航路の安全を計れり。英國は他の地點を差し控へ、千八百三十八年分離を防ぐ爲めにカナダに對して制限的自治を許し、數次の赫々たる戦役に依りて前印度の軍事的征服を完成したり。是れ實に英國の帝國主義の發現なり。蓋し此の地位の主張は世界最強國としての英國の存在を左右するものなればなり。露國は漸次南下して高架索を略取しトルキスタン(Turkestan)を併せバミールを占領したり。是に於てカペルシヤ並ひにアフガニスタンに於て此の世界的兩大強國の利害は最も激烈に交叉し衝突せり。千八百三十七年「ヘラート」の戦争あり、公然兩國は敵對行動を取るに至れり。而して此の嫉視反目は更に外國の文明に支配せられつゝある亞細亞東部に及へり。斯

くて英國は支那に突入して阿片戦争(Opiumkrieg)を惹起し、遂に香港を獲得したり。されど露西亞は勢を逞うして南下し來り、アムール(Amurland)及びサカレン(Sachalen)を占領せり。佛國も亦漸く後印度に於て活動を開始し赫々たる戦争を敢てし、カンボジャ(Cambodia)、交趾支那、安南及びトンキンに於て布教し、商業的の開発を行ひて終に之を占領し、シヤムを衝いて之か保護權を得たり。此の間英國も亦徒らに此の狀を坐視せず、支那と濠洲との中間に在りて至大の意義を有するマラツカ街に接せる海峡殖民地の經營に最も力を傾注したり。佛國は南洋に於ては其の群島中の僅かに數個を確保し得たるに過ぎず。

〔近世殖民史中の末期は遊星的時代(Planctarische Epoche)にして、千八百七十六年に始まり以て今日に至る。遊星にも譬ふへき凡ての殖民地は今や諸殖民國に依りて分割支配せられ、英吉利の優越せる支配權は益々多くの問題を惹起し來り、其の眞の實質を失ふに至れり。此の時代に於ける殖民事業は意識せる帝國主義の思想より發せり。吾人は殖民發展の徑路を討ぬるに當り、重商主義的殖民と帝國主義的殖民との二方面の互に撞着するを看取し得へし。物質的利益を主とする商業的殖民を行へる國家は一時的効果を收め得へしと雖も、此の利益は之を實際的占領なりと斷す

る能はず。全歴史的光榮と其の全國力とを擧げ殖民の爲めに捧ぐる所の國家に非されは到底大世界に於ける支配權を自己存在の一部となすことを得ざるへし。此の支配權を自己存在の一部となしてこそ始めて其の國家は其の支配權と共に發達し繁榮し而して其の衰微するに至りて其の支配權を放棄し得へし。近世殖民史の末期は實に此の認識の發現せる時代なり。今や豊富なる熱帯地方より濫りに利を得んとするの時代には非らず。白人種か必要に迫られ倦むことを知らざる努力と殘忍なる行動を以て地球の全面を分配割取し劣等なる土人を妄りに攻撃征服するの時代なり。而して武力は常に到る處に於て用ひらるる最後の手段なり。白人は移住し、市街を建設し、鐵道を敷設し、勞役を強制し、依つて以て年々歳々増殖する幾百萬の白人種は生を營み業を樂むを得るなり。人類の發展ありて始めて一切と一切との關係、即ち世界の利益、世界交通、世界政策の成立を見るなり。

新時代は獨逸帝國の殖民的努力に依りて始まる。當時獨逸の殖民事業は人をして喫驚せしめたり。獨逸國民の殖民的能力才幹を信せされは共に獨逸の歴史を語るへからず。「ハンザ」同盟及び獨逸協會(Deutscher Orden)の事業は其の消息を語り得て餘りあるへし。獨逸人は屢々海外發展を試みたり。即ち第十六世紀に於ては「ウヘルゼル」(Welsler)及び「フッゲル」(Fugger)、第十七世

紀にはフォン、ハナウ伯(Graf von Hanau)及び大選帝侯、第十八世紀に於てはカール六世及びフリードリッヒ大王の東印度會社等是れなり。されと後大陸に騷亂あり、國體問題紛糾し、獨逸人は之れに煩はされて寧日なかりき。而して帝國の基礎確立せる後に發見經營せられたる殖民地は此等の古き殖民的事業と何等の内的關係を有せず。獨逸の愛國者並に政治家の祖國の爲めに海外發展の名譽と事業とを希望して止まざるや久し。宣教師及び商人等の挺身海外に出つるや國旗の保護を缺き、爲めに損害を蒙り危険に遭遇せる事珍らしからず。されと獨逸政府は慎重なる態度を以て容易に動かす。事情の許し個人的事業の好結果を確保するを得たるに至り始めて牢固たる決心を以て直往邁進せり。斯くて獨逸帝國は初め細心にして節度を守りつゝ臣民の保護者たり、次いで海外發展思想の保護者たり、而して保護者より一轉して終に殖民國となりぬ。千八百八十年代に於ては人々此の理想を實行し、結果の見るべきもの尠からず。即ちレオポルド二世と稱せられしブラバント公(Herzog von Brauband)はコンゴ國を創設したり。是れ實に一個の大人格と國際間の猜疑を待ちて事始めて成りて殖民史上の特例なり。伊太利は横溢せる民力を北東亞弗利加に傾注し、幾多の失敗を重ねて遂にトリポリス(Tripolis)を得、以て國民の野心を満足せしめたり。佛蘭西は北部亞弗利加及び西部亞弗利加に於ける凡ての殖民を政治的に聯合

せしめ、葡萄牙は亞弗利加の西岸と東岸とを連結せんとしたれとも時既に遅く、從來親善なりし英國の爲めに武力を以て威嚇せられて退けり。英國はスウダン(Sudan)ウガンダ(Uganda)ニゲリア(Nigeria)ベチエアナランド(Betschuanaland)等、最良の殖民地を最も多く獲得し、更にブレン共和国(Burenrepublik)を征服し、サンシバル(Sansibar)を取り、亞弗利加東部の市場を其の有となせり。然れとも獨逸東部亞弗利加は既にコンゴ國に接觸し、斯くてカーフ、カイロ線(Kap. Kairolinie)破壊せらるゝに至れば、猜忌の眼を以て之を見ざるへからざるの状態となり。今や英國に於ては帝國主義の思想擱物として起り、一殖民地の中心と他殖民地の中心とを連結し他の競争者に刺戟せられて直ちに近東及び極東を攪まんす。全亞弗利加に於ては今や境界線畫せらる。而してモロッコ、ニゲル(Niger)ナイル、コンゴ等の境界線は皆各戦争の危機を藏す。往昔隆盛なりし殖民國は今や悉く衰微せり。即ち西班牙は其の最も重要な最後の殖民地を合衆國の爲めに奪はれ、今や價值漸く低落せしカロリン群島(Karolinen)及び附近の島嶼を獨逸に賣却したり。和蘭は尙ほ其の印度群島を領有す。蓋し之を他國に讓渡せんには餘りに高價に過くれはなり、合衆國は殖民國の伍に列し、曾て亞細亞大陸に蟠居して露西亞を撃退せる日本と太平洋上に於て相對峙す。支那は一見無限の國力を有するか如く、爲めに一たび誤つて大戦

を開始し列強干渉の端を開けり。英佛二國は後印度に於て衝突し、英露は中央亞細亞に衝突し、大世界に於ける危機踵を接して起る。原因は常に機會均等、後進國、勢力範圍、經濟的條件、政治的干渉等に關す。戰爭危機及び競争危機は亞弗利加圈より東部亞細亞へ移轉し、更に去つて同々教國圈に戻りぬ。英露はベルシヤに就いて、英獨合衆國はサモア島に就いて、獨佛はモロッコに就き迷霧を拂ふて、互に了解し妥協を爲せり。此等の衝突に關與せる諸國中獨逸は最も後進にして新進の氣鋭に充てる最も有力なる國なりき。斯くて獨逸の世界的實力を試験すへき第一回の戰爭、否な既に白人種の分配割取せる凡ゆる遊星(殖民地の意)を動搖せしむへき最初の戰爭は起りぬ。

近世殖民史上主要なる事件とは何ぞ。近世の殖民は國民膨脹の新しき時代を開始したり。白人種は到る處其の姿を現はし、亞米利加、濠洲は歐洲化せられ、亞弗利加は殆んど全部白人の支配を受くるに至りぬ。白人は所定の場所に永久的に殖民するを得。他所に於ては一時的に土人と雜居し、又他の場所に於ては單に物質的利益を目的として移住するなり。亞細亞は謎の如き兎角葛藤を生し易きの地なり。只た其の氣候溫和にして白人の永續移住するに適す。亞細亞は一部或

は露國の手中にあり或は異人種支配の下にあり。此の地には現に混合殖民地(Mischkolonie)あり又將來もあり得へし。亞細亞大陸の大部は歐洲人に依り軍隊的又は商業的に支配せらる。異人種國民の主權は土耳其、波斯、支那に於ては大なる努力、敵對的行動並に必要な補助手段を用ふるに非されは之を確保し難し。

斯る白人種の膨脹は反動を惹起し、亞米利加に於ける黑人種の蔓延、濠洲、亞米利加及び印度に於ける黄色人種の散布、亞弗利加に於ける印度人の散布となれり。往古の殖民的膨脹の結果、森林は伐採せられ、動物は死滅し、原人種は減少し、或は奴隸となり、或は種族絶滅し、爲めに人類並に自然の價値は著しく減損せられたり。歐洲の燦然たる文明は劣等人種の健康幸福道德文明を破壊するに當りて、殘留したる碎片の上に建設せられたるものなり。而して歐洲國民の今日あるは實に斯くの如き間斷なき争闘軋轢と、此くの如き永劫的の競争の結果たらすんはあらず。歐洲國民は一樣に倨傲尊大にして國家觀念及び權力思想(Unters-und Machtgedanken)を以て自己の生存に缺くへからざる呼吸なりと認識し、自己の必然的隆盛は乃ち他の必然的滅亡なりと信し、其の歴史傳説及び政治的自覺の爲めに凡ゆる争闘の犠牲を拂ふも敢て厭はざるの國民なり。蓋し此の全部的の犠牲ありて始めて前世紀に於て安寧と秩序と個人に對する尊敬とを保持し得たるも

のにして、吾人の技術的事業、藝術並に科學的創作力、吾人の世界觀及び精神的自由も亦斯る犠牲に基礎を置くもの也。

第二章 西班牙の殖民

世人は西班牙か一大殖民國となりしは偶然の結果にして、海外發展に對する強烈なる内的要求ありしか故にあらすとなせり。純粹なる經濟的立場よりするときは此の見解は多少の道理なきにあらす。十五世紀の西班牙は通商航海上海等獨創的力を有せず。されど西班牙の隆盛は正に商業的企業を以て殖民的發展を促すべき唯一の最も重要な動因なりと做すべきにあらざることを證するものゝ如し。

舊教主義を抱懐するフェルデナンド王 (Ferdinand) 及びイサベラは國土と人民との矛盾撞着、國內の黨争、地方的勢力を或る程度まで排除壓倒したり。而して此の政治的宗教的統一は之を鞏固にし充實せしむる爲めには、極めて大なる努力を必要としたり。西班牙の根本的特徴は軍事的並に農業的なりき。倨傲尊大にして武を好める貴族と貧困なる農民とは其の大部分を占めて相對し、工業は只た活動的なるカタロニヤ (Katalonien) 及絹織物を業とする「マウレン」人 (Mauren) の

住する南部地方に於てのみ行はれ、商業と航海とは僅かに海岸諸港に於てのみ見るべく、國內の猶太人、伊太利人並に佛蘭西人は金融業を營み、或は外國品の輸入貿易を行ひ、西班牙人に奢侈品工業を教ゆる等、凡そ此等の方法に依りて固陋不活潑にして怠惰なる西班牙人の特性及び生活状態を活潑圓滿ならしめんとしたり。

舊教主義を墨守せるフェルデナンド王をして心を海外發展に傾かしめたるは、抑も亦伊太利人なりき。コロンブスは毛織匠の子なり。クリストフォロ、コロンボ (Christoforo Colombo) 又はクリストバル、コロン (Cristobal Colon) とも稱せらる。千四百四十六年ゼノアに生る。ゼノアはヴェネツィヤ (Venedig) と共に古來航海業の盛なる地にして、リグレル人 (Ligurer) は數百年來自國の爲めのみならず、外國の爲めにも航海を爲し、造船業者として聞へ、或は海將として名高く、發見者として一頭地を拔けり。個人としては頑冥固陋にして誦許貪慾、度し難きものありと雖も而かも國民としては誠に偉大なりき。

コロンブスは歳十四歳にして海外に航し三十歳にして大西洋を知れり。後英國船に船長としてグイネアに航し、更に氷洲 (Island) に向ふ。當時コロンブスの耳にしたるものは何ぞ？、海上生活の状態は如何？、蓋し之より先き葡萄牙人の發見あり、航海者は爲めに大なる刺戟を受け、航海

業は俄然として活氣を呈す。大西洋の西部に起る霧堤を見ては豊穰なる新世界なりと夢想し、海上に浮ふ一片の木或は一葉の蘆葦を掬りては新世界に近つきしにあらざるかを疑ひ、空想に耽けり計畫を立て、測量に没頭して日も之れ足らず。當時世界地圖上に記るされたる未知の土地なるものは常に西にありき。マルコ・ポロ(Marco Polo)の所謂東亞細亞と歐羅巴との間にある「ジバング」(Ziupan) (日本)は恰かも彈丸黒子の如く、之れに達するは易々たるか如くに見へたり。而して思へらく古記録に徴すれば地表の陸は水より大なり。地上の極樂何れにかなかるへからず。極樂には人間に似たる怪物多く棲み、其の巨大なる山嶽の如く高くして月に達す。極樂には大洪水なくして氣候極めて穏和なりと。此等の傳説冥想の出處は古代及び中世紀にあり。コロンブスは之に拘泥し猶ほフロレンスの天文學、トスカナ(Toscana)の物理學は彼れの想像に至大の影響を與へたり、コロンブスは己れの理想を實現せんか爲めに葡萄牙王の保護を仰かんと欲し、書を一葡萄牙人に送れり。コロンブスは其の書の複本を作れり。此の複本は今尙ほ存し、彼れか死に至るまで固く信じて疑はざりし所を窺ふに足るものなり。之に依れば西航西航、遂に香料、寶玉の國、富裕なる町、豊穰なる土地、強大なる王侯の國、大汗の國——即ち「印度」に達するを得と、斯かる空想を抱いてコロンブスは千四百八十三年葡萄牙に至る。而かも人の此の空想を顧み

るものなし。乃ち去つて西班牙に赴く。

彼れの手紙は半は魔術の如く、半は豫言の如く、人を動かすところ尠なからず。

『予は學者、僧侶、俗人、コラテン人、希臘人、羅馬人、猶太人、マウレン人、其の他多くの人々と交際したり。神は予に認識の心を與へ、航海術を授け、予の必要とせし星學を知らしめ給へり、幾何學及び算術又然り。此の間に於て予は歴史、年代記、哲學其の他のあらゆる書を繙けり』。彼れの西班牙王に送れる書に曰く、『神は陛下をして印度發見の企畫を志さしめ給ふ。之を陛下に告げしめんか爲めに神はその限りなき慈悲もて予を選び給へり。されば予は神の使者として陛下の御前に、否な基督教の信仰に於て修業を積み、其の信仰の傳播の爲めに努め給ひし偉大なる基督教界の君主の御前に來れるなり……』と。

尙ほコロンブスが聖書及び古代の名家の豫言を引用拔萃せるもの乏しからず。彼れの信仰は極めて熾烈にして神の使者なりとの信念を有し、聖墓は不信仰神者の領有すべきものに非らずと傲せり。

コロンブスはフェルナンド王の決心を待つこと既に一年、その間大膽なる希望を深く胸中に懷きて、或はコルドバ(Cordoba)に行き、或はセウイヤ(Sevilla)に住めり。彼れや性熾烈にして一

たひ口を開いて熱烈なる懸河の辯を振へは聴く者をして戰慄を覺へしめたり。

而して彼れは國王に對して如何なる要求を爲せしを——彼れは國王に求むるに新世界發見の曉は「アルミランテン」(Almiranten)の地位稱號を給ひて貴族に列せられ、新領土の大守(Vize-König)となり、其の領土の収入の十分の一を徴せんことを以てせり。彼れは西班牙及び新領土間一切の紛争は自ら之れか解決の任に當り、尙ほ軍備として収入の八分の一を得んと欲したり。西班牙王フェルナンドは此の熱烈なる冒險家の大膽なる要求に驚異の耳を敬て、皇后イサベラ又聰明にして彼れに同情を寄せたり。而かも彼れの要求は餘りに高きを如何せん、遂に王の容るゝ所とならず。コロンブスは去つて佛蘭西に赴かんとせしか、追跡せられて歸還を促かされ、遂に彼れの希望は容れられたり。是に於て彼れは出發の準備を整へ、千四百九十二年世界歴史的發見の途に就きぬ。此の發見の航海は實に後來お伽噺の題材となれり。吾等は幼少の時より此の航海の物語を知る。此の航海は實に驚嘆に價するものにして、一大歴史たるを失はず。コロンブスの日記は今尙ほ悉く保存せられ、吾等は詳細なる點に至るまで之か研究をなすことを得へし。カナリヤ島に於て彼れは損傷せる舵を修繕せんか爲めに一ヶ月間滞在し、更に未知なる西の方面に向つて進航せり。コロンブスは二重の計算を爲せり。其の大なる數は船誌に載せ小なる數は之を秘藏せ

り。彼れは航海の距離を測定せんか爲めに自ら大に元氣を鼓舞し、自ら先づ磁針の傾角を點檢す。暗らき地平線、風なき霧、海面に浮泛する藻等新世界に近づく徴候著るし。而かも乗組員は或は針路を争ひ、或は風波を恐れて不平を訴ふ。西班牙人は「リグレル」人を罵詈す。コロンブスは泰然自若として恐るゝ色もなく言つて曰く、萬難を排して鳥影を見んと。彼れは先頭第一に陸地を見出せるものには賞を與へんと約せり。一喜一憂交々至る。水中より木の枝、火力に依り、作られたる棒の如きものを探り上げたるもあり。既にして十月十二日の夜コロンブスは近く火の光を見、翌くれば早朝陸地に達するを得たり。バハマ群島(Bahama)の一なるグアナニ島(Guanahani)なり。コロンブス名つけてサン、サルバドル(San Salvador)と云へり。是に於てかコロンブスは新世界の最初の土を救世主の前に捧ぐることを得たるなり。

發見の航海は更に進んで、ハイチ(Haiti)キューバ(Cuba)イスパニオラ(Hispaniola)の二島に進みたり。既にして西班牙に歸航するや、コロンブスは最高の榮譽を擔ひ、家紋の外更にカスチリエン及びレオン並に青海波に黄金の鳥を描ける紋章を授けられたり。而して有名なる記念の詩は作られぬ。曰く A Castilla y León Nuevo Mundo dió Colón y

爾來コロンブスのなせる旅行に就ては今茲に之を述へす。コロンブスは失望と反逆と失錯と負

債との裡に其の生を終れり。近世殖民史の初めに於て有力にして最も意義あるものは人物なりとす。コロンブスは測り難き神秘の熱心を以て、一意専心理想を追求したる意志の人なりき。彼れは違算多かりしと雖も、猶ほ綜合の才あり、觀察力最も優越せり。彼れは其の事業を輕視せず、而して之に對する報酬の少なからんことを願へり。彼れは西班牙王を矯正し、輔佐すへき副王にはあらざりき。蓋し彼れは物質的にも精神的にも純然たる發見的性質の人なりしか故なり。晩年に於ては煩悶懊惱甚しく、戰慄すへき先覺者の運命に會しぬ。

第十六世紀の初頭、凡そ十年間に於て數多の發見家は西班牙の殖民帝國を數多の群島、中央亞米利加、南亞米利加は勿論、更に北方メキシコ、フロリダ等にまで延長擴大し、西班牙の膨脹力は寔に測り知るへからざるものありき。當時殖民地へ流れ込む移民の數は年々十六萬人に上れり。這は當時の西班牙の數百萬の人口に對比すれば極めて大なる數なりと言はざるへからず。誇張潤色されたる説話や讀物に依り、國民の冒險的好奇心は頗る高調に達し、幾十萬の人々は或は「ドラドール」(Dorado)を信じ、或は黄金の國を夢み、劍を提げ十字架を携へ、空の財布を打ち振りつゝ、海外發展の途に就けり。騎士あり僧侶あり強盜あり十字騎士あり野武士あり、何れも勇敢に

して冒險的の人々にして、支配權と富を夢みたりし人々なり。彼等は身を船舶に托し、原始林を伐採し沼澤を涉り溪谷を越へて、土人を強迫し掠奪し征服したり。

當時西班牙人の精神生活に多大の影響を與へたるは騎士譚なり。千五百八年ガリエン(Gallien)「アマチス」(Amadis)を世に出し、次いで無数の摸擬書現はれ悉く非常なる好評を博せり。書中に描出されたる此の有り得へからざるか如き恐ろしき空想的世界は、今や新印度に於て現實的となりぬ。千五百四十三年カール五世令を發して斯かる物語りの亞米利加輸入を禁止し、後十二年にして西班牙議會(Cortes)又之を西班牙に於ても燒棄すへきことを提議するに至れり。以て其の影響の如何に大なりしかを知るへし。

傳奇的潤色を必要としたりしや?、當時亞米利加は實に其れ自ら傳奇の世界にあらずや。ヴェネチエラ(Venezuela)の發見者オエダ(Ojeda)―彼れは此の湖上の村(Panhard)を小ベネシヤと名づけたり―は土人と戦つて悉く從者を失ひ自ら大楫を以て僅かに土人の毒矢を防ぎ、後不幸艱難の内に窮死す。ニクエサ(Nicuesa)は落膽して黄金國ヴェラグア(Goldland Veragua)の沼澤より遁れてバルボア(Balboa)の前に行きしか彼れはニクエサの上陸を拒み海に突き落して溺死せしめたり。バルボアは中央亞米利加を横斷して新たなる大洋に出てたる最初の人なり。彼れは此

の新太平洋を名つけて太平洋と稱せり。後彼れは總督と争ひ斬首せられ、非命の最後を遂げぬ。ジュアン、ボンシエ、ド、レオン (Juan Ponce de Leon) はキューバ (Cuba) の總督なるか土地發見を目的として軍をベミニー島 (Benini) に進め圖らずもフロリダに達せり。

メキシコを征服せるフェルデナンド、コルテズ (Ferdinand Cortes) は數ある征服者中最も同情に値する人なり。彼れは純然たる貴族にして、爲人思慮綿密、寡言沈黙にして科學的頭腦を有し、勢力絶倫、機智縦横、事を行ふや直截簡明能く要を得たり。其のカール五世に致せる彼れの大計畫の報告なるものは能く當時の歴史を語るへき最も貴重なる源泉にして、彼れの全勢力、彼れの質朴簡單、平然とし拘はらざる本質は此の中に躍如として現はる。

此の報告書の基調をなすものは彼れか其の部下と共に突如として遭遇し見聞せる格段にして驚異に値する境遇事件に就いての描寫なり。敏感伶俐なる彼れは忽ちにして此の新大陸には嘲笑すへき劣等なる野蠻性のみが存在するにあらずして、實に驚くへき雅致に富める特殊の文明の存することを洞見したり。此の意思鞏固なる將軍は多大の犠牲を拂ひし新大陸の首府、其の位置、地勢、氣候、風土、一半は建物にして一半は運河を成せる市街の建築方式、亞米利加印度人の風俗習慣、六萬の顧客を一時に收容し得る常設の市場を描寫し、其の市場に於て販賣せらるる貨物に

至る迄之を調査して社會生活の全斑を窺ふに足らしめたり。彼れの記述の最も詳細を極めたるは大建築物たる印度人の本山にして這は五百人の參拜者を會同せしめ得へく、其の塔はセヴィア (Sevilla) の本山のそれよりも高く聳え立てり。コルテズは彼れに取りて被護者たり臣下たり土人の生存に關する凡ゆる事項を研究したり。彼れは土人の巧妙なる水道を見て頗る驚嘆措く能はず。又此等の邪教徒か如何に器用にして圓轉滑脱たるものあるかを世に紹介せんか爲めに「アツテケ」族 (Azteco) に屬する二人の手品師を羅馬に送り、法王クレメンス七世 (Clemens VII) の娯樂に供したり。

吾人はメキシコの遠征に就ても亦多くを知る。ベルナル、デアツは此の最も著明なる武勇詩を著色し、有效にして適切ならしめたるコルテズの臣僚なりき。

嫉妬と軋轢とは征服史上常に繰返さるる現象なり。コルテズは己れの上官にして、キューバの知事 (Stichtaler) たるベラスクエズ (Velasquez) の明白なる意志に反して、メキシコ遠征を試みたり思へらくベラクルーズ (Veracruz) は黄金國なり。商業を行ひ以て大に利すへしと、即ちメキシコ遠征の志を起してベラクルーズに至る。此處に上陸するやコルテズは船を燒棄せり。——神話的なる豪勇の活劇は此に歴史的に實現せられたるなり。斯くて彼れは僅かに數百の手兵を提げて未

知の敵に向つて進む。向ふ所敵なし。されと漸くにして敵は西班牙兵を以て神の後裔なりとせし初めの迷ひより覺め、野心を抱藏して他國に侵入せる普通の人間なることを看取し、忽ち活氣を呈す。此の時第二の軍到りコルテツと總督との争闘を見んとす。——今や危険なる回轉は始まり。

コルテツ今は首府に留まること能はず。多大の損害を被り堤防を穿つて郊外に出つ。是れ實に壯絶なる夜樂(Notturno)なり。此の燃ゆるか如くに激せる敵の世界に對する勇猛なる決勝戦は第一位に置くべき軍事的の事業なりき。コルテツ後再び來つて首府を包圍すること七十有五日、首府また防戦努むる所ありしも遂に最後の勝利はコルテツに歸し、茲に新西班牙副王國(Vizekönigreich)は建設せられ、コルテツ其の最初の副王とはなりぬ。而して新たに建設せられたるメキシコに於ては土人の本山を廢して、新たに壯麗なる基督教伽藍の建築せらるゝを見るに至れり。

ペルー遠征はメキシコ遠征に比すへき好個の對照なり。ペルー遠征を企て之を成就せしはピザルロ(Pizarro)なり。彼れは身を下層より起し、劍を以て身を立てたるの人なり。彼れは掠奪と虐殺とを極め、古代式にして向上發展の氣概なき不思議なる國の殘骸を破り、知友と戰友を突いて成功を遂げたるの人なり。彼れの掠奪したる金額は四百五十萬「デウカート」に達せりといふ。彼

のピザルロの爲めに捕へられたる「インカ」(Inka) (ペルー王)は其の禁錮せられたる獄室に黄金を積むこと九呎、以て己れの生命と自由を得んことを乞へり。ピザルロ此の提言を容れ、黄金を掠奪し終るや假裝裁判に附し、斬首の刑に處せりと云ふ。アルマグロ(Almagro)はピザルロの友なり。彼れは更に南方豊裕の地を發見せんと企てたり。されと智利は西班牙人をして失望せしめたり。此の兩發見者は慘虐殘忍なる強盜劇の裡に其の末路を見出せり。

北亞米利加の大平原、ミスシッビー、中央亞米利加及び南亞米利加に亘れる第二位の事業中最も吾人の興味を感ずるはオリノコ(Orioko)に於けるアウグスブルヒ人ウエルセル(Augsburger bei Widaer)の獨逸商館の事業なり。千五百四十八年カール五世は此の地に於て眞の黄金國なりとせられたる采邑地を二名の獨逸人に附與したり。後千五百三十一年に至り此の地は王室の負債を償却する爲め、王領采邑地としてウエルセルの手に移され、之に封せられたる者は其の所有權を得ることゝなれり。ウエルセルは適當なる引卒者の指揮の下に農夫を移住せしめたり。商館の息子も此の地に到り、又ウルリッヒ、フォン、フッテンの從兄、フィリッヅも其の内にありき。されと其の事業は土地の事情の困難なると、西班牙の主權者の壓迫の爲めに、不幸にして失敗に歸したり。

茲に攻究すべき二個の最も重要な歴史的問題あり。第一は西班牙本國の此の殖民帝國より得たる所如何、第二は此の殖民帝國か殖民に依りて得たる所如何と云ふの問題、即ち是なり。

西班牙は此の新領土に陳腐なる社會を建設したり。彼れは其の徐々として歴史的に發達し來りたる社會事情、社會關係を出來得る限り殖民地に移植せんとしたり。即ち多くの人々の利益を我が有として、驕奢なる生活を營まんとする貴族の、此の地に移住するもの極めて多し。而かも彼等の冒險は多くは固より失敗に終れり。又發見航海の多くは何等の効果を收むるに至らざりき。而して幸福を追はんとする此等騎士の三分の一は再び故國に歸るの已むなきに至れり。舊西班牙より新西班牙に移植せられたる第二の要素は勢力ある僧侶なり。彼等も亦無限の特權を有し、西班牙の殖民的膨脹上主要なる任務たる邪教徒傳道の事業に従事せり。最後に尙ほ全能なる王室の官吏あり。大體より見るときは壓服と制御とを特徴とす。西班牙人は海の彼方の土地を一個の西班牙として發達せしめ、依て以て本國古來の精神及風俗習慣を保護し助長せしめんとしたるなり。斯の如き性質を有する殖民地は到底西班牙人の移住慾を喚起せしむるに足らざりき。只た千五百二十三年サン・ドミンゴ(San Domingo)裁判所の陪審官の大規模なる組織的土地開墾事業を

フロリダに行はんとしたることあり。カール五世は其の計畫を獎勵する所ありしも、遂に功を奏するに至らずして止みぬ。爾來開拓耕耘の動因は全く消散せり。移住民は富を得んことをのみ望みて、敢て自ら農業に従事するを欲せず。殊に當初「ヒダルゴ」(Hidalgo、西班牙の貴族)の如きは其の掠奪したる富を携へて故國に歸り新家族を造りて餘生を樂まんと欲したるものすら少なからず。最も多望なる南亞米利加、ブエノス・アイレス、カラカス(Caracas)等の地は掠奪すべき金銀財寶なきの故を以て久しく荒蕪に委せられたり。西班牙より移住せんとする者は國王の下付すべき特別の渡航免狀を要し、セウイヤより上陸して一定の州にのみ移住することを許されたり。是れ貧困にして思慮を缺ける者に取りては一大障礙なり。西班牙人は印度人と雜婚したるか爲め漸次雜種兒を見るに至れり。蓋し土人は低格にして不快なる人種として侮蔑せらるゝか如きことなかりし也。メキシコ王モンテスマ(Montezuma)の王女の如きは結婚に依りて「アツテケ」(Azteke)族の血統を西班牙の第一「グランデン」家(Grandenfamilien、貴族の名)に移植したり。

されど白人と土人と結婚するか如き社會的の尊敬は不幸にして今や政治的の放逐となれり。亞米利加に於て生れたる者は假令其の兩親か白人なる場合と雖も大官に任し高職に就くことを得ず。隨て西班牙人と土人との間に生れたる雜種民より成れる市に於ては相續財産を所有するか如

き人々も毫も元氣を有せず徒らに安逸を貪れり。斯くて新西班牙の社會は貴族的にして且つ懶惰なる氣風を醸成し、職業は辯護士又は僧侶を希望し、爵位稱號勳章其の他凡て榮譽を象徴する表面的形式を尊重憧憬し、商業農業を自ら經營することは全く之を蔑視したり。斯くの如くにして遂に一種の典型的「クレオール人種」(Creole race) (西領亞米利加に生れし歐洲人氣質) は生ずるに至れり。即ち快樂に耽り頹唐懦弱にして高慢なる氣風是れなり。而かも西班牙本國は其の主權を行ふ上に於て此の特徴を利用したり。此の白人と土人との混血ある殖民地に奴隸として黒人を輸入したるか爲めに更に第三の人種的要素を加へ、雜種をして更に複雑ならしめたり。黒人種は初めよりして全く卑下せられ、爲めに印度人の價値は減損し、其の結果黒人は一般社會より隔離し、怨恨猜疑に充てる一種の社會を生ずるに至れり。西班牙政府は此の如く勢力の多く分離絶せざるものあるを快しとせず、遂に智能ある者に對して特權を附與し、白人と同等の權利を與へて以て新たなる一勢力を造らんとしたり。斯くして混血種の有力なるものは其の支配を受くべき種族と利害を共にするに至れり。

西班牙の殖民政治上永續的の大なる難問題は廣く散布せる印度人の地位及び運命の問題なり。コロンプスは第二回渡航に際し金銀財寶を掠奪し得ざりしを以て土人を連れ歸り、奴隸として之

を賣却せんとしたり。然るに西班牙王は命を發して之を解放せしめたり。蓋し彼等は他の西班牙人と同しく國王の臣民なりしか故なり。千五百十二年フェルナンド王は印度人にして基督教に改宗したる者には凡て自由を與ふべく其の之を爲さざるものは敵と認めて奴隸となすべしとの布告を發せり。次いで土地の分配行はれ、各「借地」(Encomenda) に一定數の印度人家族を配當し、「地主」(Encomendero) は其配下の印度人保護の義務を負はしめられたり。即ち印度人は其の土地に附隨する勞働者にして、地主は彼等を改宗せしめ且つ教化するの義務を有せしなり。地主は印度人を其の土地より放逐し又は賣却することを禁せられ、印度人は唯だ一定の勞働を爲すべき義務を負へり。玉蜀黍の栽培、橋梁の架設、街路の保存等は即ち此の賦役に屬す。

千五百四十二年の有名なる法律は更に殖民地の状態を一變せしめたり。此の法律に依りて印度人は國王に直屬することとなり、第二階級の臣民として未丁年者の待遇を受け、永久西班牙人と區別せらるゝに到れり、例へば彼等は五「ピアステル」以上の負債をなすことを得ず。又其の財産の沒收を禁せられたり。斯くして印度人は經濟上の束縛を受け、其の一時的なる社會階級に束縛せらるゝに至れり。

其の後印度人は全く獨立を許されたり。されど印度人の固有なる自然的歴史的事情に依り其の

地位の微弱なるか爲めに此の獨立も全く實際的には用をなさざりしなり。

印度人問題解決の關鍵は今や精神的傳道となれり。「フランシスカン」及び「ドミニカン」兩派の競争排擠は極めて著しきを加へたり。而して「フランシスカン」派は主として西班牙國王の利益を代表し、土人に服の從義務を教へ、「ドミニカン」派は印度人に同情を寄せ、彼等に對する虐待と欺瞞を保護せり。「ドミニカン」派の僧侶ラス、カサス(Las Casas)は印度人の爲めに黒人奴隸の輸入を奨励せり。彼れは献身的に心を殖民問題に傾け、屢々透徹遠大なる改革意見を提出しぬ。彼れは又農夫の移住を激勵したり。

今大體に於て之を觀察するときは西班牙政府の印度人に對する保護政策は卓越公正にして印度人に對して同情を表せるは武士的なると同時に實體的なりと謂はざるを得ず。西班牙は其の臣民を賣買し又は賣買せしむるか如きことなかりき。印度人の婦女小兒は被護者なりと認められ、俘虜は比較的同情ある家僕の地位に置かれたり。黒人奴隸の待遇も亦西班牙の殖民地に於ては他國のそれに比し頗る人道的なりき。

宗教組合の傳道事業の盛なりしは十七世紀及び十八世紀を以て最とす。傳道事業は其の特質上

大規模なる組織にして人格觀及び社會觀の上に基礎を置き、主權的心理を以て之を行へり。千五百六十七年「セスイット」教派の僧侶、西班牙領亞米利加に至る。幾許ならずして信望と富とを得、茲に始めて權力に依る征服を變じて、組織ある宗教的征服となせり。所謂「コンキスタ、エスピリトゥアル」(Conquista Espiritual) (精神的勝利) 是れなり。彼等の功績顯著なるものあるや、西班牙政府はラプラタ領域(Laplat-Gebiet)に於ける印度人の保護、其の屈服及び其の文明の開発を彼等に對して正式に委託することとなれり。斯くの如くにして彼等の宗教的帝國は漸次擴大し、遂に「セスイット」教主義を體現せる「セスイット教國」パラグワイ(Jesuitenstaat Paraguay)を建設したり。宗教的、社會的、經濟的、政治的要素、理想及び實際は此の新たに建設せられたる國に於て智力上及び美術上驚嘆すべき一個體として結合せられたり。今此の公共國を一瞥せんか、其處には平坦なる市街あり、一樣なる小屋あり、共有の土地あり、其處に成人せる印度人は朝夕一時間の勞働を爲し、其の收穫の一半は寺院に捧げ、他の一半は勞働者の所得となる。傳道事業の中心には教會及び傳道師の住宅あり。遠く彼方には牧畜者の借地(Haciendas)散在す。小なる堡壘と守備兵ありて傳道事業を武裝的に保護す、傳道師は印度人と白人との接觸を避けしめん爲め、あらゆる手段を盡せり。言語は印度語を用ひ、舞踏並に音樂行はれ、個人の財産及び個人の意志

は共同的に解決せられ、高位の人の指揮の下に修學し、勞働し、生活し、死去す。『ペスイット』教徒は白人文明の全權を握りて、所謂此の中間國家ミッドル・エーション・ネーションの創造者たり主君たるものにして、亞米利加印度人より敬愛せられて、政府の信用を維持す。

殖民地の行政は次の如く組織せらる。全土を分つて新西班牙及びベルーの二副王國Virreinato (Vireinato)となす。其の内ベルーは上位を占め、新西班牙の副王Virreyは其の地位に昇ることを得。副王の下には二十九人の太守(Gobernador)あり。裁判管轄區を別つて九となし、宗教行政は四人の大僧正之を管轄し、二十四の僧正此の下に屬す。西班牙の國王は法王の許可を得て亞米利加教會の最高支配者たり。副王は最初は完全なる國王的權力を有せしも、其の後多少制限せられ、形式的の大なる代表者たるに過ぎざるに至れり。彼等は官舎を有し、侍者を置き、壯麗なる祭典を行ひ、特に就任の際には立派なる贈物を受く。本國の殖民省は印度會議(Indiferente)にして、行政及び立法に關する事項は悉く此より發す。

西班牙の殖民地行政は第十七世紀及第十八世紀に於て個々改廢せられしも、其の特徴たるや特殊のものたるを失はず。此の制度は確固たるものにして又合理的のものなりき。而かも又夫は確に奇異偏屈のものなりしと雖も、尙西班牙國は成功を齎らし、新世界に其の特質を發揮し、世人

をして西班牙殖民地の價値及び發達の外多くを知る所なからしめ、而して此の秘密と國家の得たる權力に對する尊重とを相關聯せしめざるを得ずとの感の特に深からしめたり。

西班牙の殖民地は本國に取り如何なる價値を有せしや？、十八世紀に於ける西班牙の經濟學者は、西班牙は殖民地より數百萬の金銀を得たるも、尙ほ利益は其の損失を償ふに足らずと主張したり。此の事たるや、吾人の判斷に依れば歴史的には何等の根據なき見解たるを免れず。年々四千乃至五千噸を有する數百隻の船舶は彼方に向つて出航し、商人は二十割の利益を收めたりと稱せらるゝにあらずや。而かも此の事たるや殖民地の資源を利用すること未だ完全ならざりしチャールズ五世の時代なりしなり。當時本國歸航の一艦隊は十億「マラベデイス」を持歸れり。而してセビヤは殖民地の爲めに小王國の都市となれり。

西班牙は十六世紀に於て實に經濟上最も隆盛を極めたり。其の商業及び工業は異常なる發達を遂げ、羊毛工業のみにも既に全國民の三分の一を給養し得るの狀態に在りき。故に西班牙が當時人力と財力とに於て多大の犠牲を拂ひ、而かも其の利益の莫大にして絶へず増大したるは毫も怪しむに足らず。國民の生活は成功の擴大によつて益々異常の刺戟を受けたり。多數の人をして富裕ならしめたりし金銀寶石の西班牙に流入したる結果は今茲に敘述するの要なし。亞米利加の

金銀に困りて惹起せられたる物價の騰貴は西班牙工業を高價ならしめ、終には其を麻痺せしめたり。而して殖民地は初め本國を著しく發展せしめしも、其の反動は内地國民經濟上に困難を及ぼすに至れり。此の衰運は既にフィリップ二世の時代に生まれり。此の事たる固より一般史上に於ては獨り經濟上の事變のみに因るにあらず、實にフィリップ二世の宿命的自殺的なる強國政策 (Grossmachtpolitik) の然らしめたる所なり。フィリップ二世にして若し歐洲大陸に於ける宗派の軋轢争闘の緩和にのみ没頭することなかりせば、或は本國と殖民地との間に鞏固活潑なる連結と兩者の有利なる相互的關係とを得たるやも計られざりしなり。

西班牙は殖民地を以て政治的にも精神的にも西班牙の一州たらしめんとし、經濟上に於ても亦之を其の官有財産なりとのみ認めたり。獨占思想は總て最も嚴格なる思想を生み、外國思想、外國品、外人旅行家等は凡て「ドラコ」的の峻嚴なる措置に依りて壓迫せられ、西班牙領海に在る外國船舶は撃沈せられ、上陸せる外國水夫は殺害せられ、若くは鑛山に於ける強制勞役を課せられ、又殖民地の生産は全く本國の需要に應ずる様のみ獎勵せられ、本國に於て用ひられざるものは内地生産との競争を來すものは、恰かも葡萄木を切るか如くに根絶せられたり。

亞米利加貿易を監督せしめんか爲め、セビヤに有名なる *Casa de Contratación* を設置したり。

——經濟政策上の中央官廳なり。亞米利加行の船舶は凡へて該官廳の検査を経ざる可らざりしなり。チャールス五世は一般に自由主義を採りたる人なるか、亞米利加貿易に就ても之を自由なる組織たらしめんと勉め、セビヤの獨占を除かんとせしか、其の事成功せず。後千七百二十年に至り、グアダルキビール (Guadalquivir) 河の砂にて塞かるゝや、漸くセビヤの獨占權はカディツ (Cádiz) に移るゝに至れり。輸入獨占は何等の變更を見ざりしか、殖民地への輸出は一時寛大にせられたることあり。カナリヤ群島は初めより亞米利加への直接輸出を許され、西班牙及び其の屬地の有名なる港も亦一時之を許されたり。チャールス五世は和蘭及び獨逸の商人の爲めに便宜を計れり。亞米利加貿易を確實ならしめんか爲め輸出を制限して、年々船舶二隊 (*Schiffskarawan*) 以上を送ることを得ざらしめたり。其の一は「艦隊」、即ち所謂銀艦隊と稱せられ、ヴェラクロナ (*Vernacuz*) を以て出發港となし、他の一は「ガレオン」 (*Galleonen*) と云ひ、パナマ地峽に於けるポルト、ベル (Porto Belle) を其の出發點と爲せり。貨物の價格は、輸出港に於て精確に之を定め、投機と競争とを防止せんとしたり。リマ (Lima)、メキシコ及びカディツに於ける商會社が本國市場の必要なる手配により價格を人為的に高く保たしめ、以て調和を得るに努めたることは、極めて興味ある事なり。斯くの如くにして商業は頗る盛大に赴きしも、生産及び一般の

經濟生活は毫も之に伴はず、極めて不活潑なるを免れざりき。

○西班牙國王の發せる獨占法は、其の後和蘭、英吉利及び佛蘭西等新進の海上強國の爲めに其の海上權を蹂躪せられし以來、實際に行はれざるに至れり。戰時禁制品、海賊、海上の『自由』は西班牙の殖民地支配權を最も著しく微弱ならしめ且つ妨碍し、此の非商人的國家は活潑なる國民の資本的企業によつて壓倒せらるゝに至りたり。彼れの面影のみは其の後長く威嚴を保ちたりしも、事業は大部分外國人の手に移れり。一千六百十年カスチリエン(Castilian)に在住せる外國人は實に十六萬人の多きを算し、隨つて亞米利加貿易は大部分外國人の經營する所となれり。佛國は夙に西班牙の殖民地を占領せんことを計畫し、『ガレオーネン』に加はり、黒奴賣買の獨占權を佛國ギニア會社に引渡さしめたり。英吉利は勝利の結果、千七百十一年黒奴賣買の獨占條約に干涉を試み、遂に南亞米利加に對する黒奴賣買の特權を獲得せり。密貿易は例へばペルー産物の互市場たるブエノスアイレス(Buenos Aires)の如き地を繁榮ならしめたるものなるが、今や益々擴大せる正當なる商業と創業的活動とに依りて驅逐せらるゝに至れり。

「ブルボン」王朝の時代に於ては行政及び商業政策上強制的制度を廢せんとしたり。當時殖民地

は隆盛に赴きたりしと雖も、這は固より主として外國人の援助に因れるものにして、本國は其の威望を強大ならしめんか爲めに、其の勢力を殖民地に扶殖するか如きことなく、分離獨立の機運は漸く顯著となり、偶々「ゼスイット」教徒の放逐は殖民地に非常なる惡印象を興へ、米國産の歐洲人は惡感を懷き、合衆國の獨立戰爭は彼等に對して誘惑的の例を示したり。斯くて西班牙の佛蘭西の爲めに一たび戰爭と宿命の渦中に投せらるゝや、殖民地に於ける獨立の精神は益々強烈となり、既に倫敦に於ては不平者を糾合して秘密同盟、即ち Gran reunion Americanas を組織するの狀況とはなれり、英國は南亞米利加に根據を求めんか爲め大なる計畫を立て、和蘭のカープランドを占領したる艦隊をブエノスアイレスに送りて之を襲撃せしめたり。提督ペレスフォード(Pe-
restford)は一たび上陸したりしも、愛國者の反抗に遭ひて其の意を遂ぐるに能はざりき。斯くてブルボン王家がナポレオン^ナの爲めに王位を奪はれしときには殖民地は新たなる困難に遭遇したり當時殖民地はナポレオンなる野心家と何等の聯絡關係を有せざりしと同しく、西班牙の國民議會とも亦密接なる聯絡を有せざりき。亞米利加産の歐洲人は今や其の利害關係の爲めに活動を始め自由思想の支持者たると同時に殖民地の國民的獨立の代表者となるに至れり。斯くて革命は終に勃發しぬ。ヴェネチエラ及びブエノスアイレスは卒先して獨立を宣言しウルグアイ、パラグアイ、

ボリヴェイヤ、コロンビヤ、チリに次ぎ西班牙の勢力の根據地たるペルーは最も永く抵抗を續けたり。ボリヴェイヤル(Bolívar)及びサン・マルチノ(San Martín)は變化多き戯曲的なる此の戦争の大立物なりき。メキシコは初め慎重なる態度を取りしも、土人の反亂により局面轉回して、遂に亞米利加産歐洲人と西班牙とは聯合するの餘儀なきに至れるか、而かも南亞米利加諸國の最後の結果は亞米利加産歐洲人と土人の結合となり、爲めに西班牙の主權の運命は遂に結末を告げたり。

其の後「ブルボン」王家の再び西班牙の王位に即くや、其の殖民帝國を維持せんか爲めに大なる試みを爲せり。其の曲折、副王の争闘及び千八百二十年の西班牙革命の反動に就ては、今茲に之を論せず。南亞米利加及び中央亞米利加共和國は英吉利及び合衆國の承認に依り其の獨立の確定して以來、過渡期の困難に打勝たざるを得ざりき。凡て新たなる立憲的組織は在奉の事情に適應せず、上流を占むる小數の白人種と多數の亞米利加印度人とは互に反目し、人民の快樂に耽ること、放逸なること、個人的慾望、兵士の放恣なること等は此等の新國家發展の障害となれり。未開人と半開人とは暗裏に相闘ひ、土地境界の争、野心家の争闘、不確實なる財政計畫相踵いて起り、最後の決定は常にナポレオン風の芝居染みたる將軍の手中に歸するの有様なりき。宣教師ヒダルゴ(Hidalgo)、メキシコ王イテウルビデ(Iturbide)、エクアドルの執政官フロレス(Flores)、ブラ

グワイの執政官フランシア(Franca)、此等は皆此の争闘に於ける冒險的の人物なりき。然れども十九世紀の中葉以來、南亞米利加及び中央亞米利加の經濟的意義並に其の將來は將に發展の機運に向はんとしつゝある世界經濟に對して益々重大となるに至れり。外國人、殊に主として英國人の資本によりて支持せらるゝ工業は侵入し、廣漠たる人口稀薄なる土地は歐洲人移住の主たる目的地となり、殊に大膽なる投機者は競ふて南亞米利加に移住し、國土は忽ちにして著しき鐵道網を以て覆はれ、今や土地の資源を開發し大なる經濟上の利益を求むるの要_をことを認むるに至れり。現今此等の諸國、就中エ、ヒ、シ、國(A-B-C-Mächte)即ちアルゼンチン、ブラジル及びチリの三國は最も有望なり。

西班牙の殖民地を北亞米利加共和國の例に倣ひ、南米の合衆國として獨立せしめんと最初の思想は實現せられずして止みぬ。然れども彼等の共通の由來と利害は彼等をして北部の優勢なる國家に對して密接なる關係を保たしむるものなり。殊に合衆國か自ら殖民國となり、西班牙より其の最後の海外領土を奪ひし以來、南米に於ては或る疑念の發生を見るに至れり。合衆國の「コロンビア」共和國に對する態度、及び「パナマ」地方を占領せし如き方法は、此の氣分を益々濃厚ならしめたり。

されは他の方面に於て汎亞米利加主義は議會其他公の機關に於て盛に論せらるゝに至れり。古き本國たる西班牙は姉妹國の此の新しき國の駭々として盛なる運命と期望とを傍觀して、轉た憂悶悲哀の念に堪へざるものあるへし。統計の示す所に據れば西班牙のペルー及びチリに對する貿易は瑞典、伊太利のそれよりも少額なり。されと此の經濟的觀察は、未だ以て全盛と最も重要なものとを語れるものに非ざるなり。何れの世界的強國と雖も、永久に其の全盛を維持し得たるものはあらず。全盛には必ずや又衰運と滅亡とを伴ふを常とせり。指導國民に一度世界的旭日の輝けるときは又世界的黄昏に入れるの時なり。而かも西班牙國民か世界の大半に其の言語と其の文化と其の精神とを赫々として輝かせしことは誠に偉大なる事業たるを失はず。

第三章 葡萄牙の殖民

海陸發見の歴史上に於ては西班牙人と葡萄牙人とは相並んで立ち、略々同様に尊敬せらるゝを常とす。されと殖民的事業の見地より見るときは必ずしも然らず。葡萄牙人は航海者として甚だ重要な成績を挙げ、ゼノア人(Venesean)、ベネチア人(Venezianen)及び和蘭人と相匹敵すべし。然れとも海洋の彼方に、生活力旺盛にして持續すべき國家的團體を建設したる國民中に於て

は、葡萄牙人は其の最後に位すべきものなり。

十五世紀に於て、首府をコイムブラ(Coimbra)よりリスボン(Lisabon)に移轉せし以來、此の新都府は赫々たる發見旅行者の出發點となりたり。航海者ハインリッヒ(Heinrich)は曾て自ら發見旅行に参加せざりしと雖も、而かも之か一大獎勵者なりき。斯くてヴァスコ、ダ、ガマ(Vasco da Gama)は斯る事業を成功せしめたり。而してエス、ルীগ(S. Ruigo)は、歴史上の價值より其の成功をコロンブスのそれと比較せしが、是れ固より當然なり。航海上の事蹟としては、彼れの成功は必ずしも偉大なりと謂ふを得ず。蓋し彼れはコロンブスの如く全く未知の海洋を探檢せしに非ずして、沿海を航行し經驗に富める水先案内と其の行を共にせしなり。而かも彼れかコロンブスよりも幸運なりしは、彼れか努力せし目的の達せられ、彼れか希望したる一切の物質的利益を新國土より齎らせるの點にあり。此の事たるや、確かに葡萄牙人の名譽とするに足るものなり。彼等は最初印度への航路を開かんと苦心し、一世紀の永き間種々なる計畫を企てたるの結果、漸くにして其の目的を實現することを得たり。コロンブスは西班牙の國王に新世界を贈りし故、國王は之を占領し、利用すべきものなりしなり。ヴァスコ、ダ、ガマは祖國及び歐洲の久しく希望したりし、世界人類の半を占むる印度及び東洋との直接の交通を開きしものにして、其の文化上

並に經濟上の大なる價值は其の長航程の成績に照して、世人の既に熟知せし所なり。ヴァスコ・ダ・ガマの功成りて復ひ故國に歸來するや、葡萄牙の國王は「エチオーピエン(Aethiopien)」、アラビヤ、ペルシヤ及び支那の征服、航海及び商業の主」なる稱號を與へたり。カモイス(Camões)は彼の「ナシアーデン」(Tusinden)なる、葡萄牙の英雄及び發見時代記念の叙事詩第六節に印度海岸に到着の事を感歎して叙述せり。

亞細亞への航海及び通商は新發見の航路に依りて忽ち開かれたり。當時印度王はカリクート(Calicut)に於て葡萄牙人を引見して言つて曰く、「我れに肉桂、芳香石竹、薑、胡椒、眞珠、寶石あり。外國の金、銀、珊瑚、緋と交易せん」と。然れども斯る貿易を平和の裡に行はんは内部の事情の到底許さる所なりき。葡萄牙人は女王及び教會の爲めに新發見地を獲得せんとせしも、彼等の能力は持續して其の目的を達するに足らざりき。

葡萄牙の殖民の初期は極めて壯烈にして偉大なりき。最初の副王ド・アルメイダ(Vizekönig d'Almeida)はデイウ(Diu)に於てエジプト艦隊(千五百九年)を敗り、元帥ド・アルブクエルク(D'Albuquerque)はアラビヤ人及び印度人と戦ひ、ゴア(Coa)を占領し、マラッカを略取し、轉じて紅海に沿へるオラムス(Ormus)の方面に到り、葡萄牙の交通に至大の影響を及ぼすへき地中海の

貿易を撲滅せんとせり。彼れは艦隊に依つて海上通航を保護するは萬全の策にあらず、宜しく先づ國土を占領し克服せざるへからずとなせり。彼れは實にアレキサンダー大王を夢みたるものなり。彼れは生れなからにして優越せる統裁の才幹を備へ、其の計畫、公平及び報酬を喜ぶの點に至りては全く王者の風ありき。而かも彼れの計畫は彼れ自らは勿論其の後繼者も亦遂に之を實現すること能はざりき。彼れは實に燦然たる軍事上の功績を擧ぐることを得たりと雖も、亞細亞人の富と國民力との異常なる壓迫は葡萄牙人の求めんとしたる連絡を益々破壊するに至れり。

勿論葡萄牙の貿易上の利益、海上に於ける勢力及び國民の名譽の増大したることは、西洋諸國に極めて大なる印象を與へたり。千五百十四年葡萄牙國の公使、羅馬に於てレオ十世(Leo X)に引見せらるや、彼れは黄金の箱及び教會用の多數の寶石を以て飾れる衣服を之に捧呈したり。後更に其の「か古代より伊太利にありと云はるゝ巨象と立派なる馬に跨れる豹を献上せり。其の象はエンゲルスブルグの法王の前にて三たび跪きしといふ。歐洲人及び耶蘇教徒の爲めに今や世界は頗る廣くなれり。葡萄牙人はシャム、支那及び日本と交通し、スンダ群島に其の居を占めたり。カブラール提督(Admiral Cabral)は東亞弗利加に於ける會長等と接觸し、漂流中ブラジルを發見せり。

冒險的精神、通商慾並に傳道熱は葡萄牙人を驅つて大陸に移住せしめたり。而して彼等の建設せしは商店、給糧所、物貨集收所等にして此等は要塞によつて防禦せられ、傳道事業と連絡を保てり。葡萄牙人は亞弗利加に主要の目的を有せず。只た印度への仲次所として此處を占領せるに過ぎざりき。沿海航行は土地を占領し、此處に糧食供給及び避難を爲し得る如き碇泊所の建設せらるゝに至つて、漸次に容易となれり。此等の地には未だ人を移住せしむることなく、屢々豚、山羊等の家畜を棄て去りしか、此等は漸次繁殖し、數年の後には船舶の糧食供給に利用せらるゝに至れり。亞弗利加沿岸は砂漠多くして望みを囑するに足るべき處少なく、加之土人と有利なる貿易を營むこと能はざるか故に、黒奴賣買の開始せらるゝに至るまでは葡萄牙人は之を放棄して敢て顧みる所なかりき。最初の殖民計畫の際、珍らしき足跡は發見せられたり。リヴィングストン(Livingstone)は旅行中「セスイット」教徒及び黑人ベネディクト教徒の大建築物の古跡を發見せり。當時黒人は往古の遺物として讀書術及び書法を知り居りしなり。又千八百九十三年獨逸軍艦の艦長は獨領西亞弗利加のワルフイッシュ灣(Wulfshohel)の沿岸に於て葡萄牙の紋柱「パドラーオ」(Padrao)を發見せしことあり。此の紋柱は主權者の記號として用ひられたるものにして、

之に「ディオゴ、カオ」(Diogo Cão)の銘を刻しありき。

葡萄牙人は空想的に亞弗利加及び印度を征服せんと努めたりしか、而かも只た印度との通商を開くことを得たるに過ぎざりき。尙ほ彼等の主眼とせし所は印度との貿易を獨占せんとするに在りき。彼等はヴェネツィヤ(Venice)の例に倣ひて歐洲と亞細亞との仲介者となり。以て貿易に依りて莫大なる利益を占めんと欲したり。而かも此の貿易たるや實に欺騙商法にして、些少の販賣に依つて多大の利益を占めんとしたりしなり。彼等は實に亂暴なる方法に依り、或は暴力を用ひ、或は海洋の危険に關する虚偽の報告を爲して、其の競争者を排除し驅逐せんと企てたり。而して純然たる通商上の立脚點より見れば、要塞の建設及び衛戍兵の駐屯は元來無用の長物たりしなり。

千六百十三年に最初の英國會社より公使として大蒙古帝(Grossmogul)に派遣せられし英人サー、トーマスロー(Sir Thomas Roe)の報告を見るに、彼れは葡萄牙の制度を最も痛切に反駁して曰く、「戰を爲さんとする者は利を收むる能はざるへし」と。葡萄牙の殖民の一大弱點は之に依つて曝露せられたり。葡萄牙人は征服を行はんと欲して、而かも之が爲めに失敗を招き、後更に國家の権力と軍事上の勢力とを用ひて印度通商の經濟的利益を獲得せんとせしも復た之が爲

めに失敗の悲運を見たり。當時葡萄牙は和蘭及び英吉利に於けるか如く、商會社に對して特許狀を附與することなかりき。葡萄牙の國王は萬事を親ら掌握し、通商に用ふる巨大なる船には武裝を施し、之に數多の水兵及び水夫を乗込せしめたり。當時英吉利及び和蘭は此等の「カラクエン」(Caraqueen)、往古葡萄牙及び西班牙の戰鬪又は通商に用ひし巨艦なり)を捕獲せんとして盛に競争したることあり、フランシス・ドレーク (Francis Drake) は斯る巨艦を倫敦に送り來り、之に依つて大に同市の商人の企業心を刺戟し熾烈ならしめたり。サー・ウォルター・ラレー (Sir Walter Raleigh) は七百の兵と三十六門の大砲とを備へたる葡萄牙の一巨艦を捕獲したり。之は從來の捕獲船中最大なるものなりしと云ふ。此等の巨艦の積載せる貨物は香料、絹、金粉、眞珠、生藥、陶器、象牙等なりき。

葡萄牙人は近代の意味に於ける貿易を營みたるには非らず、寧ろ隨時掠奪遠征を爲したるに過ぎず。故に目的は毫も達せられざりしなり。彼等にして若し正當にして多方面なる貿易を行ひしならんには其の利益更に夥しきものありしなるへし。海上の支配權、並に之か確保の如きは、毫も未だ彼等の念頭になかりしなり。凡ての歐洲國民はリサボンに於て糧食の供給を受けざるを得ずとは、葡萄牙人の自負心を満足せしめんとする諛言に外ならず。幸にして葡萄牙人は其の繼續

者として和蘭人を得たり。和蘭人は歐洲列國の爲めに曾て葡萄牙の營み得ざりし、用意周到にして效果多き販賣代理業を營めり。

葡萄牙の活動と其の動作は單に彼等をして其の亞細亞に於ける地位を全然失はしめたるに過ぎず。上流階級は黄金の波に酔ひて風俗全く頹廢せり。而して葡萄牙人の暴行及び掠奪は幾多の騷擾を惹起せしめ、土人の彼等に對する怨恨憎惡は其の極に達し、商人は實に利を營むに汲々たる冒險の士にして、官吏は實に暴君なりき。クサボン政府は之に何等の干涉を試みず、各三年毎に人員は悉く更替せられ、成金たらんとする人々の新荷は外國に向つて出發せり。文武官は自ら商業に携はることを得たるか爲めに數多の私人獨占を見るに至れり。

千五百八十二年葡萄牙の西班牙と合併して偶然的同君國となるや、爲めに此の脆弱にして腐敗せる殖民帝國は最後の運命に近づきぬ。而して葡萄牙は其の亞細亞に於ける全殖民地を擧げて西班牙の敵手に奪はれ、僅かに現今領有するゴア、マカオ及びチモール島 (Timor) を保つに過ぎざるに至れり。

斯くして印度貿易は全く葡萄牙の手より去れり。而して黒奴賣買は葡萄牙人に取りて最も喜は

しき補足とはなれり。ギニア、コンゴ、アンゴラ(Angola)は奴隷賣買の主要地にして、其の後モザンビク(Mozambique)亦之に加はれり。サント、パウロ、デ、ロアンダ(S. Paulo de Louanda)は黒奴輸出の第一要港なりき。

「マウレン」族(Mauren)との戦争以來、奴隷の使役は西洋に於ても行はるゝに至れり。而して既に第十五世紀に於ては亞米利加の黒奴はラゴス(Lagos)より葡萄牙に送られ、陸地發見の進捗と共に益々奴隷の賣買殷盛を來せり。亞米利加印度人は身體薄弱にして過激なる勞働に堪へざりしか爲めに奴隷は更に亞米利加にも移殖せられたり。西班牙政府は奴隷賣買を禁止し、財政上の利益を計らんとし、一定の手數料を支拂ふときは個々若くは會社に對し一定數の黒人を亞米利加の諸港に輸出する事を許可したり。最初は奴隷の需要數を四千人と定めしも、爾來其の數を上下したり、此の奴隷輸入の獨占條約は、『黒奴條約』(Negersoluto)として歴史上有名なるものなり。奴隷の需要は甚だ多く殖民者は屢々勞働者缺乏を訴へたり。亞米利加に向つて輸出せられたる黒人總數は人に依り其の計算區々なれども、少くとも九百萬人を下らざるへし。第十八世紀の後半に於ては其の輸出人員年々六萬乃至十萬に上れり。而して其の平均價格の三十磅なりしを見れば其の收入の如何に著大なりしかを想像するに足るへし。奴隷の主要供給地は葡萄牙の殖民地な

りき。英吉利の黒奴條約成るまでは葡萄牙人及び和蘭人に於て奴隷賣買を行ひたりしか、爾來英吉利人の主たる事業となり、總奴隷賣買の殆んど半を占めたり。亞弗利加殖民地の全行政は奴隷賣買に最も大なる關係を有す。築堡せる店舗は彼等葡萄牙人の根據地にして、鐵棒、武器、煙草、木綿は其の貿易品なりき。而して殖民地の豊饒なる土地は毫も開發せられざりしを以て、葡萄牙人の日用飲食品すらも之を得ること能はず、亞米利加及び東印度よりモザンビクに砂糖の輸入を仰ぐの已むなき状態に在りき。亞弗利加に於ける葡萄牙人の行政及び經濟は腐敗其の極に達せり。革新文學時代に大なる攻撃を招き漸く行はれたる改革は、遂に成功せずして止みぬ。内地に向つて領土を擴大せんと企ては時々計畫せられたれども、中途にして挫折するを常としたり。傳道の効果も亦微々として見るに足るべきものなく、第十九世紀の初頭に於て基督教徒は漸く千人に達せるに過ぎず。千七百九十九年に至り始めてモザンビクに公立學校建設せられたり。是れ實に葡萄牙人の此の地に殖民せし以來三百年を経過したるの後なりしなり。此の地の行政組織の如何は、モザンビクの行政當局者が千八百四十二年デラゴア灣(Delagoa)頭に於ける堡壘の破壊せられたるを、漸く一年の後リオ、デ、ジャネイロへの途中に於て初めて知り得たりとのダルムスット人(Darumstüder)の報告を讀まば、以て其の一斑を推すに足るへし。

葡萄牙は千八百三十六年他の諸國に比し最も遅く奴隷賣買を禁止したり。されと亞弗利加の殖民地に於ては千八百七十八年までは法律上奴隷賣買行はれ、其の後も尙ほ密かに行はれたり。奴隷賣買は數世紀の間、勞働者の無盡の貯水池とも稱すべきものなりしを以て、之か廢止は實に全亞弗利加に取りて一大危機なりしなり。斯くて亞弗利加の開発及び支配の凡ゆる問題は、今や根本的變動を見たり。之か爲めに最も大なる影響を受けたるものは葡萄牙の殖民地なり。葡萄牙の殖民地は木綿、珈琲、砂糖、煙草等の栽培に依りて漸次其の補ひを求めたり。されと資金の乏しきか爲めに、栽植事業及び貿易は大部分佛蘭西人、英吉利人及び亞米利加人の手に歸せり。後千八百六十年代以後に至り漸く隆盛の兆を呈し來り、亞弗利加の開拓及び分配は葡萄牙殖民地の價値を高め、其の經濟状態を良好ならしむるに至れり。從來此の地の状態は極めて不良なりき。英國は千八百九十年葡萄牙と數個の強制條約を締結せり。爾來葡萄牙は殖民地の地位を保たんか爲めに、金力と人力とを傾けて之か經營に努力したり。多くの國際協會は此等殖民地に存在する大なる資源を利用せんか爲めに努力し、而して葡萄牙人は之に大なる望みを囑し居れり。

葡萄牙人は其の奴隷賣買上好個の販路としてブラジル殖民地を得たり。西班牙人と葡萄牙人の

ブラジルを發見したるは殆んど同時なりき。千五百年西班牙人ピンゾン(Pinzon)は初めて此の地に上陸し、土地の状態自己の意に適ふ所少なかりしを以て國王の特許狀を得たるに拘らず、再び足を此に止めざりき。此の年カブラール(Cabral)も亦印度に航海中此所に上陸したり。初めの程は葡萄牙人は此の蘇方木^{ブラジルの木}の産地に至大の興味を感せざりき。此の地の宗教上及地理學上の關係は之に隣接せる西班牙の殖民地のそれと同一なりしを以て、之か處置も亦隨つて西班牙と同様の方法を採るの必要ありたり。而して殊に葡萄牙と西班牙との合併以來、采邑の分與、都市の建設、宗教上の傳道等の行はるゝを見るに至れり。此の地に於ても亦「ゼスイット」教徒は大なる功績を挙げ、又法律を設けて印度人を解放せんと欲したり。されと此の法律はブラジルに於ては全く有名無實に終りたりき。政治上に於ては葡萄牙の主權は屢々動搖するを免れざりき。佛蘭西、英吉利及び特に和蘭は盛に其の主權を獲得せんと努めたり。之か爲めに激烈なる争鬭は幾度となく行はれしか、當時葡萄牙は紛亂の状態にあり且つ其の能力劣等なりしに拘らず、辛くも其の土地の大部分を保持することを得たり。葡萄牙は奴隷賣買に依りて、低廉にして強大なる勞働者を求むることを得たり。又數多の葡萄牙人は此の地に於て土人と雜婚し、亞弗利加に於けると同じく内地の森林中に於て冒險的にして野蠻なる生活を營みたり。第十七世紀の中葉にはブラジルに

於て「パルマヨレス」國(Shant Palmares)と稱する奴隸國の成立を見、其の入口は忽ちにして二萬人となりしか、メロ、デ、カストロ總督(Generalkapitän Mello de Castro)の爲めに夷滅せられたり。

此の地は又罪囚及び猶太人の追放場として用ひられたり。而して此等の追放せられし人々は殖民史上屢々見るか如く、此の新なる土地に於て極めて有用なる要素となり、彼等は何等の監督を受けず、又故國に於けるか如く細事にまで干渉を受けず、其の精力を發揮して大にブラジルの發達に貢献したり。猶太人は此の地に於て甘蔗の栽培に従事し、之に依りて此の地の著大なる發達を促かしたり。

ポムバール大臣(Minister Pombal)は印度人に對し、身分上及物質上白人の移住者と同等の自由を與へたりと雖も、一定の勞役義務を課し、舊來の隸屬に代ふるに新たな隸屬を以てしたるか爲め、奴隸解放の實質的意義を全く没却したりき。而して其の改革は悉く實際に適應せず、往來の社會組織及び從來の經濟組織の根柢を全く破壊したり。熱帶的農業の開始と共に、ブラジルには多くの勞働者を必要としたるを以て、奴隸賣買は更に盛となれり。ブラジルは亞弗利加海岸に最も近く、奴隸賣買上極めて有利なる位置を占めたり。蓋し奴隸を船舶に依りて運送するときは、

其の運送船の不衛生なるか爲めに、途中黒人の死亡するもの少からざりしか故なり。

既に農業開墾の著しく發達せる時に當り、更にブラジルに於て地下の寶庫の盛に發見せられたることは、益々其の繁榮を促かすの動機となれり。第十七世紀の後半に至つて始めて砂金洗採の効果著しきものあるを見、千七百年には遠く内地に於て最初の金鑛發見せられたり。ブラジルに移されたる歐洲の罪囚と、印度土人との雜種兒たる「パウリスタス」(Paulistas)は、主として此の事業に従事せり。此の「パウリスタス」は暫くの間は本國に對し冒險的なる獨立を迫り、西班牙の傳道者と屢々衝突したる事ありき。第十八世紀の中葉に至りては金鑛採掘に従事する者八萬人の多きに及び、本國に對する輸出額は年々六千萬馬克を算したり。尙ほ金剛石産地の發見は更に大なる効果を齎らしたり。之か採集は一特許會社に於て専ら之に従事し、而して葡萄牙政府は凡ゆる特殊の方法を用ひて金剛石の採集高を制限し、以て其の價格を高く保たんとしたり。密賣者は何れも嚴重に處罰し、甚しきに至りては之を死刑に處したり。リオ、デ、ジャネイロ(Rio de Janeiro)の繁榮は全く金剛石の功に歸す。多くの點に於て殖民地中の最も幸運兒たるブラジルはナポレオン時代に於ても英吉利の厚意に依りて彼の和蘭、西班牙及び佛蘭西の殖民地に於けるか如き不幸に遭遇することなかりき。加之容易にして且つ自然的なる方法に依りて其の獨立を要求するこ

とを得たり。千八百七年「ブラガンザ」家(Hans Braganza)はナポレオンの爲めに捕獲せられんとするや、逃れてブラジルに移住したり。是れ實にブラジルに取りては極めて幸福なる運命を齎らしたるものなりき。斯くて此のブラジル帝國は長き間腐朽せし小なる本國を陰蔽するの狀態を呈したり。「ブラガンザ」家は多くのブラジルの人民に自由を與へ、其の利益を増進せしめたり。今や海港は悉く開放せられ、外國人の移住は許され、一切の經濟上の強制的制度は廢せられ、更に從來此の金産國に於て禁止せられたる金細工業は許され、金剛石及び蘇方木を除くの外政府の獨占は廢除せらるゝに至れり。

千八百十五年ブラガンザ家は再び葡萄牙を回復したり。されどブラジルは獨立國として之と聯結したりしか、千八百二十二年に至り再び一帝國として獨立し、降つて千八百八十九年には共和國となれり。千八百二十七年までは英吉利は貿易上の條約に依りブラジルに對する保護權を行ひ、ブラジルを以て經濟上英吉利の御料地ポルティガなりと認めたり。爾來ブラジルは獨立自由となりて長足の進歩を遂げたり。ブラジルは實に地球上優越せる土地の一なり、其の土地は五億萬人を容るゝに足り、其の面積實に獨逸の十三倍に當れり。移住狀況は最も有望にして、獨逸人の此の地に在る者甚た多し。南ブラジルの地は獨逸の直轄領(Reichsland)とも稱せらるゝへし。伊太利人の此に移

住するものも亦尠からず、其の本國との關係は常に確保せられたり。

大體に於て殖民國としての葡萄牙を評定するには、次の如き言を以てせざるを得ず。曰く假令外觀のみにもせよ、最初の極めて光輝ある隆盛は久しからずして衰運に傾く。這是獨り物質上及び軍事上の能力の足らざるか爲めのみにあらず。實に國民の歴史的運命を左右すへき動因たる國民性に因るものなり。佛國の或る週刊雜誌は曾て諷刺的の言を弄して曰く、「葡萄牙は歐洲の極西國にはあらず、寧ろ亞弗利加の極北國なり」と、洵に至言なりと謂ふへし。

第四章 和蘭の殖民

和蘭は歐洲の殖民に對して一新機軸を與へ、其の制度は新紀元を開きたり。而して并は二世紀間を通して其の勢を保ち、少くとも當初は良好なる効果を收め得たり。和蘭の歐洲國民の間に於て其の地位を保ち得たるは、實に其の殖民政策及び商業政策上の創造力の功に歸せざるへからず。此の大膽なる航海能力と此の伶俐なる商業的能力とは和蘭の有する最も偉大なるもの、即ち國民の自決心及び民力の意識と共に生し來りたるものなり。此の向上的天然力ありて、始めて彼の支離散裂せる下獨逸種族は大世界に於ける一勢力となることを得たるなり。

和蘭は既に十六世紀に於て穀類、造船材料、鹽漬魚、乾魚、酒類及び金屬等の主要なる市場なりき。アムステルダムは四十隻より成れる艦隊を備へ、又毎年三回出帆するを常としたる青魚艦隊は實に七百隻を算したり。和蘭人は機敏にして支拂能力ある仲買人として葡萄牙人の印度より齎らせる貨物を賣買したり。斯る分業は彼等の利益となりたるか故に、彼等は商人として之に満足したるか如し。されど開は國民の大なる運命に對する經濟的動因極めて不充分にして、只た此等商人の向上を來したるの外、何等の効果なかりしなり。南獨逸及びラインランド (Rheinland) は宗教改革に對する西班牙及び埃太利の反對者に對して何等の戰闘手段を有せず、和蘭は同盟者と大洋とを有し、而して大洋は彼等に信仰の自由と民族の自由とを與へたり。

和蘭人はバルチック海諸國 (Ostseestädten) と大西洋諸國との間に立てる仲介者として繁榮を來し、歐洲と東西兩印度との仲介者として強大となれり。彼等か初め西班牙に對する争闘に於て西班牙及び葡萄牙を退けて、其の舊來の商業上の地位を確保したるは特筆に値する所なり。然れども千五百八十五年フイリッツは和蘭の船を悉く差押へ、其の乗組員を捕虜としたることあり。是れ實に和蘭の歴史の一大危機なりき。而かも和蘭國民の企業心と海外發展熱とは到底之を沮止すること能はざりしなり。

和蘭人は最初亞細亞の氷洋 (Polarmeer) に依りて東方地方との聯絡を保たんとし、ノワヤ、マリア (Nowaja Semlja) に航したることあれども、結氷の爲めに前進する能はざりき。而かも和蘭は之か爲めに敢て驚かず、更に屢々北東の横斷航海を企て、又懸賞航海を行はしめたることすらありき。

斯る間に和蘭人はカール (Karl) との通航に従事したり。當時葡萄牙は外國人に對し海圖を賣却したる者は之を死刑に處したり。然るにも拘らずアムステルダムの一印刷者は葡萄牙の地理學者より亞細亞、亞弗利加、亞米利加の海圖二十五枚を求むることを得たり。是に於て第一回の旅行は企てらるゝこととなり、四隻より成れる艦隊は遂に印度に達することを得たり。今や種々の會社は組織せられ、航海は新に企てられ、商業關係も亦結はるゝに至れり。而して此等一切の事業は有名なる印度會社の組織に依りて統一せられたり。此の會社は實に後來歐洲國民か海外貿易の爲めに組織したる數多の商會社の原像となれり。初め個々の會社は各自特殊の利益を要求したるか爲めに、之か合併は容易の業にあらざりしか、モリッツ親王 (Prinz Moritz) の干涉あるに及び、始めて統一することを得たり (千六百二年)。斯くて同會社は千六百六年には七割五分の配當をなし、又四十一隻の戰闘艦をして貿易を保護せしめたり。而して此の貿易に従事せる船舶は

三千隻にして、之に乗組めるもの實に十萬人の多きを算したり。此の貿易組織の歴史上に於ける實質的意義如何？、當時の法律的解釋に依れば、海陸共に之を最初に占領したる者の有に歸す。之に對しフリーゴ、グロチウスは海洋自由の原則を主張したり故に貿易を自己の手に歸せしめたる和蘭人の企圖は、商業的競争と云はんよりも、寧ろ葡萄牙及び西班牙の政治的地位の心髓に對して加へたる意識せる政治的攻撃にして、又慣習的解釋と慣習的なる國家の權力請求權の大膽なる破壊たりしなり。隨つて此の企圖には軍力を伴ひたりき。葡萄牙の「カラクエン」(Carraquen)も亦戰闘用商船なりき。即ち吾人は茲に政治的の性質を帯ひたる組織の絶對に必要なを見る。印度貿易の性質も亦同様の方面に向へり。而して事を爲すに當りては威力を用ひて、始めて關係を保ち得へき外國文明の君主に媚ひざるを得ざりき。又商人各自は其の資金多からざるか故に、大なる偶然の損害に堪ゆること得ざりしなるへし。一の船舶は再び本國に歸來するまでに二年乃至三年を要したり。而して其の利益は或る年には極めて夥多にして、又時には大損害を招き、爲めに全く配當を爲すこと能はざる場合もありき。此の故に會社は最良の機關なりき。會社は印度に於て處理すべき事項、運搬、小賣販賣等に至るまで萬事を一手に集めたり。又會社は巡覽取調をなし、乗組員の養成をなすことを得たり。従つて會社は海外貿易を

して幾分規則正しく誠實に、且つ確實ならしめたり。

會社は政治上經濟上強固なる新組織なりき。國家及び其の權力關係、特に和蘭の如き複雑なる國家組織に對しては會社は簡略並に權力集中の機關なり、又商人及び其の小組合に對しては統一及び保證の機關なりしなり。

*

*

*

*

和蘭の東印度會社は決して完全なるものにはあらずき。其の成立に當りて紛糾を來したるか如く、後來亦紛擾を生したり。會社を組織せる個々の團體は解散して、一團として會社中に溶解せるにあらず、寧ろ「カムメルン」(Kammer)として各々一定の獨立權を保ちたり。其の共通なる事項は軍事、政治及び財政に關する處置なりき。會社は軍隊を有し、城砦を建設し、貿易上の條約及び同盟を結ぶの特權を有したり。千六百十一年會社の社長フリーゴ、グロチウスは英國の會社と商議をなしたるか、何等の結果を得ざりき。和蘭の自治的地方的精神 (Der municipale und provinciale Geist) は常に會社の歴史上に其の光芒を現はすに至れり、此の精神は偏癩なる官僚主義の跋扈を制し得たりと雖も、固より永き間には獨立戰爭 (Unabhängig keitskrieg) 時代の國民的降盛に危險を及ぼしたり。

會社の資本金は三千「グルデン」株二千五百五十三株より成り、曾て増加せられたることなし。アムステルダムカメルの會議所は其の内五六、九「パーセント」を所有したり。然れども會議所は他の株主の全體の爲めに八對九の割合を以て投票權の多數を占められたり。會議所は國會に名簿を提示し、之に依りて十七名の重役を選挙したり。會社は海外の領土に於ける主權を有したれども、其の官吏は國會に忠誠を宣誓せざるへからず。會社は其の全盛時代に於て「バタヴィヤ」(Batavia)に一名の總督(Generalgouverneur)を置き、第二位の地には知事(Gouverneur)を置き。

此の會社の組織は極めて實際的なり。會社は歐洲風に組織せられたる偏執にして不活潑なる國家の爲めに、海外の委員會アウフシユッスとして設けられたる商人共和國(Kaufmannsrepublik)にして、宗教上の傳道もなく、勇敢なる冒險もなく、全く非「ローマンチック」に商業の利益を求め、之に依りて又其の極めて特殊なる國家の利益を計らんとする商人共和國たりしなり。

葡萄牙人は和蘭人の主なる敵にして、又主なる犠牲となれり。其の東印度に於ける支配權は更に冷かにして、更に狡猾なる新參者の爲めに殆んど全く潰滅せらるゝに至れり。和蘭は殘忍なる權力手段を用ひす、寧ろ奸策を以て東印度に活動せり。彼等は征服の外觀を避けて、船舶通航の最も盛なる樞要の地點を得んとしたり。されど此の地は固より保護せられ、防禦せられたりき。

和蘭人の敏慧にして機巧なることは、貨物の購買を極めて有利ならしめたり。當時倫敦の商人に和蘭人は倫敦に於て販賣し得る價格よりも一層低廉に歐洲の生産物を販賣すとて大に嘆聲を發したり。印度貿易に依りて和蘭人の得たる利益は頗る大ならざるを得ざりしなり。斯くて幾許もなく和蘭人は印度、シヤム、日本並に支那の諸港とあらゆる重要な關係を結ひぬ。彼等は何處に於ても控目にして謙慎なる態度を取り、何等の批評を加へずして信頼を受くるの主義を採れり。彼等は近代の商人精神を土着の商人に鼓吹し、其の優越せる確實たる特性を以て彼等を訓化したり。而して會社の内部に於ても亦當初之と同一の嚴格と廉直とを以て事に當り、絶対に獨占權を實行し、使用人の私囊を肥やすか如き事業を爲さしめず、其の勤勉なるものには多額の給料を支給したり。バタヴィヤに於ける政府職員の外出の服装は十七世紀中は全く質素にして、彼等は毎日簡素なる水夫服を着し、官用ある場合にあらざれば上等の衣服を着することなかりき。當時和蘭は世界に於て頗る強大なる地位にありき。コルベール(Colbert)の計算に依れば、當時海洋に在る二萬の船舶中一萬五千乃至一萬六千は和蘭の國旗を掲揚したりしなり。

亞弗利加は葡萄牙人に於けると同じく和蘭人に取りても、亦主として印度に至る一の驛站ステーションなり。彼等はモザンビク(Mozambique)を攻撃し、セント、ヘレナ島を根據地となし、喜望峰に殖

民の基礎を定めたり。時人和蘭のネーデルラント植民地を以て東印度會社の菜園なりと名づけたる、亦所以なきに非ず。新に通航する船舶は新に此の地を以て糧食供給所となせり。斯くて會社の使用人に對しては、世襲所有地として土地を與へたり。獨逸人及び特に佛國の新教徒(Hugenotten)も亦此に來り移住せり。斯の如くにして殖民は漸次に擴張せられ、何等の計畫を要せずして此の有利なる地に最初の歐洲移住殖民地は成立せり。而して其の後來の運命如何は、英國の殖民を論するに當り更めて之を叙述せんとす。

東印度會社の設立せられたる後幾許もなくして、西印度會社も亦相並んで設立せられたり(千六百二十一年)。同會社は亞米利加に於ける西班牙及び葡萄牙の殖民地を襲ひて之を衰頽せしめ、大に其の効果を收め得たり。彼のキュバ(Cuba)の海岸に於て西班牙銀艦隊を潰滅したるピエト・ハイン(Piet Hein)提督の歌は、今も尚ほ和蘭の海岸に於て聞く所なり。和蘭人の殖民は北亞米利加に向つても亦擴張せられたり。和蘭人の殖民事業中最も著名なるものは、ブラジルに於ける殖民なりき。ブラジルの知事(Stathouder)たりしモリッツ、フォン・ナッサウ、ジーゲン伯(Graf Maritz von Nassau-Ziegen)の運命は和蘭の殖民の實質的缺陷の深く存在せしことを語

るに足るものなり。モリッツ伯は大人物なりき。彼れはハイグ(Haig)に華美なる「モリッツ館(Moritzhaus)なるものを建設したり。——之に要したる費用は黄金六噸に上るへし。其の廣間は彼れか海外に於ける事業の記念としてブラジル産の鳥の繪を以て裝飾したり。彼れは博物學及び歴史に絶大の趣味を有し新世界に於ける最初の天文臺は實に彼の建設に係りしものなり。彼れと會社との間には軋轢を生したり。這は大なる商人と、大なる思想を有し無頓着にして武士堅氣なる貴族との衝突にして稍々特殊の性質を有するものなり。モリッツ伯は本國と殖民地との間に自由貿易を開始し、爲めに會社の獨占權は大に侵害せられたり。彼れは一切の軍力を盡して葡萄牙と干戈を交へ、以て政治的熱力を有する殖民地を建設せんとしたり。曾て彼れは會社に書を寄せて曰く、「然れども若し事業に着手したる場合には飽くまで之を遂行し、決して失望することあるへからず。事已に定まれり。我等は最後の決勝點たる大洋を逸し去れり。國を擧げて潰滅に歸せしむるか、然らすんは全力を盡して之を支持せんのみ」と。

されと本國に於ては大に困難を感じたり。其の軍隊には給料を支給せず、軍需品の供給は著しく不足したり。モリッツ伯は自己の妄を悟り煩悶して、遂に千六百四十四年を以て其の官を辭し、クレイヴト(Clevo)、マルク(Mark)及びライツェンスベルク(Ravensberg)大選帝侯の知事と

なりて生を終れり。

和蘭の歴史家バルロース(Barlouws)は言つて曰く、「商人は幸福なる結果の爲めには満足せず。彼等是不幸なる結果を其の官吏の責に歸す」と。

會社の鄙劣と吝嗇とは斷へず兵士等の苦情を惹起せしめたり。國家思想は全く枯死し、而かも金錢上の利益は増大したり。亞米利加に於て和蘭人の爲めに遣りし唯一の殖民地は、和蘭領ギアナ(Niederländisch-Guyana)(スリナム(Suriname))及びメキシコ灣に於ける小なる群島のみ。此の群島中最も重要なるはキュラサオ(Curacao)なり。スリナムに於ては最も盛に奴隷賣買行はれたり。此の奴隷賣買は後に至りて廢せられ、殖民地の發達は良好ならざりき。キュラサオも亦本國の補助に依りて漸く維持せらるゝのみ。

然れとも印度に於ては和蘭人は有力なる地位を得たり。商事會社の衰頹の原因如何、及び和蘭の國家思想か如何にして其の目的を貫徹し得たりしやは、殖民的發達に大なる關係を有す。

スンダ群島(Sunda)及びモルツケン(Malukken)に於ては、會社を衰運に向はしめたる多くの缺陷と過誤とを生したり。會社は香料の貿易を悉く自己の手に集中せんと企て、乏しくして高價な

る貨物を取引せんか爲めに、不自然に物價騰貴を促かしたり。和蘭人は會社の金匱と稱へられたる此の産物を確保せんか爲めには、如何なる手段をも敢て厭ふ所なかりき。其の他の貿易事業は全く之を放棄して顧みることなく、又収入を多からしめんか爲めに香料の生産をも制限したり。知事は毎年一定の時期に於て香料の生産を禁止したる地方を巡視して嚴重に開墾を防止したり。和蘭人は他の歐洲國民の密貿易を防止せんか爲めに數商店を設立したり。土人たるマレー人に取ては和蘭人は最も殘忍なる壓制者となれり。當時怖るへき擾亂慘烈なる争鬭の行はれたることは吾人の耳にする所なり。

前に述べたるか如き商人政治の道德的特徴は永く持續せざりき。二世紀を経たる後、會社は衰頹に傾けり。幾多の弊害は續出し、官吏の數は多きに失したり。而して役員の俸給は極めて少なく、其の率は清教徒の起れる當時のそれと同一なりき。艦船の裝備、病院の設備をなすに當りては、破廉恥極まれる詐欺行はれたり。財政官にして就職後三年にして百萬馬克の資財を遺したるものすらあり。總督は一年に十萬馬克を得たり。會社の船は歐洲に向つて航海中沈没したること稀ならざりき。是れ使用人か私かに事業を營まんか爲めに過度の貨物を積載したるか故なり。ベンガルには商人と官吏との同盟會ありて、全く自己の利益の爲めに公然バターイヤと貿易を營

みたり。此の同盟會は「小會社」Die Kleine Kompanie」と稱せられたり。

而して斯る頽廢はアムステルダムに於ける會社の監督官廳を腐敗せしめたり。和蘭の國家思想は初め主權を有する商人の團體に依りて高められ、而して今や此の商人團體の爲めに傷害せらるるに至れり。千七百四十八年總督の息子プリンツ、フオン、オラニエン(Prinz von Oranien)は總督となり、且つ會社の重役長となり、重要な地位の役員は三名の候補者名簿に基きて之を任命し、會議を召集し且つ其の議長たるべき權利を得るに至れり。之に對する彼の年俸は實に二十萬「グルデン」なりき。社會の全制度は次第に麻痺の狀態となり、高き地位の役員は悉く世襲となり、大なる商店は此の終身官の職を與へられ、眞の行政は會社の代言人(Advokat der Kompanie)なる稱號を有する一名の書記官に依りて行はれたり。然るに所謂行政官(Administratoren)は毎年春秋二回、艦隊の入港又は出港の場合に集會するに過ぎざりき。而して和蘭は其の決算を提出せらるゝも其の不正なる點を指定せざりき。何となれば若し行政の不正なる。批難するときは會社の信用を低落せしむるの虞ありたればなり。

此の如くにして會社は自己の化石に依りて國家をも化石せしめたり。常規を逸したる弊害は益甚しきを加へ、印度の船はエルメル運河(Aermelkanaal)を通過せずして蘇格蘭を迂回し、亞細亞貿易

の仲介をなすへき總ての船はバタヴィヤに寄港するの狀態となれり。此の如くにして和蘭人の中間貿易は全く衰頽し、英國人々に代りて其の後繼者たるに至れり。

會社の末路は幾百萬の利を獲たる、且つ獲ることを得たりし彼れか、負債に苦しむに至りたるに在り。會社の負債は著しく増加したり。而かも其の歐洲に於ける信用を失はざらんか爲めに、歐洲に於て五分の低利にて借入れ得べき社債をバタヴィヤに於て一割の高利を拂ひて之か借入を爲したり。會社の解散前には千五百萬「フロロリン」の貸方に對して一億二千七百萬「フロロリン」の借方を示したり。固より此の不幸事を防止せんと欲したる烟眼の人士なかりしにあらす。會社に有りし最も優越せる管理者たるモツセル(Mossel)は十八世紀に於て和蘭領印度を變して、合理的なる農業殖民地(Akerbawkolonie)たらしめんとしたり。彼れは獨逸人を移住せしめ、又支那人も相踵いてジャヴァ(Sava)に移住したり。然るに會社は其の生産物に對し、歐洲人の生活費を償ふに足らざるか如き極めて低き評價を爲せり。當時モツセルは會社の狀態を見て「ポンプ」に依りて人工的に水面に頭を現はせる沈没船にさも似たり」と評したることあり。

會社の解散前には香料の獨占は事實上既に行はれざりき。英國人はギネア海岸に於て香料樹を發見し、佛國人も亦其の印度洋に在る群島に於て丁子樹及肉豆樹を栽培し居れり。斯くて千七百

九十五年には印度貿易の獨占は廢せられ、會社は只た日本及び支那との貿易にのみ従事するに至れり。

會社は全く衰運に陥りたり。各個人、商人及び役員は會社の爲めに富裕となれり。斯の如く、如何に個人的精神か共同思想を破壊するものなるかを觀察するは、頗ふる興味あることなり。會社は國家として存立せんとする國家の爲めに努力し、之に依りて其の國家を殺害したりしなり。「オラニエン」人 (Oranien) か和蘭に於ける陸海軍の地位を高めんか爲めに盡したる努力は眞に大なりき。金力と會社の射利心とは政治的思想を窒息せしめたり。會社の新に特許狀を得んか爲めに費したる金額は數百萬に達したりき。會社か和蘭の歴史的名譽に對して加へたる損害は到底測るへからざるものあり。十七世紀の英勇國民は十八世紀の小商人國民となり果てぬ。而してクロムウエルの執政時代以來、英國は駭々として大發展を遂けたり。和蘭は限りなき戰爭に於て疲弊し、敗北し、厭服せられたり。今や和蘭は手を拱いて傍觀し、嫉妬と嫌惡の情とを以て強大なる競争者の爲めに、次第に其の殖民地を失ふの已むなきに至れり。

千七百九十八年を以て會社は終に解散せられたり。而してバタヴィヤ共和國は其の所有物を引

受けたり。ナポレオンは和蘭を西班牙と同様の運命に陥れたり。されどナポレオンの滅亡後に於ては、新王國は幸にして最良の殖民地を永續の所有地として再び回復することを得たり。英國はジャワ (Java) を占領し、總ての特權と獨占とを廢し、自由貿易を開始したり。今や英國はスンダ群島及びモルツケンを再び讓渡せざるへからざるに至りしが、千八百二十四年に至り英國は和蘭と政治上極めて重要な條約を結へり。該條約は兩國は互に交換したる殖民地を第三國に讓渡すへからず、若し占有變更の場合には舊所有國に於て其の權利を獲得すへき旨を定めたり。之に依りて和蘭は印度内地、セーロン及びヒカーブに對する請求權を放棄し、其の代りに島嶼を確實に所
有し得るに至れり。然れども英國は忽ちにして和蘭の殖民地を大に壓倒したり。斯る效果は全くサー、スタムフォード、ラッフル (Sir Stamford Raffles) の功績に歸せざるへからず。彼れは英國の爲めに、曾てマレー帝國の首府たりしマラッカ市街に接せるシンガポール島を確保したり。此の地に於て迅速に發達したる世界貿易は、忽ち和蘭のバタヴィヤの貿易を壓倒するに至れり。今や和蘭政府は凡ゆる犠牲を拂ひて、其の貴重なる殖民地の經營に力を盡すに至れり。印度の擔へる負債は一億八千七百萬「グルデン」に達し、本國は之に對する利息を支拂はざるへからず。茲に於てか二千萬「グルデン」の公債は募集せられぬ。和蘭の殖民地たる島嶼に於ては、經濟的新

九十五年には印度貿易の獨占は廢せられ、會社は只た日本及び支那との貿易にのみ従事するに至れり。

會社は全く衰運に陥りたり。各個人、商人及び役員は會社の爲めに富裕となれり。斯の如く、如何に個人的精神か共同思想を破壊するものなるかを觀察するは、頗ふる興味あることなり。會社は國家として存立せんとする國家の爲めに努力し、之に依りて其の國家を殺害したりしなり。「オラニエン」人 (Oranien) か和蘭に於ける陸海軍の地位を高めんか爲めに盡したる努力は眞に大なりき。金力と會社の射利心とは政治的思想を窒息せしめたり。會社の新に特許狀を得んか爲めに費したる金額は數百萬に達したりき。會社か和蘭の歴史的名譽に對して加へたる損害は到底測るへからざるものあり。十七世紀の英勇國民は十八世紀の小商人國民となり果てぬ。而してクロムウエルの執政時代以來、英國は駭々として大發展を遂けたり。和蘭は限りなき戰爭に於て疲弊し、敗北し、厭服せられたり。今や和蘭は手を拱いて傍觀し、嫉妬と嫌惡の情とを以て強大なる競争者の爲めに、次第に其の殖民地を失ふの已むなきに至れり。

千七百九十八年を以て會社は終に解散せられたり。而してバタヴィヤ共和國は其の所有物を引

受けたり。ナポレオンは和蘭を西班牙と同様の運命に陥れたり。されどナポレオンの滅亡後に於ては、新王國は幸にして最良の殖民地を永續の所有地として再び回復することを得たり。英國はジャバ (Java) を占領し、總ての特權と獨占とを廢し、自由貿易を開始したり。今や英國はスンダ群島及びモルツケンを再び讓渡せざるへからざるに至りしが、千八百二十四年に至り英國は和蘭と政治上極めて重要な條約を結へり。該條約は兩國は互に交換したる殖民地を第三國に讓渡すへからず、若し占有變更の場合には舊所有國に於て其の權利を獲得すべき旨を定めたり。之に依りて和蘭は印度内地、セーロン及びカープに對する請求權を放棄し、其の代りに島嶼を確實に所有し得るに至れり。然れども英國は忽ちにして和蘭の殖民地を大に壓倒したり。斯る效果は全くサー、スタムフォード、ラツフル (Sir Stamford Raffles) の功績に歸せざるへからず。彼れは英國の爲めに、曾てマレー帝國の首府たりしマラッカ市街に接せるシンガポール島を確保したり。此の地に於て迅速に發達したる世界貿易は、忽ち和蘭のバタヴィヤの貿易を壓倒するに至れり。今や和蘭政府は凡ゆる犠牲を拂ひて、其の貴重なる殖民地の經營に力を盡すに至れり。印度の擔へる負債は一億八千七百萬「グルデン」に達し、本國は之に對する利息を支拂はざるへからず。茲に於てか二千萬「グルデン」の公債は募集せられぬ。和蘭の殖民地たる島嶼に於ては、經濟的新

紀元開かれ、珈琲及び甘蔗の栽培行はるゝに至れり。殖民地をして漸次自營自治の境に入らしめんか爲めに、和蘭政府は耕作制度(Aansluitings-system)を設けたり。其の制度の重要な點は會社の採りたる方法に關聯せり。曾ては土人の會長に一定の產物を納付すべき義務を負はしめたるも、今や和蘭政府は此等の會長の貢賦を廢し、土人に對し其の慣習上會長の爲めに爲したりし賦役——即ち生産物の五分の一及び労働日の五分の一——を租税として課することゝしたり。之に對し土人は政府より直接支拂を受けたり。而して此の労働に依る收穫は商會社の手に集め、商會社は之を本國に於て賣却するの手續を爲す。會長の地位は其の儘存置し、政府より俸給並に其の臣下の納めたる生産物の利益配當を受く。されは會長の利益の程度は和蘭政府の利益の多寡に依りて上下す。和蘭語にて「クルツール、ステルゼル」(Kultuur-Stelsel)と稱せらるゝ此の制度は、強制勞役と專買とを結合したるものにして、其の收益は頗ふる多きに上れり。此の制度は其の創始者たる總督ヤン、ファン、デン、ボツシユ(Jan van den Bosch)の名に因みて、ヤン、ファン、デン、ボツシユの制度とも稱せらる。君も忍耐心に富み最も柔順なる土人を有する群島中、最も優越せるジャバは最も多くの收穫を齎したり。ジャバは之を二十二區(Residansen)に分ち、各區に土酋を置き、之を補佐する爲め別に歐洲人たる地方駐劄官を置く。駐劄官は其の

書記官及び會計官と共に耕作を監督す。此等の殖民地官吏の爲めには特別の教育を施し、且つ殖民地の語學及地理に關する知識の試験を行ふ。行政の首長は總督(Gouverneur)にして其の任期を五年とす。ジャバに於ける耕作に依る平均純収益は、十九世紀の中葉には二千萬「グルデン」を算したり。

ファン、デン、ボツシユの制度は爾來屢變改せられ、千八百七十年まで施行せられたり。此の制度に對しては夙に烈しき攻撃をなせる者あり。彼の自ら殖民地官吏たりしエー、テツケル氏(Dekker)(Muhali)の草せし反駁書の如きは最も有力なるものなりき。彼は色彩に富める筆法を以て痛切に此の制度の弊害を論し、土人の賦役を輕減すべきことを要求したり。固より彼れの非難は多少に拘らす凡ての熱帯殖民地行政に適應するものなり。

和蘭人は漸次其の開拓制度を更改せざるを得ざりき。ジャバに於ける賦役は廢止せられたり。されと土人の勞働力は尙ほ政府の支配を受けたり。即ち彼等の收穫は低き強制價格を以て政府より買上げられたり。和蘭政府は又漸次に便宜少き島嶼、即ち高原多きスマトラ、巨大にして岩石多きボルネオ、入江多きセレベス(Celebes)の經營に着手し、此等の島嶼にも亦珈琲及び甘蔗を

栽培したり。斯くて一度戦争を惹起し、後漸次に其の主權を内地に擴張したり。最後の殖民時代に起れる帝國主義の精神は、和蘭に大なる犠牲を要求したり。從來和蘭政府の收納しつゝありし莫大なる殖民地剩餘金は漸次に減少し、遂には不足を示すに至れり。又和蘭は競争國をして其の殖民地に干渉するか如き機會を得しめざらんことを努めざるを得ざりき。而かも英國はボルネオの一部を獲得したり。是れ企業心に富める英國民にして此の地に帝國を建設して之を其の祖國に献上したる有名なる冒險家ジエームス・ブルック(James Brooke)の功に歸せざるへからず。

和蘭領印度は殖民帝國中最も大なるものなり。頗る稠密せる人口と天真なる熱帶の風土と經濟上最大の意義を有する此の帝國は最も貴重なる領土にして、本國の青年商業家に大なる活動の餘地を與ふるものなり。されど此等の青年は多くの義務を課せられ、幾多の要求を提出せらるべきことを俟たず。

島嶼は歐洲人の永住に適せず。是等の島嶼に於ける白人の生活の上品にして舊慣を墨守せることは、他に其の例を見ず。ジャバに於ける生活は和蘭人に取りては古き家より出て、贅澤なる生活に入りたるの感あり。此の地に於て彩られたる美しき植物を有し、水蒸氣を發しつゝある原始林は『大陽の園』と稱へられたり。

第五章 佛國の殖民

佛國は現代に於ける大殖民國なるか過去に於ても亦然りしなり。西班牙、葡萄牙及和蘭の如きは現今に於ては僅かに其の過去に於ける殖民地の遺物を今尚ほ保持するに過ぎず。其の殖民の最も盛なりしは過去の事實に屬す。佛國に至つては一度殖民帝國を失ひたれども而かも又更に新なる殖民帝國を獲得したり。而して此等兩帝國に共通せる領土は只た僅かに極めて小なる部分に過ぎず。斯の如き運命の轉變は佛國殖民の特徴とも稱すべきものにして、是れ全く殖民を行はんとする佛國の根本的特質に基因するものなり。

上述の佛國新舊兩殖民帝國は歴史上英國に對して至大の關係を有す。即ち舊殖民帝國は英國との争闘の結果之を創設したるものにして後又英國の爲めに破壊せられたり。新殖民帝國は英國の許諾を得て始めて之を獲得するものなりと言ふも過言にあらず。佛國は其の殖民の發展に就きて嫉妬を起したること一再に止らず。英國は佛國カアルゼリヤ(Algier)を獲得したるとき之を默視せざるを得ざりき。而かもファシヨダ(Faschoda)事件に關して遂に數百年來の反目は更に激しく破裂するに至れり。爾來佛國は英國の恩恵に依りて今日の如き殖民國となり随つて又之か爲めに世

界の強國となれり。

佛國の兩殖民地は各々其の特殊の歴史を有す。初め暫時の間は佛國は大なる世界に於て第一の地歩を得たるか如きの觀ありき。而かも不幸にして殖民政策慾と大陸政策慾とは互に激烈なる競争を演じたり。佛國近代史の問題は實に主として此の二政策に存すと謂ふべし。佛國の實力は果してハابسブルク家(Habsburgisch)の抱擁する領土を獲得すると共に更に海を越へて豊沃にして廣大なる國を求むるに足るの資格を有したるや。換言すれば佛國は和蘭、ライン河畔及伊太利にまで其の領土を擴張すると同時に東印度、アンチルレン(Antillen)及加奈陀に於ける支配者となることを得たりしや否や。フランツ一世(Franz I)よりナポレオン一世に至るまでの歐洲權力爭奪戰の歴史は此の富裕にして光輝ある國民をして其の目的を達し得しめさりしことを語るものなり。

既に中世期の初め頃に於てノルマンディー(Normandie)、ブレターニエ(Bretagne)、ガスコーニュ(Gascogne)の大膽なる航海業者は大に冒險を試み到る處に於て其の土地を發見したる國民と競争して商業上の關係を結へり。佛國人は殖民史を記述するに當り稍々誇張の説を弄するの風あれ

とも、右の事實は單に個人の一時的企圖たりしに過ぎず。フランツ一世の朝に及び一般的殖民の企圖始めて開始せらるゝに至れり。彼れの事業には固よりコロンブスの功與つて力ありしなるべし。フランツ一世王曾て大膽にして惻愴なる問を發して曰く「葡萄牙人及西班牙人は抑々アダム(Adam)の遺言書(Testament)第何條に依りてか新世界に要求を爲す」と。斯くて航海業者は保護せられ新らしき領土は獲得せられたり。千五百三十五年にはニューファンドランド(Neufundland)島に航しローレンツ河流(Lorenzstrom)を溯りブレターニエ人(Bretonisch Breitagnisch) (ブレターニエは佛國地方名)なる一航海業者は遂に加奈陀に到り茲に始めて殖民の端緒を開けり。其の後宗教戰爭は佛國をして其の全力を擧げて之に傾倒せしめたり。コルヒエ(Coligny)か世界に領土を擴張せんとの大理想は實に海の彼方に新教の新佛國を建設せんとするに在りき。而して佛國人はリオド、ジャーネーロ(Rio de Janeiro)に於て此の計畫を試み、信教自由の確保せらるゝと共に數多の人々を誘引したるか、後幾許ならずして争闘を醸し其の企畫は遂に失敗の苦しき經驗を以て終りを告げたり。是に於てか佛國は北亞米利加の西班牙領即ち後に獲たるゲオルギヤ(Georgia)及カロリナ(Carolina)並にフロリダ(Florida)に望みを囑するに至れり。然れとも西班牙人は凡ゆる殘忍酷薄なる手段を以て佛國人の移住地を廢滅に歸せしめ、之を以て異教徒に對する彼等の義務なりと思惟したり。

佛國人は之に對して復讐を試みたりと雖も而かも勝利を制することを得ざりき。

ハインリッヒ四世 (Heinrich IV) の朝帝國の基礎漸く鞏固となるに及び殖民思想は著しく發達せり。モン、クレチアン (Mont Chretien) の如き政治家は最も盛んに海外發展策再興の必要を唱道し、彼れは佛國か大西洋と地中海との間に介在して光輝ある優良の地位を占むることを指摘し而して此の故に東洋及亞米利加の兩大陸に於て活動を爲すは正に佛國の天職なりと力説せり。ハインリッヒ四世は千六百三年加奈陀に向つてシャムブレイン (Champlain) を送れり。シャムブレイン乃ち此所に到りて耕地、山林、鑛山等を獲て之を經營し、後遂に會社を設立し和蘭の例に倣ひて特權の附與を受くるに至れり。當時シュリー (Sully) は北緯四十度以北の地は資源に乏しき故に之を獲得するも何等の用を爲さずとの理由を以て一般の殖民熱に對して反駁を加へたり。

リシエリユ一執政の時代に至り始めて佛國殖民の發展は一段の活氣を加へたり。彼れは『佛國海運及商業の偉大なる指導者たり監督者たる』(“Grand maître et surintendant de la navigation et commerce de France”) を以て自ら任し方々に隆興の域に向ひつゝある國家の全力を擧げて其の海上に於ける地位の發展に傾けたり。彼れは海軍を創設して海賊 (Piraten) 就中北亞弗利加の

バルバリー諸國 (Barbareskenstaaten) に對して戰を挑み、東印度及西印度、グイネア (Guinea)、マダガスカル (Madagascar)、セネガール (Senegal)、支那等に陸續として會社の設立を特許せり。彼れは又土地の調査及分配を行はしめ、西印度就中ハイチ (Haïti)、セントクリストフェル (St Christopher)、バネビュース (Barbados) に關して徒らに西班牙と戰端を交へたるも終に成果を得ず。「フリプスチール」 (Flibustier) と稱する海賊は多くは佛國人にして當時數千の佛國人は此等の地方に移住せり。又多數の島嶼就中グワデループ (Guadeloupe) 及マルチニク (Martinique) に對して斷へず佛國の風俗習慣等を輸入せり。

次てコルベール (Colbert) の執政時代となりぬ。コルベール以前に在りては佛領西印度は政治上及精神上に於ては既に佛國の有に歸したりと雖も、而かも經濟上に於ては尙ほ未だ全く和蘭の通航に倚賴したりき。然るに新たに勃興したる殖民熱は斯る殖民地を全く國家に專屬せしめ、其の需要する貨物は全く其の本國より之を購求せしむると共に、其の生産品も亦直接之を本國に供給せしむべきことを要求するに至れり。當時商會社を組織し之を基礎として國家的商業主義を發輝せること蓋し思ひ半はに過ぐるものあり。是れより佛國殖民の前途漸く多望ならんとするの觀を呈しぬ。佛國は加奈陀に砲壘を建設し、印度人と爭鬪し、或は多數の民を移して英國との葛藤

を讓し、又東印度を襲撃してポンヂェリ(Pondichéry)を占領し、マダガスカル(Ile Dauphine)を復活し、次いでマウリチウス(Mauritius)ブーボン島(Ile Bourbon)をも占領せり。其の他西印度には煙草並に甘蔗を栽培して其の産物を豊富ならしめ、又有名なる「黒人法」(Code Noire)を制定して黒人奴隸の法律上の地位を定めたり。然れども貴重なる殖民地も永く之を保持すること能はざりき。由來佛國人は企業と征服には頗る卓越せる天稟を具へ其の計畫考案は最も巧妙を極む。而かも其の企業も征服も計畫考案も其の財政策の過誤と、其の國民の資質劣等なると、大陸に於ける戦争に於て餘りに其の力を消盡したるとの爲めに久しからずして全く水泡に歸す。移住者少くして到る處に補助を要し爲めに最初極めて有望なりし殖民地も遂には葛藤と失敗との悲運を以て終りを告ぐるに至るなり。

斯くの如き特質は第十八世紀に於ける佛國の殖民に就ても亦等しく之を見るなり。千七百十七年ロイ(Louis)なる者に依りて有名なるミスシッピー會社創立せられ、後幾許ならずして同會社は大膽なる方法に於て全佛國殖民地の經營に與れり。其の附與せられたる特許狀は特殊のものにし

て、之に依り會社は新に得たる土地、其の天産物及勞働力を商業上及工業上充分に利用することを得たり。其の事業は極めて廣汎大規模にして何等の節制なく思慮なき大投機を演したるの結果忽ち一大恐慌は襲ひ來つて會社の事業を破砕すると共に佛國全經濟界にも絶大なる動搖を及ぼせり。ルイシアナ(Louisiana)の發達は大に阻害せられたり。獨占者は只た自己の利を獲るに汲々たるの有様にして犯罪人及乞丐は強制的にルイシアナに移送せられたり。其の後千七百二十八年の特許狀(Charter)は多少の改良を齎らせり。即ち該特許狀は土人との貿易に對する價格を定め、六ヶ月以上居住したる職人には親方たるの資格を附與すべきことを定め、又貴族の甘心を買はんか爲めに其の權利を喪失することなくして會社に加入し得べきことを以てし、尙ほ新に貴族たるの特權を附與する場合あるべきことも規定し、又會社は毎年一定數の移民を送るべきことを定め、て之か食糧及被服は特許狀之を保障し、而して移民は凡て加特力教徒たるべく、改宗したる土人も亦之を移民と看做すべきことを定めたり。然れども之か爲に別に著しき發達を遂けたる跡なし。既に西班牙の殖民に就て述べたと同じく舊佛國に在りても、又新佛國に在りても、太守(Gouverneur)は其の議會(Conseil)と衝突し監督官(Tuteur)は僧正(Bischof)と互に軋轢せり。佛國の競争者たる英國は七年戦争に依りて遂に北米に於ける佛國の殖民地を獲得するに至るまでは、加奈

陀、オハイオ (Ohio) ミスシッピ河流域に於て益々盛なる突進を試みたり。但たニュー、オル
 レアンス (New-Orleans)、及佛國か其の同盟國たる西班牙に割讓したるミスシッピ河の兩部地方
 は然らず。

天稟の才氣優越せる太守にして佛蘭西の殖民に良好なる効果を齎したるものなきに非ず。彼
 の天賦の智略に富めるデュプレイ (Duplex) の如きは如何にして東印度を征略すべきかを示した
 り。然れども思慮淺薄にして冒險なる殖民地文武官は後に至りて實に笑止なる失策を演したり。
 殊に王政時代の末期に於ける佛國の殖民に變動を來したる出來事二あり。即ち其の一は數百萬の
 黄金と數千の人命とを喪ひたる眞の悲劇にして、他の一は佛國人の思慮淺薄なることを明かに曝
 露せる茶番狂言的の冒險是れなり。

北米に於ける殖民地喪失の後シユワスール公 (Choiseul) はグイアナ (Guyana) に殖民を企圖せ
 り。乃ち彼れは先づ其の一着手として土地を采地に分割して其の家族の兩支系に之を齎らすこと
 とせり。次いで彼れは二十五萬の移民を送り、驅り集められたる數多の乞丐は何等の識見なき代
 理商人の指揮の下に移住せしめられたり。而して其の企ては遂に怖るべき状態を以て其の終りを
 告ぐるに至れり。即ち殆んと總ての者は疾病、殺戮、窃盜、掠奪其の他凡ゆる騷擾の巷に彷徨す

るの運命に沈淪し、而して此の狀に耐へず將來の運命を疑懼悲觀せる婦女の其の兒を抱いて身を
 河水に投する者瀕々として其の數を知らざるか如きの狀を呈せり。而かも此の事業に投したる費
 用は三百萬法の巨額に達したり。是れ實に殖民史上に於て最も思慮淺薄にして且つ最も無謀輕浮
 なる企圖たりしなり。佛國政府か波蘭の冒險家ベニオウスキ (Benjowski) 伯の役割を受けて演
 したる一場の芝居は更に笑止に耐へざるものあり。ベニオウスキ伯は露西亞に於て謀叛者とし
 て監禁せられしか後逃亡して支那に至れり。斯くて彼れは佛國を誘ひてマダガスカルに關係せ
 しめんと企てたりしに、忽ち佛人は彼れと共に事を爲さんことを容れたり。是に於て彼れは遠征
 を企てたりと雖も而かも其の爲す所は凡て無思慮にして淺薄なりしか爲めに隨つて亦些の効果を
 も收むる能はざりき。茲に彼れに就いて特筆すべきは彼れか遠征の出發點を當時疫病猖獗を極め
 たりしバイ (Bai) に採りしこと是れなり。蓋し此の島は風光極めて絶佳なりしか故なり。千七百
 七十六年彼れは獨立の支配者と爲らんとしたるか不思議にも佛國の許す所となれり。彼れは又澳
 太利及合衆國を誘ひて其の島に關係せしめんとしたりしか終に土人と戦ひて勇ましき最後を遂げ
 たり。

當時佛國は英國と互に反目嫉視の勢を爲して相對立せり。固より佛國の國運は光輝赫々たるも

のありしと雖も而かも其の實力に於ては到底英國に及はざること遠かりき。斯くて合衆國か其の獨立の爲めに干戈を取つて起つや佛國は同情と國力とを以て之を援助したり。佛國の之か爲めに費したる所は實に二十億法の巨額に及び、而して之に依りて獲たる所は僅かにトバゴ島(Tobago)のみ。

革命前に於ける佛國殖民政策の總括的結果及び總括的特徴は如何。之に關する共和歴史家の論評は極めて辛辣なるものあり。然れども吾人は積極的特徴を輕視すべからず。往古の佛國の武士的にして且つ軍事的なる精神は加奈陀に於て所謂眞の英雄時代を現出せしめたり。而して此の徒らに争鬪を事とする好争者は、熱狂的に暴虎憑河の勢を以て廣大なる寂寞未開の僻地にまで侵入して清淨無垢なる處女の如き土地を誘ひて放逸なる生活に導き、到る處の土地を發見し探檢し狩獵し毛皮を貿易し、又亞米利加印度人種族の戰友となつて盛に他の國民と勇猛なる鬪争を爲せり。西印度に於ける佛蘭西人の狀態も亦極めて赫々たる光輝を呈したり。ハイチ(Haiti)は世界に於ける砂糖産地の首位を占むるに至れり。才智ある僧侶は事業の完成と社會組織の改良とに努力し又佛國商港は殷盛を致しナント(Nantes)マルセイユ(Marseille)及ボルドー(Bordeaux)の如きは當時壯麗華美なる議事堂を建設せり。ルードウィッヒ十四世(Ludwig XIV)の時に於ては縣會(Pro-

vinzialstände)の制度に則りて殖民議會(Koloniale Versammlung)を以て佛領アンチルレン(Anti-Ilen)に創設するに至れり。然れども斯る華々しき隆盛は總ての栽植殖民地(Plantagenkolonien)に於けるか如く只一時的のものたるを免れざりき。處女の如き未墾の地に對して施したる暴力的掠奪的の耕耘は、初期の時代に於ては頗る良好なる効果を收めたりと雖も而かも幾許ならずして衰頹の運命を以て終局を結へり。

然れども大體に於て之を論ずるときは佛國の殖民は寧ろ餘りに空想的にして其の行動は大膽に失し、爲めに持續耐久的の堅實なる勢力を扶殖するに至らざりし之の觀あり。佛蘭西國民は現實實行と之に對する條件の必要とを知ること餘りに疎く、徒らに思想と計畫とを廻らすこと餘りに多きに失したるなり。斯くの如くにして佛國殖民の計畫は幾度か更改反覆せられ、殖民地の太守(Gouverneur)又は其の官吏の更替せらるゝ毎に各自其の好む所の方針に隨つて施設するの右様にして、自己一身の願望、奸計、陰謀及利慾は殖民地の狀態をして頹敗に歸せしめたるなり。之に由て是を觀れば佛國の殖民の衰頹は獨り其の外見上の政策の拙劣過語に基因せしのみならず、寧ろ佛國國民の内部的物質に於て缺くる所有りしか爲めならずんはあらず。

佛國の殖民に就いて特筆すべき一事は、佛蘭西殖民はリシエリコロの執政時代以來紛々々々た

る議論の裡に大發展を來せり。其の殖民運動には稍々精神的にして且つ稍々意識的なるものありき。而して第十八世紀に於ける佛蘭西の智者も亦殖民の問題に關して議論を爲せり。即ちモンテスキュー(Montesquieu)及ヴォルテール(Voltaire)の如きは一切の殖民政策は愚鈍なる勢力の浪費にして人道に背ける暴行なりとて之に反對せり。彼の有名なる「ポール、エ、ヴィルギニール」(Paul et Virginie)の著者たるベルナルダン、サン、ピエール(Bernardin St. Pierre)は殖民地の事情に就て論したり。彼れは曾て殖民地の官吏として永年イスラ、ド、フランス(Isle de France)に在りし人なるか其の微々たる評論すらも著しき反響を呈せざるを得ざりき。奴隸及奴隸賣買の印象は固より啓蒙家及博愛家の解釋には至大の意義を有したり。斯くて各種の方面の人々は互に相結束して殖民政策の放棄を迫るに至れり。

佛蘭西革命時代の混亂に就いては茲に之を論せず。革命及ナポレオン一世は佛國の英國に對して佛國式殖民帝國を建設せんとする最も尨大なる計畫を失敗の悲運に導けり。斯くて佛國は遂に歐羅巴大陸に擊退せられたるか如き觀を呈し、王權回復後の王朝(Königum der Restauration)は殆んと擧ぐるに足らざる殖民地を領有したるに過ぎず。是に於てか佛國は海外經營の事業は措

て之を棄て、顧みざるに至れり。當時佛國はアンチルレンの内僅かにマルチニック(Martinique)グワデループ(Guadeloupe)を領有し尙ほ此の外に加奈陀に於ける唯一の遺物としてサン、ピエール(Saint Pierre)及ミクロン(Miquelon)の小島あり。此の島の漁業獨占權は約一世紀に亘る久しき間佛國と英國との争闘の目的物なりしものなり。而して其の最後に擧ぐべきものは極めて貧弱にして重要ならざるセネガール(Senegal)の殖民地なりき。

セネガールに於ける殖民及千七百八十五年を以て開始せられたるガンビヤ(Gambia)に於ける殖民は主として奴隸賣買の用に供せられたり。セネガールの奴隸は勞働力として特に重んぜられ又西部印度に到る距離近きの便ありき。千八百十五年以來佛國殖民は再び茲に開始せられたり。而かもそは最初よりして失敗の運命を免かるゝことを得ざりき。最初にセネガールに向つて航したる船は有名なる「メーデュース」(Méduse)なりき。此の船の沈没の悲惨なる光景はゼリコール(Géricault)のものせし畫に依りて永く世に傳へられたり。佛國はセネガールを以て大規模なる栽培殖民地と爲さんと計畫せしも良好なる結果を收むること能はざりき。而かも佛國は此の殖民地を固く維持し而して這は其の後ゴールドキユステ(Goldküste)、コンゴ(Kongo)及エルンエンバインキユステに於ける殖民事業の基礎と爲れり。此等は特に奴隸賣買を廢すべき口實の下に之を

獲得したるものなり。

アルゼリヤ

然れども其の後ブルボン家王朝は其の方さに滅亡に近つかんとする前に於て、アルゼリヤ (Algerie) を侵略して新たな殖民帝國を獲得すべき有力なる端緒を開けり。今や我等は方に全く特殊なる出来事に際會せんとす。そは土地發見に依りて注意を喚起せられたるか如き經濟的計畫及目的に關するものにあらず、又遠隔の土地に關する問題にもあらず。そは實に佛蘭西、西班牙及伊太利諸國と舊來の關係を保ち屢々戦を交へて仇敵に關係を有す。此の關係はアルゼリヤ及其の他海賊を事とするバルバリー諸國 (Barbareskenstaaten) に對して常に價値を有せしにあらず。當時方さに專賣特許に金錢の支拂に依りて久遠漂泊の海賊を掃蕩させるへからざりしなり。此の地は實に西洋と東洋とを頗る近觸せしめ互に反目せしめ易き處なり。此の隣國は遠く同々教の擴張の時代より繼續せられたり。随つて佛蘭西のアルゼリヤ占領は之を歴史上の關係より見るときは基督教國と回教國との争闘なりと稱すべきなり。

即ち佛國は此處に於て歴史上有名なる同格の強敵と遭遇せるなり。而して其の敵たるや決して人口稀薄なる國にあらず、又其の文明の全く異り又は全く劣等なるの國にはあらず。アルゼ

リヤは既に久しき以前より占領せられ勇敢にして自覺ある無數の人民に依りて夙に開發せられ防護せられ、其の文明は進歩し其の社會組織は全く堅實なりき。又其の人民は其の特色ある風俗と思想、其の活ける宗教的信仰を誇りとなし外國の國民性に同化することを肯んせざりき。

されは佛蘭西人のアルゼリヤ殖民の企圖は殖民史上に於て稍々珍らしき事實に屬す。此の如き殖民は領土擴張の爲めに侵略を之れ事とする國に於て行はるゝ所にして彼の英國が當時既に東印度に於て着手し忽ち成就すへかりし殖民の方法と其の軌を一にし、又其の事情こそ異なれ西班牙が亞米利加に於て完成したりし方法を襲踏せるものなり。實にアルゼリヤの侵略は帝國主義的精神を最も著しく曝露したるものなり。

共和歴史家はアルゼリヤに於ける大發展の根柢を確立したるものは全く往古の佛蘭西王朝の功なりと做さず、彼等は其の經過を述ふるに當りては無意識的に企てられたる微々たる一時的の計畫か偶然にも大發展を來たすに至りたるか如き説を爲せり。而かも侵略の序幕は之と反對の事實を示すものなり。佛國はアルゼリヤに於て古くより特殊の地位を有し、其の地位はアルゼリアの不安定にして專制的なる國家制度に幾多の混亂を來したる場合に於ても動搖を蒙むることなかりき。即ちアルゼリヤは久しき以前より佛國の營業所 (Handelsniederlassung) 即ち所謂 (Concessions

d' Afrique)なるもの存在し此等の營業所はアルゼリヤ知事(Doy)に貢税を納付するを常とせり。偶々千八百十五年此等營業所の存續、貢税の額及アルゼリヤ知事の營業に對する殺物供給の事に關し紛議を生じ、アルゼリヤ人の執拗と容易に人を容れざるの性質とは爾來此の紛議をして盛々複雑ならしめたり。遂に千八百二十七年歴史的大活劇の幕は開かれぬ。即ちアルゼリヤ駐在佛國總領事は不遜の振舞ありとて知事の爲めに蠅拂器を以て其の面部を毆打せられ且つ其の官舎より放逐せられたり。

佛國は最初凡ゆる軍事的處置を採ることを避けたりしか其の軍使艦(Parlamentärschiff)の一たひ砲撃せらるゝに及び、遂に佛國の名譽の爲めに攻撃を行ふに至れり。佛國政府は其の措置すべき所を精細に講究し、此の問題を以て經濟及法律上に關する事柄なりとせず、寧ろ軍事上及政治上の重大問題なりと做せり。當時佛國は英國かアルゼリヤに對して至大の利害關係を有せしことを熟知せり。英國の商人は千八百七年佛國の商店を占領し、千八百十六年には英國艦隊のアルゼリヤ市を襲撃するあり。千八百十九年には佛國はアルゼリヤ知事を威嚇せんか爲めに英國と艦隊の行動を共にしたることあり。當時地中海に於ける自己の地位を確保することは佛國に取りて重大なる問題にしてアルゼリヤの占有は乃ち地中海に於ける勢力の權衡を回復する所以たりしな

り。而かも英國は故なくして容易に所謂七月帝國(Julimonarchie)を承認するものにあらず。彼れはフールボン王家のアルゼリヤ遠征に對して憤怒の情を禁する能はざりしなり。

至大の注意と凡ゆる軍力を擧げて遂に佛國の目的は達せられたり。斯くして暫時の間は埃及の總督メヘメット、アリー(Mehemed Ali)とアルゼリヤに關して意志の疎通を計るに勉めたり。今や佛國はアルゼリヤを攻撃して之を略取したり。事此に至りては今更手を引くべきにあらず。彼れはアルゼリヤを保持せざるへからざると共に又之を保持するを得たるなり。

佛國かアルゼリヤの征服を終るまでには幾多の曲折を経たれとも其の歴史に就いては今之を論せず。此の征略に關してはアブデルカーデル(Abdelkader)の討伐及「カビラン」(Kabylan)人との戦闘の如き幾多の光彩に富める挿話あり。斯る争闘は約三十年に亘りて絶へず持續し、之か爲めに佛國の將卒は少くとも或る方面に於て戰鬥力を養ひ得たり。狡猾なる冒險的戰爭、鮮血淋漓として最も慘憺たる殺戮の光景は實に當時亞弗利加に於て之を見ることを得たるなり。軍人の子供の勇敢と元氣とは就中第二帝政時代に至りて現はれたり。又同々教國と接觸の結果は全佛國の文化の上にも著しき影響を及ぼし、ヴィクトル、ユーゴ(Victor Hugo)の如きは東洋に關する作詩を爲し、デラクロア(Delacroix)の如きはアラビヤの學校を描けり。又佛國人は亞弗利加に於て堅

實にして光彩ある不撓不屈なる生活の印象を得たり。

凡そ殖民地にして其の行政に關する有力なる思想の急激に且つ迅速に屢々變化したることアルゼリヤに於けるか如きものはあらず。アルゼリヤに於ては凡ゆる主義方針は悉く必らずや一度は試験せられたり。佛國は本國より又は外國よりの移民を送り、又兵士、手工業者、勞働者、農夫、政治犯人及凡ゆる種類の失敗者を移住せしめたり。個人及宗教上の組合は努力をなし、或る時は小作主義に重きを置き、後には復た大農に便宜を與へ、或は土地を投資して後復た高價に之を買収するか如き有様にて實に比類なき混亂錯雜の狀を極めたり。大體より見ればアルゼリヤに於ける佛國の殖民は之を三期に分つことを得へし。即ち第一期は千八百五十一年に至るまでの無償殖民時代 (Unentgeltliche Kolonisation) にして、第二期は千八百七十一年に至るまで主に賣買に依りて國有地と讓渡したる時代を謂ひ、第三期は千八百七十一年以後にして右二種の制度を混用したる時代なり。

征服の當初佛國人は移住を獎勵するよりも寧ろ之を防止せんと試みたり。蓋し内地の人民を殖民地に送るに先ちて其外部的安寧を相當に鞏固ならしめざるへからざりしか故なり。従つて當時のアルゼリヤは眞の軍事殖民地 (Militärkolonie) なりき。即ち其の中樞は常に武装せる軍隊にして

商業者は只た之か補助機關として存したりしのみ。其の後大に移民を送り得るに至りたる時全殖民事業の内部的缺陷は現はれたり。佛國は千八百五十年代に於て既に業に人口の過剩に苦しむか如きことなかりしか爲め、従つて殖民地に於ける佛蘭西の勢力要素か外國人の爲めに壓倒せらるゝか如きことなきやとは、佛國政府の常に憂慮措く能はざりし所なり。實に移民中に於て佛國人は僅かに其の半數を占むるに過ぎず、他の半數は西班牙人、伊太利人、マルタ島人 (Maltese) 瑞西人及獨逸人なり。獨逸人はアルゼリヤに於て國家の最初に建設したるデルヒ (Delhi)、イブラヤ (Ibrahim) 及キユン (Kuba) の村落に移住したり。又ステデイヤ (Stidia) に普魯西人の一村あり。佛國人は自ら農業を營むことは毫も之を爲さず、寧ろ其の土地を西班牙人及伊太利人に賃貸して僅かなる地代を得ることを好み。此の如き佛國人の不活動性と安逸懶惰性も亦固より佛國の殖民事業上の弱點たらずんばあらず。佛國の學者はアルゼリヤに於ける佛蘭西人の出生率か佛蘭西本國に於けるそれよりも著しく高きに在ることを高唱して之を重視せり。之に由て觀るときは本國に於ける人口繁殖率の停滯は、生理學的條件よりも寧ろ心智上の考量の結果なりと斷定するも恐らくは不當にあらざるへし。

此の地の氣候に最も能く耐へたるは南羅馬人、及古來數多茲に移住して大に勢力を得たりし猶

本人なり。猶太人は最も速に佛國人に同化し、アラビヤ人に對して佛國人を保護し其の人口著しく増殖したり。南羅馬人、伊太利人及西班牙人は多くは勞働者階級に屬するものなりしか彼等も亦迅速に佛蘭西の教師及資本主の言語を學ひ其の風俗慣習に同化せり。斯くの如くにして漸次に奇異なる殖民地佛國風 (Kolonialfranzose) なるものは發生せり。這是首府アルゼリヤ即ち Ville des Plaines (樂しみの都) に於て成るべく巴里式の生活を營まんとするの風なるか、而かも其の根本は猶太人、南羅馬人式にして、數代此の地に居住せる南部及中部佛蘭西種たる所謂『舊アルゼリヤ人』(“alte Algerier”) の嘲笑を招ける所のものなり。

千八百四十年即ちアルゼリヤを征服してより十年の後に至るも尙ほ其の殖民は何等語るに足るべきものなく只た土地高利貸と旅宿の繁榮せるのみなりき。ビュジョー (Bugeard) 元帥は大規模なる軍事的殖民を企て、成るべく多數の兵卒及下士を移殖し、此の軍人的農民に依りて占領軍の節約を計らんとせしか官僚の徒の疑懼は遂に其計畫を成功せざらしめたり。其の政治機關たる官吏は其の人員最初より多く且つ其の組織複雑なりき。權利取得後三年を限りて認可すとせられたる製粉所に關する面白き歴史は人口に膾炙する所なり。然れども土着人取扱の方法は頗る巧妙なりき。佛國人は宗教と習俗とを保護し尊重したり。彼等は所謂『アラビヤ人會館』(Arabische

Biro) なるものを設けて土着人に教訓を與へ忠告を爲し、佛蘭西國民一流の緻密なる心理學と巧妙なる人間取扱法とを應用せり。

次に佛國政府は必要なる土地を如何にして獲たりしや。佛國人は戰爭の繼續中は土人の土地を奪取することを得たるべきも戰爭終結後に於ては如何。アラビヤ人は簡單に之を買収すること能はず。何となれば其の土地は各個の所有にあらずして其の種族の共有に屬したればなり。最初國家は利用し得べき僅かの土地を無償特許によりて分配したり。疑もなく此の制度は外國人を排斥し土地の耕耘を良好ならしめ、事情に従つて村落又は農場を設置し得たる利益あり。然れども佛國官僚政治の性質は終に此の制度の凡ゆる長所を全く無効に歸せしめたり。特許は全く官吏の專斷を以て其の意の儘に行はれたるか爲めに、住民は之に對して豫め手段を講し、官吏の意を迎へて其の恩顧を求むるに汲々たらざるを得ず、虚禮の風は滔々として底止する所を知らざるの状態を呈せり。斯くて遂に移住民の自由を要求するに至るや茲に彼等は新たなる土地に於て新たなる規則と特典と僥倖とを見るに至れり。

第二帝政時代に至りては右の制度を變更して賣買制度 (Kaufsystem) と爲し、必要なる土地は所謂分劃 (Cantonnement) に依りて之を求めたり。即ちアラビヤ人共有地は共同の用益地と認め、

各人に各々一區分地の所有權を附與し、其の殘部を移住せる歐羅巴人の用に供せり。されと惜むらくは移住民の撰擇に全く注意を怠りたり。佛國政府はアラゼリヤを以て政治上の危險人物及社會的過剩者を移殖するに用ひ得へしと思惟したり。而かも巴里に於ける失業者か農夫たるに適せざるは決して不思議なることにはあらず。又政府の認許したる殖民會社たる彼の「ゼネツオアス會社」(Compagnie G n voise)の效果も亦良好には非ざりき。然れども佛國政府か終に其の制度の餘りに高價にして餘りに複雑に過ぐることを看破するに至りて始めて最も能く効果を收むることを得たり。ナポレオン三世は舊來の規定を改正して著しく簡明となせり。彼れは全く新しき理想を以て事に當れり。「朕は佛蘭西人の皇帝たると同時にアラビヤ人の皇帝なり」とは彼れの言にして人口に膾炙する所なり。彼れは殖民地そのもの利益を計らんことを希望したり。斯くて彼れは特にアルゼリヤ及殖民地の爲めに一省 (Ministerium) を設置しナポレオン親王を以て之か首長に任したり。而かも此の改革も全く效を成さず、僅かに二年の後再び總督府 (General government) を復活するの已むなきに至れり。されと當時此に移住する歐洲人の數は次第に著しく増加し來れり。又熱帶地開發を促すへき企てをなし後耕作及牧畜の最も適當なることを認むるに至れり。鐵道の敷設も亦着手せられたり。

千八百七十年乃至七十一年の普佛戰爭後に至りては更に狀況一變せり。「カビロン」(Kabylon) は一大謀叛を企てたれとも烈しく之を擊破し佛國政府は廣大なる土地を獲得せり。佛國のエルサス、ロートリンゲンを失ふやアルゼリヤに望みを囑すること愈々大となりぬ。當時佛國は譬へは一人の愛兒を喪ひて殘れる一兒に二重の愛を捧ぐる母の如かりしなり。アルゼリヤに於ける移住民はエルサス、ロートリンゲン人に依り著しく其の數を増加せり。佛國に愛着して去るを欲せざるエルサス、ロートリンゲン人の一部分は、莫大なる費用と熱烈なる愛國心とを以てアルゼリヤに於ける十萬「ヘクタール」の土地に移住せしめたり。されと佛國は彼等に就いて良好ならざる經驗を嘗めたり。即ち彼等は風土に馴るゝこと極めて難く、彼等の大多數は無資力にして又殖民に於ける最良の勢力要素たらしむるに足らざりき。されは彼等にして土地を取得したるものは極めて少數にして其の大多數はアルゼリヤを去るの已むなきに至れり。

纏つて少しくアルゼリヤの憲法上の地位變遷の歴史を瞥見せんか亦特殊の興味あるを覺ゆへし。之に關しては二個の主義の互に相衝突するを見る即ち其の一は同化 (Assimilation) の思想にして、他の一は自主 (Autonomie) の思想なり。換言すれば殖民地を以て佛國の一部となすことを得るや否や、或は殖民地をして其の特殊の必要と生存條件とに隨つて自ら發達せしむへきや否やの問題

即ち是れなり。

千八百四十八年の革命まではアルゼリヤは武力を有する總督府 (Generalgouvernement) に依り、又革命時代の終りに於ては稍々寛大なる權力を有する總督府に依り統治せられたり。其の後革命的理想は本國と殖民地との接觸を要求し、茲にアルゼリヤは佛國議會に代議士を派遣するの權を得たり。第二帝政時代には再び反轉して軍力的の統治をなし前述の如き特別の省を設置して巴里より直接行政を行ひたり。此の時代の終りには皇帝に直隸する太守 (Statthaltschaft) を置きペリシエル將軍 (General Perissiers) を以て之に任せり。

第三共和政治の初めに於ては回々教徒か極めて勇猛にして獨佛戰爭の終りを告ぐるに至るまでは動もすれば暴動を起し殖民地を佛國より奪取するの氣勢を示したるを以て再び同化 (Assimilation) の主義を取るに至れり。總ての制度の組織は千八百八十一年の宣告に依りて定められ、行政の各部は佛國本省に隸屬し、殖民地は其の死活に關する問題を決定する佛國代議院に代議士を派遣したり。此の制度は全然失敗に終れり。當時殖民地寡頭政治 (Kolonistenoligarchie) の主義は漸く其の勢力を得んとし巴里に於ける議決に對して不滿を抱く者漸く多きを加へたり。茲に於てか之か對應の策としてアルゼリヤの特別豫算は編成せられ行政組織は改革せられて獨立となり、

曾て行はれたる總督 (Generalgouverneur) の職は遂に再び設置せられぬ。是れ實に千八百九十六年の事なり。其の後二年を以て自主の主義に則りてアルゼリヤ國民代表 (Volksvertretung) の制を設け、千九百年に至りアルゼリヤは遂に自治團體と爲り、此にアルゼリヤは議會の監督の下に成立せる全豫算を以てする自治の權能を得たり。南部地方 (Sudterrien) は其の特別の狀況に鑑み之を分離し以て特別の方法則ち寧ろ武力的の行政を之に施せり。斯くの如くにして殖民地の獨立は始めて實行せられたり。

佛國人の土人に對する關係は數十年の經過と共に漸次表面上和睦となれり。北亞弗利加に於て相接觸する凡ゆる人種の移住民は最も善く互に墻壁を撤して相親み都會の地に於て盛に商業生活を營めり。又一夫一婦の主義を守り私有財産及個別財産を有して安固なる生活を營みつゝあるベルベル (Berbern) も亦意思の疎通を計ること稍々容易なりき。其の最も困難なりしはアラビヤ人なりき。元來アラビヤ人の性質に就いては佛國人は最初之を誤解したり。其の精神狀態は常に變る所なく、粘液質收斂性にして何等の掛引なき質朴の裡に尙ほ同情心あり。而かも近代の國家生活に導き入るゝことは極めて困難なりき。茲に特筆すべきは此等の土人か本土に歸化することを敢てせざりしの一にして彼等は之に依りて得らるべき政治上の權利に對しては些の價值をも認

めさりしなり。

大體より見るときはアルゼリヤの殖民は光輝ある開發事業たるを失はず。而かも之を純經濟上の立場より觀察するときには今日に於ても尙ほ利得なし。蓋し佛國が殖民地の爲めに費したる所は實に三十億法を算し現に二千萬法の利子を支拂ひつゝあるの外、軍事費として年々五千五百萬法を費さるを得ず。是れ實に殖民地領得以來八十年を經過したる今日の現状なり。然れども其の價值を經濟上のみより判斷するは適當にあらざるへし。佛國は國家的自覺の點に於て、其の國民同胞の發展可能性の點に於て、又國民の聲譽の點に於てアルゼリヤに依りて得たる所多きは輕視すべきことにあらず。此の如くにしてアルゼリヤは世界政策上佛國將來の大々的發展に必要なる出發點と成れり。

アルゼリヤに取りてチュニス(Tunis)の必要なることは夙に認識せられたる所なり。十八世紀の五十年代以來佛國の代理人(Agenten)及佛國の貨幣はチュニスの知事を誘ひて佛國に親しましめたり。ナポレオン三世は彼れを以て佛國に對する債務者と定め、千八百六十八年に至り其の利息を支拂ふこと能はざるや、彼れは佛國に請ふに其の財政の整理を委ねんことを以てせり。然

れとも當時同しく其の債權國にして且つ密接なる利害關係を有したりし英國及伊太利は之に對して抗議を申込めり。是に於てナポレオンは紛争の惹起するを避けんか爲めに之を撤去し、茲に千八百六十九年國際委員會(Internationale Kommission)の設立を見たり。而かもチュニスに於ける財政の紊亂は更に甚しきを加へたり。此の時伊太利は盛に活躍を試み損害賠償の請求を口實としてチュニス(Tunis)を占領せんと企てたりしか、英國の代理人に煽動せられたる土耳其の抗議に遭ひぬ。されと斯る状態は千八百七十八年の戦争及柏林會議(Berliner Kongress)に依りて全く一變し土耳其は最早チュニスに干渉することを得ず。英國はチベルン(Cyprus)を領得して埃及をも併せ、チュニスを放棄して佛國に委ね、チュニスに駐在せし英國總領事は本國に召遷せられたり。ピスマルク公も亦佛國を亞弗利加に誘へり。是に於てか佛國と伊太利との間には著しき競争を惹起するに至り、伊太利か千八百八十年チュニスより其の開港場たるゴレット(Golette)に至る鐵道を獲得するや、千八百八十一年佛國はジュール、フェリー(Jules Ferry)の努力に依り兵力を以て知事に迫り遂にチュニスを佛國の保護國となすべきことを承認せしめたり。

佛國人はチュニスに於て幸運と巧妙慧敏と節度とを以て之か後見役を勤めたり。チュニスは佛國の一部には非ず依然として外國なり。故に其の莫大なる債務は毫も佛國の財政に累を及ぼすか

如きことなかりき。強暴的の殖民及歐洲化せんとするの方法を離れて其の財政、司法、公共事業等の制度は改良せられたり。其の改良に當りてや土人に倚賴することに最も重きを置き、官吏は成るべく従來の儘之を繼續するの方針を採り、普通の行政は全くチュニス人をして之を行はしめたり。然れとも其の背景には知事の官邸に佛國公使在りて知事の内閣總理大臣とチュニス國の内政外交の指導者とを兼ね之か一切の責任を負擔せり。彼のアルゼリヤに於ける發達を困難ならしめたる無償特許(GratiskonzeSSION)及強制賣却(Zwangsvorkäufe)の制度は之を避けたり。而して土地所有關係は任意的土地登記簿の制度に依りて漸次に之を瞭然たらしめ且つ個人の土地取得を便利ならしめたり。チュニスは實際に於て未だ佛國風に化せざること尙ほアルゼリヤよりも甚しきものあり。唯だ取引上、社會上及政治上に於ては多少佛蘭西語及佛國の風習様式を用ひ以て一般の社會状態を近代的に且つ歐洲的ならしめんとせり。チュニスに於ける伊太利人は佛國人の數に略々三倍せり。又マルタ島より移住する者も頗る多し。

アルゼリヤの領得益々確實となるに隨ひ佛國は西亞弗利加に於ける舊領有地に對して望みを囑するに至れり。當時此の地に於ける佛國の勢力は微々として振はず、セネガル(Senegal)に砲

壘及製造場を設け漸次に内地に向つて侵入せんとしたり。されど生存状態の健康に適せざりし爲め多く殖民地たるに適せず。當時彼のフエーデルブ將軍(General Faidherbe)は此の地に於て偉大なる功績を挙げたり。彼れは千八百七十年代に於てセネガルとニーゲル(Niger)との間に介在する地域に侵入して將來の占領の基礎を造りたり。即ち彼れは巧みに土着の酋長と款を通し、凡ゆる方法を講じて衛生状態の改善を圖り文明の進歩を促したり。又セネガル守備の爲め軍隊を設置したりしか、此の軍隊は後年の殖民地戦争に當りては著しく其の效力を現はしたり。斯の如く土人の力は熱帯殖民地に於ける最も重要なる權力手段として之を土人そのものに對して用ひられたり。

千八百八十年代に於て亞弗利加の分割盛に行はるゝに至るや、佛國は英國及獨逸帝國と競争してニーゲル、セネガル及コンゴ(Kongo)の廣大なる土地を獲得し英領ガムビヤ(Gambia)シエラ・レオン(Sierra Leone)、黑人共和國リベリヤ(Negerrepublik Liberia)、エルドキユスタ、獨領トーゴ(Togo)に接せる亞弗利加内地は全く佛國の有に歸せり。されど其の後數十年間は尙ほ極めて大なる犠牲を之に拂ひたり。鐵道の敷設、築港、電線の架設、軍事上の施設等に費したる金額は頗る巨額に上れり。其の他尙ほ亞弗利加に於ける領地中最大の價值を有するエルフェンバイ

ン海岸(Elfenbeinküste)をも領有せり。此の地は彈力護謨、マホガニー、椰子油等の産地にして之に依りて得る収入は同地に要する費用を償ひて尙ほ剩餘あり。最後に尙ほタホメー(Dalomey)も亦其の産物より得る収入に剩餘あり。其の領土はチャトゼー湖(Tschudsee)に及び佛領コンゴに接せり。

最後に掲げたる殖民地即しコンゴはガブン(Gabun)に於ける往古の微々たる一移住地の發展せしものなり。千八百七十年代に於て佛國博物學者は此の地よりして内地に向つて探檢し、數多の會長と條約を締結し、又佛國の一海軍士官ブラザ(Brazza)は亞弗利加に於ける旅行に促され自己の職業として此の地方の探檢と領土擴張とを企てたり。而して最初彼れか設定したる土地はレオポルト王の國際的亞弗利加會社(Internationale Afrikanische Gesellschaft)の用に供せられたり。而も此の地は實に佛國新殖民地の端緒となり佛國のコンゴ獲得を容易ならしめたり。ブラザは大規模なる行政組織の首長に擧げられ大なる権力と莫大なる資金とを得たり。彼のコンゴ會社をしてコンゴ國に於ける先買權を佛國人に與ふるに至らしめたるは彼れの功績なり。斯くて今日佛領エクワトリアール、アフリカ(Aequatorialafrika)と稱せらるゝ極めて廣大なる佛領コンゴ殖民地の境界は伯林會議に於て確定せられたり。彈力護謨、象牙、黒檀柿等は其

の主要なる輸出品たり。開拓を進捗せんか爲め山林は之を大なる區割に分ちて四十二の會社に分し、其の占有權及利益權を與へ、其の代りに會社に對し一定の期間内に土地の開拓を行ふべき義務を負はしめたり。

佛國は亞弗利加の東岸にオーボック(Obock)殖民地を有す。曾てナポレオン三世はスエズ運河に對する利害關係上此の地に佛國の殖民地を設定せんと欲したり。而して千八百六十二年一會長は五萬法に對して其の土地を佛國に讓渡したり。されと英國の干渉を顧慮して其の後之に移民を送らざりしか、千八百八十三年共和政治の時に至りて始めて之か經營に着手したり。偶々伊太利かアベシニエン(Abyssinien)に殖民計畫を立つるやオーボックは政治上意義を有するに至れり。當時オーボックはアベシニエンの爲めに支撐點たり且つ商品及武器の媒介場たるの役目を演じたり。

十九世紀の末葉に於ては佛國は北亞弗利加に於て強大なる勢力を有し、連結せる北亞弗利加殖民帝國を建設せんとするの勢あり。セネガールよりオーボックに至る此の東西線を全然獲得せんとせる佛國の野心は彼の埃及よりカイブランド(Kapland)に至る南北線を得んとする英國の殖民政策との衝突を來し、亞弗利加内地の殖民地に關して兩國の間に一大葛藤を實現するに至れり。

佛國はオリボックよりナイル河水源(Nilquelle)地方に向つて一遠征軍を派遣し、ヨゴ殖民地よりも亦佛國士官マルシャン(Marchand)及びリクター(Lictard)の指揮の下に在る第二遠征隊を送り、英國は之に對しナイル河下流なる英領東亞弗利加の遠征隊を急派したり。而かも佛國人は英國人よりも速かに前進し、マルシャンは千八百九十八年秋の交ナイル白河(Weisser Nil)に到着したり。須臾にして戰爭勃發の危機は正に切迫せんとするの狀を呈せしか、此の時英國か佛國の讓歩を請ひ軍の退却を要求するや、佛國は之を諾して自ら讓歩し、マルシャンは召還せられ茲に兩國は互に和解して北亞弗利加に於ける各自の勢力範圍を確定するに至れり。即ち佛國はナイル河流域を全然英國に委ね、其の代りにチュニス及トリポリス(Tripolis)の全内地を獲得したり。

斯くの如きは實に獨り殖民史上のみならず又主として最近の政治上に一大新生面を開きたるものなり。佛國と英國とは此の最後の衝突に依り將來紛争の因を全く一掃し去り、遂に佛國は世界に於て獨立の行動を執るべき權利を放抛したり。佛國は英國の世界統率(Welt hegemonie)を以て其の自己存立の主義なりと認め、之に依りて佛國は歐洲大陸に於て再び第一の地位を獲得すべき望みありとの斷定をなせり。前に一言せるか如く實に佛國は數百年來海外發展主義と大陸主義

の間を彷徨したりき。されと是に至りて今や佛國は其の歴史的運命を決定したり。

印度洋に於てマダガスカル(Madagascar)を中心とする群島は佛國殖民上特別の地位を有す。

マダガスカルは地理學上、人類學上並に政治上、亞弗利加と印度との間に架せられたる橋の如しナポレオン一世は之を指して「印度の鍵」と名つけたり。佛國は今や其の最も附近に舊殖民地中のレユニオン(Reunion)、ブルボン島(ile Bourbon)を保持す。されと曾て和蘭領としてマウリチウス(Mauritius)と稱せられしフランス島(ile de France)は英國の有に歸せり。此の兩島は革命時代に於て奴隸解放の擧あり、自由國(Freistaten)として自ら統治を行ひたりしか、千八百三年に至りドケン將軍(General Decaen)はナポレオン治下の佛國の爲めに復ひ此の地を領得せり、レユニオンは完全に歐洲化せられ「ゲネラルラート」及常設殖民地委員會ありて政治上自治を行へり。同島は經濟上に於てはアンチルレン(Antillen)に酷似し數多の佛國人家族は此の地に永續の家郷を求め蔗糖、ワニラ(Vanille)、珈琲、煙草等を栽培して愉快なる栽植生活を營めり。本島は若し英國にして彼の必要なる勞働力たる苦力(Kulis)の大輸出を困難ならしめさりしならんにはその發達は更に著しきものありしなるへし。尙ほマダガスカルの沿岸に近接せる三個の小

島も亦舊佛國殖民地にして就中ノシールベール(Nossi-Bé)は其の最も重要なものなり。

以上述ぶる所に從て之を觀れば資源に富める大なる島嶼を獲得せんとする舊來の計畫には更に新なる計畫を來したることを看取し得へし。英國は彼れ獨特の所謂公平なる態度を以て、マウルチウスよりマダガスカルを以て自ら一種の屬領(Dépendance)となさんことを要求し屢々侵害を試みたり。就中之か爲に最も力を盡したる者は英國の傳道師なりとす。ホヴァリス種族の「王国」(«K'ouigum» der Hovas)は元來英國か佛國を苦しめんか爲めに案出し創設したるものなり。是に於て佛國の冒險家は本國の利益の爲めに此の地の主宰者に加擔し又ナポレオン三世の時にはマダガスカル開拓の爲めに株式會社の設立を見たり。されとナポレオン三世は此の地に關して英國との意思の疎通を圖るにのみ努めたり。

識見ある佛國の殖民政策家は政府に警告するにマダガスカルの殖民は其の天然及信教の關係上不利なることを以てせり。然るにも拘らず佛國人は其の企圖を讎へすに忍びず。偶々ホヴァリス族か佛國の布教並に佛國臣民の所有權を侵害するや佛國は其の志を遂ぐるの機會を得たり。ホヴァリス人は本島に於ける外國人に土地を取得せしむる事を欲せず、當時佛國臣民にしてホヴァリス人の爲めに殺害せられたるものあり、而かも佛國人は暴力を以て之を壓制し以て其の土地を使用

したり。茲に於てホヴァリスは巴里に於て談判を開き且つ倫敦、伯林及ワシントンに向つて援助を求めたり。而かも千八百八十五年彼れは遂に讓歩して佛國の保護國(Protégé)たることを承認するの已むなきに至れり。英國は最初此の條約に同意するを肯せざりしか後佛國かサンジバル(Sausibar)の中立に關する舊協約を拋棄し宗主權を英國に委ぬるに及び、遂に千八百九十年を以て之に同意を與ふるに至れり。斯くて佛國は最早何等の干涉障礙なくマダガスカルの經營に従事し得るに至れり。千八百二十五年戰爭は勃發しぬ。ホヴァリスの女王は最初其の名義のみを保ちしか後遂に其の國を擧げて佛國の殖民地たることを承認せり。

佛國の本島經營に費したる所は千八百九十七年に於て既に一億二千七百萬法に達せり。本島に對しては毎年巨額の補助を要し軍事費のみにも其の額既に二千二百萬法を超ゆ。本島に於ける主なる財源は第一に人頭税(Kopfgeld)にして米税及關稅之に次ぐ。佛國のマダガスカル經營は當初よりしてアラゼリヤに於けるよりも一層困難なりき。蓋し本島はアルゼリヤと同じく久しき間歐洲人の移住を許さざるものありしか故なり。本島に於ける戰爭と風土病とは佛國人の絶大なる人命を犠牲に供せり。斯くて千九百二年始めてタナナリヴォ(Tananarivo)より印度洋沿岸に至る鐵道を開設せられたり。此の殖民地經營の爲めに偉大なる功績を擧げたるはガリエニ將軍(Ga-

neral Gallieni) 其の人なり。彼れは凡ゆる手段を盡して佛國の支配權を確立し又守備隊の兵士を移住民として使用すへき彼れ獨特の計劃を試みたり。皇帝ウイールヘルム二世は當時彼れの計劃を見て頗る感激したり。

佛國は前印度に於て舊殖民熱の遺物として今尙ほ僅かに五個の殖民地を有す。就中ボンヂシエリ(Pondichery)は其の最も重要なるものに屬す。此の殖民地は貿易港の外僅かに最も附近の地を包有するのみにして其の人口は漸次減少したり。然れども經濟上其の港は常に剩餘金を生し又石炭及糧食供給場として其の價值侮るへからざるものあり。

佛國は前印度に於て其の勢力を扶植する能はさりしを補はんか爲めに後印度に於て印度支那を獲得したり。ナポレオン三世は千八百五十八年西班牙と共同し安南(Annam)の王に對して戰爭を開始したり。其の原因は佛國の舊教傳道に妨害を加へられたるか爲めにして、其の戰爭の媾和に依りて佛國は安南の數州を獲得したり。此の他は極めて豐沃にして河流及運河は到る處に開通し大なる船舶をも之に通ずることを得たり。隨つて彼の拮据として關節なきか如き濕潤なる海岸線を開拓するの要ありし亞弗利加殖民地に反し、之を開發して世界貿易の地と成すは極めて容易なる

の地なり也。内地の市たるサイゴン(Saigon)は殊にテナツセリム(Tenasserim)の地峽を開闢してマラッカ(Malacca)半島を島と成すに於てはシンガポールと競争し得へし。佛國人は巧妙なる方法を以てサイゴンの經營に力を盡し、或は教會堂を建設し、或は市街鐵道、電車鐵道を敷設して歐風の壯觀を呈せしめたり。千八百七十一年カムボジヤは佛國敗北の時に乘して其の支配を脱せんと企てたれども遂に成らず。後支那も亦干涉を加へたれども千八百八十四年より其の翌年に互りて佛國の一切の要求を承諾するに至れり。斯くの如くにして安南は確實となり、更にトンキン(Tongking)をも併せ獲得したり。旅行家冒險家は先軀をなし次いで軍政を布けり。此の地に於ても亦他の佛國殖民地と同じく人口に乏しく本國より移住するもの多からず。住民は最初より甚だ粘液質、保守的にして頗る才智に富み自負心強し。其の大官(Mandarin)及會長(Fustan)は容易に佛國旗の下に服せざりき。最も不利なる點は此地の風土が歐洲人の健康に適せざるの點なり。固より官憲の發表に係る死亡率は減少を示せりと雖、而も這は覆面の道化芝居に基くものにして佛國は兵士の危篤に陥れる者あるや速に之を船に乗せ大洋又は本土に於て其の命を終らしむ。佛國は又隣國のシヤム(Siam)に向つて其の勢力を擴張せり。佛國は英國が埃及に於てしたると同様の方法に依り土地特許(Landkonzession)と耕耘の義務とに依り此の王國の一部を蠶食したり。

然れとも日本の對露戰爭に於て勝利を博して以來一般に亞細亞人の自覺を促し印度馬來人も亦著しく覺醒したり。されは佛國の此の地は支那及印度の隣國として特に危險なる状態にあり。

亞細亞に於て鞏固なる基礎を有する佛國殖民地に接して最後に尙ほ太平洋に於ける群島殖民地 (Inselsitz) あり。這は佛領大洋洲 (Französischer Ozeanien) と稱する統一體を成せり。就中最も重要なるはニューカレドニア (Neukaledonien) なりとす。此の地は流刑地 (Deportationsgebiet) として大なる發達を遂けたるものにして、最初は千八百四十八年の革命以來普通犯人のみを送りしか、千八百七十一年の革命以後は政治犯人をも此に送りたり。然れとも斯る政策は永續的殖民上適當ならざることを示せり。固より此の地に送られたる者の中には自由職業者、巴里に於ける奢侈品工業者、金彫師、彫刻師、指物師等の不穩なる人々ありしなり。千八百八十年の赦免し依り其の大多數は本國に歸還したり。而かも斯る移住は此の遠隔の島に對して有利なりき。何となれば之に依りて速に天然の資源を開拓するを得たればなり。總ての佛國殖民地に於けるか如くニユーカレドニアに於ても白人種の人口増加は靜止せり。千八百九十七年流刑を廢してより以來殊に然りとす。

偕て佛國殖民政策は大體に於て其の意義如何。我か獨逸人は頻りに佛國の殖民政策を賞讃し、之を目して範となすに足るものと做せり。今余は此の評論に對して少しく檢束を加へんとす。殖民的企業 (Koloniale Unternehmung) の準備せられ實行せられたる方法は模範となすに足り且つ注目に値するものあり。佛國は第三共和政時代に於ては嫉妬的の傲慢なる方法を以て帝國主義的の行動 (Imperialistische Taten) を持續し且つ之を敢てし毫も資金を抛つて辭せず。佛國の士官、商業者並に學者は極めて智略ある華々しき事業をなしたり。然れとも外國の領土の殖民的獲得 (Kolonisatorische Gewinnung) に最も必要なる決定に於て又個々の微々たる事項に關する耐久的事业に於ては佛國は屢々失敗したり。前に記述したるが如く第一期殖民時代に於て現はれたる特徴は若干の變態の下に後再び現はる。佛國の主義方針及佛國人の變り易き特質は其の事業を失敗に導くこと夥し。又思慮淺薄及冒險的所業の例にも乏しからず。されと最も主なる一事は力の足らざる點にあり。佛國人は殖民國民 (Kolonisatoren) と謂はんよりも寧ろ企業者なり征略者なり。フアシヨダ事件以後に於ける國際上の佛國の地位は最早獨立的に非ず、之と同時に其の殖民地に於ける内政上の事業も亦最早獨立的ならず。佛國人か殖民地に對して佛國特有の外觀を施すの術に長せることは前に屢々述べたる所に依りて明かなるへし。而かも此の巧妙なる術たるや曾て稍

稍佛國風となりたりし加奈陀、ルイシアナ(Louisiana)、マルチウス及ハイチ(Haiti)等の殖民地を失ひたるか如き事實の外更に何物をも示さざるにあらすや。されど此の外観の下に存在するものは少くとも新に獲得したる殖民地に在りては、蘭西化せず又佛蘭西化するを得ず。蓋し事業を遂行せんか爲めに殖民會社に於て廣く且つ強大に徹底的の活動を爲すへき活潑なる民力の佛國に缺如すればなり。

佛國か其の殖民地經營の爲めに費す所は年々二億七千萬法に及ぶ。佛國貿易總額の十二パーセントは殖民地に依つて爲さるゝ爲なり。以て經濟上其の本國に對する價值如何を知るに足るべし。政治上に於ては殖民地は本國に對し全世界の一切の大なる權力問題と至大の關係を有する世界的地位を保障す。吾人若し殖民帝國の弱點、印度及マダガスカルに就いて一考せんか、則ち此の世界的地位なるものは其實質鞏固なりと謂はんよりも寧ろ其の皮相美なるのみと稱せざるを得ず而して此の特質は佛國のマロッコに對する關係に依りて更に一層之を明かにすることを得へし。

佛國か亞弗利加に於て英國の意に服するに至りて以來、亞弗利加の東西線を悉く自己の手に收めんとする企圖の失敗に終りて以來、彼は其の領得したる亞弗利加西半の地に向つて全力を傾けたり。アルゼリヤとセネガムビヤ(Senegambie)とを連結せんとの舊計畫は今や漸く實現の期

に近つかんとす。サハラ(Sahara)は不屈の精神と能力とを以て之を獲得したり。此の地豊饒にして沙漠中の沃地なるか爲めに價值頗る多し。トリムブクツ(Trimbuktu)に至る鐵道敷設の大計畫は立てられたり。亞弗利加内地に内海を開鑿せんとの計畫は詳細なる調査の後實行の困難なるを認めたりと雖も、其の計畫の尨大なる點に於て茲に特筆するの價值あり。斯くの如く佛國は探檢し殖民し且つ征略して始めて其の勢力を擴張したるなり。マロッコは獨り最近まで其の獨立を保ちたる國なりき。

此の國も亦政治上佛蘭西殖民帝國に對する要石と認ひべきことを看取し得へし。地中海と大西洋との間に介在する其の位置はマロッコをしてアルゼリヤ及チュニスよりも遙かに大なる價值を有せしめたり。然れども其の人民の精力及戰鬥力並に統一的主權の缺如——「シエリフ」(Sierif)は政治上の主權者と謂はんよりも寧ろ宗教上の主權者なり——は又之か征服の困難なるを思はしめたり。加ふるに西班牙はマロッコに最も密接し且つ其の多數の同胞か此に生活しつゝあるの關係上佛國よりも一層密接なる權利と更に大なる利害關係とを有したりき。

佛國殖民地に關する知識の造詣最も深く殖民政策の泰斗にして有名なる經濟學者たるポール、ルロア、ボーリユウは數十年來マロッコに關し國民に教訓を與ふる所あり。彼れは國民に向つて

マロッコの征服を企つへからざることを痛切に警告して曰く「マロッコの征服及占領は佛蘭西の國力を超過するものにして之か爲めにアルゼリヤ及チュニスの所有を確實ならしむるに非ずして寧ろ益々危険ならしむるに至るへし」と。又曰く「マロッコに於ける歐洲人の十分の九は西班牙人にして其の通貨は西班牙の貨幣なり。一朝外交上の危殆に頻するか如きことあらんか、マロッコは地中海に臨める北部の大半は舉げて之を西班牙に譲り、僅かに其の殘餘大西洋の沿岸のみ佛國の有に歸するか如きことなきを保せず」と。

主として佛國外交を代表するの衝に當りたるデルカッセ (Delcassé) は此の専門家の慧眼なる警告に耳を傾けず、慎重にして節度ある政策を探らずして空想的榮譽慾を曝露するか如き大計畫を立て、千九百四年佛國はマロッコに關し英國と共に公然の協約と秘密協約とを締結し次いで又西班牙とも同様の二重協約を締結せり。千八百八十八年の國際的マロッコ會議 (Internationale Marokko Konferenz) 及當時締結せられたるマドリッドの條約以來列強はマロッコに於て同等の權利を有することとなれり。英佛秘密協約はマロッコに於ける佛國の權利か恰かも埃及に於て英國の有する權利と同一なることを承認せるものにして、西班牙には報酬としてセウタ (Ceuta) の一小地を委ぬる事としたり。公然の協約の意義及語に全く相反するか如き秘密協約は正に他の列

強の權利を憶面もなく侵害するものなり。就中獨逸は其のマロッコに於ける經濟上の利益の爲めに最も大なる關係を有す。

斯くて佛國は不撓の精神と非常なる狡猾心とを以てマロッコの獲得に努力したり。後更にアルゼンラス (Algieras) の會議に依り國際法上の要求假定 (postulat) としてマロッコに對する各國の權利を同等ならしめんことを協定し其の實現に着手することゝしたり。而かも尙ほ佛國は英國との秘密協約の確かなる基礎に依りて私かにマロッコに對する努力を繼續したりしか、千九百九年特別協約に於て更にマロッコの領土保全と主權とを承認し且つ經濟上の利益を求むべき獨逸の權利をも認めたり。而かも越へて千九百十一年「ムスルタン」ムレ、ハフィドの援助を請へるを機としてフェズ (Fes) を征略したり。茲に於て佛國と獨逸との間に一大危機を生したりしか漸く和解して佛國はマロッコの保護者たるの地位を得獨逸にはコンゴ (Kongo) を以て酬ふたり。

マロッコ事件か世界歴史上に於て如何なる意義を有するかに就いては茲に論究せず。殖民史上の立場より觀るときは該事件は佛蘭西共和國の狂暴に外ならず。アルゼリヤ及チュニスに於ては歐洲人の一名に付回々教徒七人の割合なるに、佛國人一名に付回々教徒四十人の割合を示せり。佛國の立場よりすれば回々教徒の數を増加するか如きは全く狂氣の沙汰なるへし。才智富み學識

ある佛國殖民政策者は祖國の爲めに佛國の殖民は最早其の面積に於ては之を擴張すへからず、現に領得せる殖民地を出來得る限り鞏固ならしむへしと警告したり。誇大狂と復讐熱に冒されたる外交政策當局者は此の警告を毫も意に介する所なかりしなり。

第六章 英吉利の殖民

中古の英吉利は西洋文明國の大なる出來事に關係せずして之を傍觀するか如き状態に在りたり。其の野心は歐洲大陸に於て自己の地位を得んとするに在りき。即ち當時英吉利は富裕なる北部佛蘭西の諸洲を征略せんと企てたり。當時の英吉利の状態及努力は後に瑞典の認識志望したりし所と比較することを得へし。瑞典も亦海の彼方の大地を征服し海上支配權を自己の手に收めて以て強國たるの地位を贏ち獲んと欲したり。海陸發見時代(Zeitalter der Entdeckungen)に及び始めて英吉利は一大活躍を爲すに至れり。此の時に至りては英吉利は其の島國たる地位の不利を轉して大洋に於ける競争に於て新地發見の爲めに利用することを得たり。

其の後英吉利人はギオヴァンニ、ガボット(Giovanni Gabotto)の航海に依りて北亞米利加に對する其の要求權の基礎を確立したり。ガボット(Bristol)の市民としてジョン、カ

ボット(John Cabott)と稱せらるる)はリグリエン(Liguria)に生れ久しくヴェネチア(Venedig)に於て事業を營みしか、後英吉利に備はれ、ハインリッヒ七世(Heinrich VII)より陸地發見の特許狀を得て其の三人の子と共に北亞米利加に渡航したるなり。然れども此の事業に於ては未だ固より殖民なる思想は毫も存せざりしなり。當時西班牙人、葡萄牙人、和蘭人及佛蘭西人は未だ發見せられざりし地方に於て財寶を發見し或は異教徒をして改宗せしめ或は印度に到るべき道を求めたり。而かもガボット及其の後繼者たる英吉利人に至りては何等他の動因を作らざりしなり。英吉利人の殊に努力したるは北西の横斷航海なりき。

英吉利か眞の殖民の必要を感ずるに至りたる重大なる動機は其の政治的生存の爲めになしたる大戦争によつて與へられたるなり。英吉利は西班牙の國家的、宗教的膨脹に刺戟せられ、和蘭と共に至大の努力によりて強國たらん意氣を鼓舞したり。當時の英吉利は少壯にして元氣に富める敢爲の小國民を有する國なりしか、エリサベス女王の時代には其の懷抱する所を總て計畫企圖し赫々たる大發展を期し得るの勢ありき。當時の英吉利國民の特徴は原始的にして天真爛漫たりき。彼等は艦隊(Armada)を物ともせず困難なる經濟的變動に打勝ち、漸く増さんとする富と漸く盛ならんとする産業と冒險的の文學と樂めり。英國の海外發展事業は假想的の危機より其の由

來を求むることを得ず。寧ろ英吉利は社會的階級の錯雜し經濟的組織の錯綜せるにも拘はらず、其の國民的自覺よりして鏗鏘として餘裕ある態度を以て一切の威嚇迫害に打勝たんとするの元氣と能力とを得たるなり。

北亞米利加

異母兄弟なるサー、ハンフレイ、ギルバート Sir Humphrey Gilbert) 及サー、ウォルター、ラレー (Sir Walter Raleigh) の二人は實際的殖民の意義を有する特許狀を得たり。彼等はニュー、フォンドランド (Newfoundland) 及北亞米利加沿岸に於て殖民地の獲得を企てたり。ラレーは其の占領したる殖民地に對し英國女王の名に因みてヴァージニア (Virginia) と命名せり。されど此の兩者の殖民事業は久しからずして失敗に終れり。英吉利は海上に於て確かなる保障を獲得せざるへからざりき。海賊たるハッキンズ (Hawkins) 及海軍提督サー、フランシス、ドレークの如きは此の初期時代に於ける主たる勇者なりき。

第一スチュアート (Stuart) 家時代に於て復ひ殖民事業の物與を來せり。ヤコブ一世 (Jakob I) は北亞米利加に於ける殖民を目的としてプリマス (Plymouth) 及倫敦に設立せられたる二個の會社に對して特許狀を附與したり。最初の永續的效果は再びヴァージニアに於て達せられたり。即

社はシエームスタウン市 (Jamestown) を建設し煙草の栽培を開始せり。千六百十九年殖民地知事 (Gouverneur) は始めて亞米利加の地に於て代議的議會 (Parlamentarische Versammlung) を召集したり。されど此の獨立自治の思想は嚴格なる君主政治 Monarchismus) を行はんとするスチュアルト王家の感情を害し、爲めに會社は迫害を受け幾多の紛争を惹起して遂に解散の運命に會しぬ。英國か亞米利加に於ける此の新發見地に於て永久的の確實なる基礎を得たる運命は極めて幸福なるものありき。歐洲に近き北亞米利加中央地方には最も重要な南亞米利加の地方の如く數多の移住者を見さりき。此の地には印度の土人は少なく且つ其の居住定まりなく政治上支離散在して集團を形成せず。——山民 (Waldvölk) は奴隸となるを欲せず塵にせられたり。此の地は大なる湖水と河流の爲めに大に開發せられ河流は沿岸より遠く船舶を運行せしむるに足り其の廣闊たる平野は實に移住と大なる仕事とを爲さしむるに足るものありき。而して此の地に移住し來りたる者は固より政治的自治を有する民主國民にはあらざれども、而かも政治主權の國民性に適ふべきものなること、個人的權利の不可侵なること、を領解し、一等國を形成するに足るべき能力を示したる國民に外ならず。此には法と理性と實際的救援及計畫とに對する眞率公平にして自然的なる精神の存在せしを見る。固より之を西班牙人の堂々たる勢力と佛蘭西人の才智に富める光彩

とに比較するときは當時の殖民政策上細心節制に過ぎたるか如しと雖も、而かも深刻なる永續耐久性は實に此の精神の裡に宿したりしなり。吾人若し最初英吉利殖民者の文書を一讀せんか、其處にも亦此の精神の存在するを見る。曰く『其處には何等精神的のものなく又忘るへからざるか如き能力の人もなし、されと近親をも顧みずして進み且つ瑣々たる事に拘泥せずして絶対に適切なる處置を取るの才幹あり』と。是れ必ずしも廣大にして高尚なるものにはあらずと雖も其の進取的にして元氣あり且つ確乎たるものあるを見るへし。

宗教上の自治及寺院の特權を得んか爲めに起されたる戦争は、始めて英吉利の殖民事業として世界歴史の頁を飾るに足るへき且つ斬新にして特徴あるものたらしむるに至れり。戦争と經濟との爲めに著しき緊張を來したる後に於ける當時の英吉利精神は清教徒理想的世界觀を以て其の上至純なる理想となせり。當時羅馬教及絶對説、監督及輕浮、封建的壓制及社會的強迫並に良心の強制を以て最も必要なる生存可能性を迫害するものなりとなし、之に反對して清教徒的社會精神は發生し來りしなり。

千六百二十年「メイフラワー」號(Mayflower)は信仰的自覺を以て自ら巡禮なりと稱ふる移民百二十人を乗せてブリマス港を拔錨したり。而して彼等一行は亞米利加海岸に上陸するに先たち「コ

ンパクト」(Compact)と稱する有名なる一契約を結び、彼等の將來制定すへき法律に服従するの義務を負ふべきことを誓へり。實に彼等は互に團結して一の『政治團體』("Civil body politic")を作らんと欲したるなり。

是れ實に、殖民史上に於ける大事件の一たるを失はず。此の地に對しては國家も會社も耕作者を求むるの必要なかりき。自己の故郷に於て生活し得ざりし人々は、其の内心の要求する所に從つて新なる郷土即ち眞に彼等のみに屬せし土地を此の地に於て求めたり。千六百十八年に至りマサチュセッツ會社(Massachusetts Company)の設立を見たり。同會社は商業を營ます又開拓政策を採らすして亞米利加移住事業を目的としたり。ボストン(Boston)の建設せらるゝや數千の移民は此に渡航せり。斯くて殖民事業は相踵いて起り、先づロードアイランド(Rhode Island)は自由寛大主義の下に殖民地となり、次いで西方の豊饒なる土地にコネチカット(Connecticut)殖民地を建設せり。此等の殖民地は最初各々特殊の政體を有し其の自由獨立を誇りとしたりしか、其の後千六百四十三年を以て締結したるニューイングランドの聯合殖民地の同盟 Confederation der Vereinigten Kolonien von Neu-England)に依りて協同するに至れり。

ニューイングランド諸國(Neu-Englandstaaten)の外更に他の精神に基ける殖民地の建設も亦勃

興せり。舊教徒バルチモア卿(Lord Baltimore)は國王よりメリーランド(Maryland)を附與せられたり。此の殖民地は一個の公領(Fürstentum)とも稱し得べきものなりき。何となればバルチモア卿は毎年國王に對して只た印度人の用ふる矢二本を奉呈し、且つ發見せられたる金銀の五分の一を納むるの義務を有したるに過ぎざればなり。カロリナ殖民地の起源も亦朝廷的にして貴族的性質を帯へり然れども貴族及士官は此の地に於て多くの効果を收むること能はざりき。最後にジョージヤ(Georgia)は千五百三十二年を以て建設せられたり。此の殖民地は特に本國に於ける貧困者に生活の途を與へたるものにしてザルツブルグ(Salzburg)新教徒の移住も許されたり。斯くの如くにして英吉利の殖民地は北亞米利加に於ける和蘭の殖民地たる新和蘭(Neu-Niederland)を包括したりしか、和蘭人は英吉利人に反抗することを得ず、又彼のグスタフ、アドルフ(Gustav Adolf)の大計畫を實現せんか爲めにクリスチーネ(Christine)の建設したる新瑞典(Neu-Schweden)も征略せられたり。茲に於て英吉利の殖民地は連續せる一帯をなし君主的の勢力は此の地に向つて盛に扶植せられたり。ウィリアム、ペン(William Penn)に對しペンシルヴァニア(Pennsylvania)に關する特許狀を附與するに當り、國王は關稅及租稅の權は勿論殖民地法律に對する拒否權に至るまで之を自己の掌裡に收めたり。ペンシルヴァニア諸種の宗派に屬する

教徒の隱遁所となり、獨逸の新教徒に至るまで此の地に移住し印度人も亦同胞として歡迎せられたり。斯くしてウィラデルフィヤは眞に其の貴き名に耻ぢざりし也。

英吉利殖民地は之を大別して——個々の殖民地に就いて之を見るときは種々の色彩と變化あり——自治的起原を有する殖民地(autonomer Herkunft)と主權的起原を有する殖民地(autoritärer Herkunft)との二と爲すことを得へし。前者は最も原始的なる形にして速かに本國に於ける商人及貴族社會の羈絆を脱し急進的民主主義的の形に於て發達したり。第二種に屬する所有主殖民地(Eigentümerkolonien)は企業精神及び「ロード、プロプライエター」(Lord proprietor)の特徴に屈從す——バルチモア卿は彼の權力は神意より出づるものなりとして其の代理者をして專制的方法を以て之を行はしめたり。カロリナに貴族的會社を新に設立せんとしたる企ての如きは特筆すべき事項なり。然れども所有者は英吉利に於て一般に行はるゝか如き貴族の稱號を用ふるの權を有せず「方伯」(Landgrave)「會長」(Kaïque)の如き稱號に限られたり。哲學者ロック(Locke)は封建的趣味を帯ひたる憲法制度を案出したるか、殖民家の反對ありし爲め實現せらるゝに至らざりき。土地所有者は其の殖民地に於て彼の卓越せるウィリアム、ペンの爲に蒙りたるか如き夥しき犠牲を拂ひて大事業を爲したり。スチュアルト王家か其の勢力の根據を殖民地に置かんとするに及び

所有者は不利なる影響を蒙れり。ヨーク公(Herzog von York)はニューヨーク及ニューチャールスを獲得して専制政治を施し凡ゆる自治を壓迫したり。爲めに殖民地は多年困難なる状態に沈淪し政府は特許狀によりて之を制するの已むなきに至れり。之と同じくカール二世(Karl II)はメーン(Maine)及ニューハンプシャー(New-Hampshire)をモンマス公(Herzog von Monmouth)の爲めに購入せしめたり。スチユアルト家放逐の後に及ひては所有者の権利は益々制限せられ、當時政府は一切の中間主權(Zwischenautoritäten)を排除し殖民地を成るべく王領殖民地(Kronkolonien)として發送せしめんと欲したり。

北亞米利加に於ける英吉利の殖民を概観するに凡そ次の如きものあり。英吉利の移住民は其の移住に當り英吉利人たるの權利を携へて新大陸に臨む。而して彼れは本國に於て望みたりし訴訟の手段と政治的の制度を有し、且つ何等の障害なく之を發達せしむることを得るなり。土地は合理的に分配せられ租税は度を失せず、又本國は殖民地の土地に關する特權を要求せず。高き見地よりする形式もなく規程もなし。最初の移住者は共同して土地を耕作し、何等の人爲的妨害を受けずして漸次に内地に進入す。彼等は一定の土地に住居すへき束縛を受けず、又保護監督を行はんとする官僚もなく、死者の遺産を押領する寺院(Jose Hart)もなし。所有者、特許會社又は國王に對

して地代を支拂ふときは移住者は其の土地の所有權を取得し得べく而して其の土地は更に他人に讓渡することを得へし。階級を組織し特權を附與するの計畫は成功せず。故に就中ニューイングランド諸國には特に勇敢にして堪能なる人々を選択して組織せられたる自由平等の新會社存立す。英本國は殖民地に對して財政上何等の要求を爲さず。随つて亞米利加人は其の統治に要する費用を調達すは足る。彼等は公共の事務を處理せしむるに名譽職を以てし一切の費用を節約したるか故に其の費用は極めて僅少にて足れり。住民一般に恭謙端正にして同種の天稟を有し、概して勇敢にして活動的なると共に堅實にして堪能なるを以て甲を以て乙に代ふることを得へし。常に清教徒主義を以て人生觀となすか故に、風氣極めて嚴格にして仕事を樂み秩序、教育及宗教の觀念に富み、節約を重んじ且つ向上心に富む。此の猶太「カルツイン」教的精神(jüdisch-kalvinistischer Geist)あるか爲めに世俗と其の榮譽とを賤し、社會全般の爲めに自己を忘れて活動するに努めたり。而して此の精神は實に英吉利の殖民の生存要素たりしなり。

殖民地の經濟的發達は自然的及歴史的條件に従つて頗る種々なる方面に向へり。ニューイングランド諸國に於ては始めは主として中規模及小規模の農業經營を行ひ、次いで造船、大洋漁業、諸種の工藝、商業等の發達を來し、其の結果都會の形成となれり。

曾て和蘭領たりし殖民地に於ては商業思想及一處不住の風以前より盛なり。而して斯かる特質は將來に於ても益々其の度を高む。ヴァージニア(Virginia)に於ては煙草栽培盛にして大地主階級を生じ、彼等は益々廣大なる土地を得ること容易なりき。殖民地に於ける重大なる問題は労働問題なり。而して之に關する重要な事項は労働契約に依る移住、白人労働者の移住、所謂「契約雇人」(“indentured Servants”)の使役なりとす。這是亞米利加の投機者の英吉利及獨逸に於て傭入れ來れる自由の歐洲人なり。是等労働者の移住に要する費用は前拂せらる。其の代りに彼等は一定の年月の間自己の自由を棄て、傭主の下に労働すへき義務を負ふ。此等労働者の労働の状態は一般に困難なるものありき。傭主は凡ゆる手段を講じて此等使役年月に限りある白人奴隷を永久に使用せんと企てたり。然れども此等奴隷の多數は大に労働して自由の身となり且つ輸送の費用を償ひて尙ほ資財を剩し得たり。忽ちにして黑人奴隷は白人労働者を厭倒するに至れり。千六百十九年始めて黑人を乗せたる船はヴァージニアに着し、彼等黑人奴隷は南部より北部に向つて擴布したり。北部地方は黑人奴隷の輸入に反對して之を阻止したり。然れども英本國か奴隷賣買の主要なる國となり、従つて殖民地に對して黒き商品(黒人の意)を押賣したることは茲に特筆すへき一事なりとす。メリーランド及南カロリナに於ては栽植制度盛なり。此の地の狀況は西印度

に類似する所頗る多し。而して此の殖民地に於ては都市生活及市民生活の發達を見ざりき。第十七世紀の中葉には北亞米利加の英吉利殖民地に於ける殖民の數は四萬人を算したりしか、千七百四十年に至りては其の數實に一百万の多きに達せり。海の彼方に於て英語を使用する市民の新社會は斯くの如く永續的に且つ正則的に膨脹しぬ。彼等は初めは殆んど自由に放任せられて其の特性を鞏固ならしむることを得たり。而して今や強大となり人口繁殖し來りたる彼等は、正に本國の主權に取りては一種の危険と目され得るに至れり。今や聖書の文句の如き言語を使用し、寺院に於ける微笑を目して犯罪なりと做せる北方の農民と、社交と競技を事とし堂々として華美なる生活を營みつゝある南方の尊大なる栽植地所有者との間の反目、並に至正廉節にして發展力の稍々遅々たるフイラデルフイアの「クエーカー」教徒(Quakers)と、曾てニュー・アムステルダム(Neu Amsterdam)と稱せられし地の富裕なる商人との軋轢は極めて大となれり。——彼等の間には習俗、教育及人生觀に於て大なる相違あり。茲に於てか本國の主權者は此の錯雜せるものを以て一個の統一せる英吉利殖民地を建造するは最も必要にして有利なるは勿論、之か實行も亦不能ならざるへしと思惟したるなるへし。英吉利の國家思想に此の傾向ありしことは夙に國王か成るべく多くの殖民地を自らの直轄となさんことを企てたりし稍々緊要なる一事によりて之を了解

し得へし。 Cromwell (クロムウェル) に依りて成されたる英吉利の勢力の大なる發展は、此の生産力に富める盛なる殖民地を國家的に強熟に本國と連結せんとするの思想を發生せしめざるを得ざりしなり。

千六百五十一年 Cromwell は航海條例 (Navigationakte) を發布しかり。是れ實に英吉利の海上支配權及世界支配權の根本法たりしなり。同條例に依れば凡そ歐洲以外の貨物は英吉利の船舶に依るに非されは英國に輸入することを得ず、而して英吉利に於て建造せられ英吉利臣民の所有に係り英吉利人を船長とし英吉利の水夫に依りて操縦せらるる船舶に非されは英吉利船と認めざることせり。之に依りて外國人の中間貿易は一撃の下に全く撲滅せられたり。次て Karl II (カール二世) の時代に於ては國會は殖民地に對して極めて銳利なる寸鐵を加ふるか如き航海法を制定したり。此の法律に依れば殖民地の主要なる生産貨物は英吉利のみに輸入すべく、他の歐洲諸國に向つて輸出することを得ざるものとせり。之に依りて殖民地の貨物は獨占せられたり。該法律の表には生産品目を列舉せり (特定貨物 ["enumerated commodities"])、此の表は後に追加せられたるか西印度の熱帶産物のみならず亞米利加大陸の最も重要なる貨物をも包含せり表に列記せられざる貨物は諸國に向つて輸出することを許されたり。されと其の輸出は英吉利の船舶に依り且

つ英吉利の港よりせざるへからず。是れ實に運送及航路の獨占なり。殖民地に輸出すへき歐洲の貨物は先づ英本國の港に運漕し一旦陸揚せざるへからず。獨り之れのみ止らず、更に進んでは英吉利臣民又は歸化したる英人を除くの外、商人若くは製造工業の所有者として殖民地に於て其の事業を營むことを得ざることを定めたり。是れ實に人間の獨占に外ならず。

以上は只た殖民史上の見地よりして英吉利の重商主義 (Merchantism) を觀たるものに過ぎざるか、尙ほ殖民史上此の規定は次の如き意義を有したるなり。即ち殖民地は英本國に對して原料を供給し、本國より製造品を購求し、本國をして中間貿易を營むことを得せしめざるへからず。殖民地は本國の爲めに生存し且つ働かざるへからず。而して其の全存在は單に本國の身振たるに過ぎずと做すなり。本國と殖民地との間には海底線を交互に引設し以て外國人の侵害を豫防せんとしたり。蓋し殖民地に於ても亦外國の競争の防遏及本國の製造業を阻害 (木綿、帽子、鋼鐵鎚) するの虞ある工業の壓迫を容易ならしむへき手段を講せられたればなり。

次に少しく此の制度を總括的に觀察せんとす。固より騰貴の場合には例外あり又所謂戻稅 (Drawbacks) の如き便利をも與へたりしと雖も、而かも大體に於て斯る禁止と差別關稅 (Differenzialzölle) 並に航路の規定と盛なる經濟事業に對する壓迫に依りて本國と殖民地とを緊着せしむる

事は甚だ危険なる専制抑壓なりと謂はざるへからず。經濟上より見るときは英吉利の經濟に取りては此等の多くは必要にして且つ有利なりしなるへく殖民地に對しては之か爲めに非常なる壓迫と損害を及ぼすか如き事なかるへし、又政治上其の制度は英領西印度に對しては適切なる處置なりしと雖も、英領北亞米利加の如き殖民地に之を適用するか如きは大なる過誤なりしなり。何となれば亞米利加人には既に業に亞米利加的自己感情發達し、彼等は常に自由に慣れ、彼等是一種の特性を養ひ、彼等か曾て臣民として否臣民としてのみ倫敦政府に對して關係を有したりし時に比すれば彼等は其の官吏、僧侶及代議士の選舉に依りて大に政治的活動に慣れ居りたればなり。英吉利の政策は今や彼等の歴史的名譽を傷つけたり。彼等は之に屈從し得ず、又屈從することを欲せざりしか故に終に本國の措置に反抗せざるへからざりしなり。

英吉利政府は七年戰爭に於て佛領北亞米利加を獲得せしより以來、其の國家的權力と其の國家的天職とを誇大するの傾向を生じたり。古き殖民地と新に獲得したる殖民地とを打つて一團となし、此等總ての領土よりして政治上、經濟上及軍事上大世界に於ける強大なる統一體として眞の一帝國を建設することは果して可能ならざりしか。近世の歴史に於ては何れの國と雖も英吉利の世界的地位の右に出づるものなかりき。此の時に當りて英吉利か亞米利加を確保して英吉利の爲

めに之を利用するを得たりしならんには孰れの國と雖も到底之に敵する能はざりしなるへし。佛國は殖民地を捨て、再び歐洲大陸に擊退せられ、西班牙の殖民帝國は支離滅裂となり、和蘭は不具の状態となり、露西亞は未だ尙ほ背後に在りしなり。

英吉利は終に曾て得たりし最大の機會を逸したりき。

本國と殖民地との葛藤は財政問題に關して突發せり。當時英吉利の國債は佛國との戰爭の爲めに著しき膨脹を來したり。是を以て英吉利は其の戰爭の目的物たりし殖民地をして國債消却に與からしめんと欲し、遂に殖民地に課税せんことを議決せり。抑々議會は之に對する權能を有したりしや。茲に於て舊來の歴史的權利は新らしき民主主義的及革命的權利との衝突を招きぬ。亞米利加人は其の代表者を選出せざる議會か彼等の事情に通せず且つ彼等と共に事を議せずして妄りに租税を課せらるの道理なしと主張せり。而かも英本國は之を顧みるに遑なかりき。從來の貿易上の制限は嚴格に施行せられ、砂糖に對する關税は著しく高められ、珈琲、酒、藍に對する關税は新設せられたり『代表なければ課税なし』(“No Taxation without representation”) 是れ實に當時の亞米利加人の常套語なりき。彼等は關税を以て自然法に反するものなりと做せり。斯の如くして此の活氣ある新國家有機體と共に舊英國の紙上の主權を破壊すへき新たな一權利は生

れ出てたるなり。

英本國の第二の處置は印紙税の賦課是れなり。殖民地は之に答へんか爲めに未だ曾て見ざりし特權尊重主義の團結を組織して紐育に會議を開き大に之に對する抗議をなし以て其の權利を主張したり。爲めに印紙税條例は廢止せられたりと雖も、更に硝子、鉛、紙及茶に對する新たな關稅を課するに至れり。茲に於てか再び殖民地人民の反抗を惹起しボストン市民は非買同盟を議決せり。英本國は之に對應するの策を講じて只た其の主義を貫徹せんと欲したり。然れども葛藤は既に激烈となり、一面には偶發事件となり、他面には強制法律となり兩者の政治的生存價值は斷絶して互に相對峙し、斯くして遂に所謂「叛亂」(Rebellion)は勃發しぬ、此の叛亂は一年に亘る戰爭となり、亞米利加合衆國の獨立を以て其の終結を告げぬ。

這は實に殖民史上及近世史に於ける最大事件の一なりき。斯くの如くにして英吉利の殖民地は今や國家となれり。彼等は各自從來の自治と選舉に係る兩院とに重きを置ける憲法を備へて國家を構成せり。只た英吉利王と其の權力とは永久此の地を去れり。此の民主的共和的政體は歴史的發達の當然の結果なりき。人權及公民權の宣言は此の亞米利加に於ては實際の情態並に實際の生存條件の方式化に外ならず。租稅承諾權、統治機關の自治選舉、國民主權、身分の自由、所有權

の自由、信仰の自由、暴力に對する自衛——凡そ此等一切の國民的生存の確保は此の亞米利加に於て實現せられ獲得せられたり。此等のものは國家及人類發達の絕對理想として歐洲諸國に反響を及ぼさんとするに至れり。——即ち非常なる原動力の刺戟的素因となれり。吾人は此の殖民的出來事の反響が大に歐洲に於て現出したるを見る。而して此の現象たるや實に殖民史の研究に特殊の興味と特殊の意義とを添ふるものなり。

獨立せる殖民地は最大の困難に打ち勝てり。彼等は結束して本國より分離したり。然れども憲法上の統一は稍々後に至りて始めて成立せり。是れ實に何等の理義なく何等の系統なく全く自然的關係よりして新たに且つ直接に生れ出たる創造物にして活力を有する近世第一の聯合國家なり斯くの如くにして歐洲の諸殖民國の外に一つの國家は出現せり。而して此の國家は海の彼方に在りて歐洲の抽出物として、全く獨特の價值と清新なる光彩とを發揮せる憲法政治と文明の理想とを形成し、更に進んでは其の長所と短所とによる獨特なる歴史的發達を経て、遂に隆々たる世界強國の伍に列するに至れるなり。殖民に依りて漸次に強大となれる此の世界的強國(Weltmacht)か更に自ら殖民地を獲得し發展せしめて以て其の國力を發揚し其の國家的地位を鞏固ならしめたる事實如何は後章に於て更めて叙する所あるへし。

亞米利加に於ける殖民地たりし合衆國の分離後に於ける英吉利の行動如何。西印度に於ける英吉利の殖民は既に十七世紀の初期より始められたり。千六百五年英吉利の航海者は人影なきバルバドス(Barbados)島に銘を刻みたる木標を樹て、之を占領せり。當時其の風光の美と土地の豊饒なること、に關する評判の聲は頗る高かりき。ヴァージニア會社はベルヌダス島(Bernudus)及バハマ島(Bahama)に移民し、又南亞米利加にも移民を企てたれども失敗に終れり。バルバドス及西印度の小群島はスチュアルト王家より貴族に與へられ、貴族は自己の職業たると共に自己の支配權なりとして其の殖民の事を經營したり。バルバドスは王政黨(Monarchist)の隱遁所たると共に其の根據地となれり。グロムウエルか此の地を征服せしめたるも之が爲めなり。前に述べたるか如く西印度は佛蘭西人、西班牙人、和蘭人及英吉利人の爲めに慘烈なる鬭争の巷と化せられたり。彼等は互に私かに船を送りて殖民地を掠奪するを事としたり。戦争、掠奪、密賣買は此の地に於て常に絶ゆることなかりき。

英吉利人のジャマイカ(Jamaica)征服は至大の意義を有するに至れり。彼等は殘酷なる方法を以て西班牙人及其の從來使役せし奴隸即ち「マロニオン」人(Muroonan)を剿滅せんとし猛決を使

用して此等の不幸なる者を狩れり。ジャマイカは其の位地の良好なるか爲めに南米及中米に對する英吉利の密輸出入の主要根據地となれり。曾ては「ボカネール」(Bocaneer)の此に總督(Governor)となれることすらあり。同島は盛なる發達を遂げ、首府ポート・ロイヤル(Port Royal)は其の富と放逸なる風俗との爲めに有名なりき。彼のソドム(Sodom)の如く千六百九十二年の地震に依る怖るべき破壊は當時此の地の人民に影響を與へたり。爾來ジャマイカは不幸なる運命に沈淪し其の盛に栽培せらるゝ甘蔗收穫の收益より得る富は屢々怖るべき暴風の爲めに破滅せられ又奴隸の一揆幾度か起りし故に社會の秩序は傷害せられたり。ジャマイカに於ける英吉利人の黒人を待遇すること極めて殘酷なる他に其の比を見ざりしなり。笞刑は些少の懈怠に對して之を課し、體刑又は死刑は輕々に行はれたり。黒人の遊戯又は音樂は禁止せられ、奴隸は白人に對して證據を擧ぐることを得ざりき。奴隸一揆の鎮定の場合に起りし殘忍なる狂暴の如きは戰慄すべきものありき。

當時佛領西印度に於て黒人を解放せしことは著明なる事實なり。セント・ドミニゴ(St. Domingo) (ハイチ [Haiti]) に於て人權の重んずべきことを宣言するや、ジャマイカに於ても最早奴隸を使役すること頗る困難となれり。栽植者は奴隸の去るを防止せんか爲めに凡ゆる手段を講

したるか其の效なく、漸く千八百三十四年に至りて成功するを得たり。而かもジャマイカは良好なる發達を見るに至らず。偶々印度の苦力 (Coolies) を率ゐるに及び勞銀を低落せしめ全社會組織は破壊せられ、時と共に愈々衰頹に傾けり。是に於てかジャマイカの殖民行政當局は殆んど二百年間本國の干渉なく自治の行政を取り來りしジャマイカを英吉利政府の責任の下に置くべきことを要求するに至れり。——是れ實に殖民史上注意すべき最も稀なる事件なりとす。甜菜糖工業の勃興は熱帶地の砂糖生産に打撃を與へ、他の熱帶的栽植は速かに行はれざりき。此の如くにしてジャマイカ並に西印度に於ける他の英領諸群島は英吉利の殖民行政上永續的憂慮及び至大の煩累となれり。

加奈陀

第十八世紀の殖民政策は移住殖民地 (Siedlungskolonien) よりも寧ろ西印度諸島の如き栽植殖民地 (Pflanzungskolonien) に大に重きを置きたり。佛國は千七百六十二年大なる苦痛を感せずしてカナダを放棄し、而してマルチニク (Martinique) 及びガデループ (Guadeloupe) を獲得するを喜ひたり。十九世紀に於ては人口の増加、海外移民、殖民の増加に依り殖民地の状態は一變するに至れり。

カナダが英吉利の有に歸したるときは其の住民僅かに約六萬に過ぎず。彼等はローレンス (Lorenzenstrom) 河畔及海濱の地方に散在住居して稍々適度なる經濟的生活を營み居れり。而して專制的なる行政と嚴密に失せる規定とは其の發達を困難にし遲緩ならしめたり。所謂 "Coureurs des Bois" 即ち毛皮獵夫、狩人及毛皮商人は遠く北方及南方の森林にまで進入したり。多くの者は印度人と情を通し其の結果混血兒を見るに至れり。所謂 "メーチス" (Metis) 歐洲人と黑人又は印度人との間に生れたる雜種人 (即ち是れなり。彼等は赤き "シャツ" と水牛皮の "ズボン" を穿き、土人と文明人との間に立ちて "ロマンチツク" なる仲媒者たるの生活を營みたり。カナダにて得たる毛皮の三分の一は合衆國の商人の手に歸したり。斯くの如くにして久しき間内地に於ける國家的及經濟的境界を定むることは困難なりき。毛皮貿易は主としてハドソン灣會社 (Hudson Bay Company) によりて營まれたり。同會社は千六百七十年以來國王の特許狀に依りて成立し其の成績頗る良好にして年々六割乃至七割の配當を爲すことを得たり。

英吉利は其の初め征服者としてカナダに臨み、英國の法律を布き舊教徒に對しては參政權を興ふることを禁したり。而かもこは惡感を惹起せしむるに過ぎざりしを以て、後英吉利政府は此の制度を廢するに至れり。千七百七十四年のクベック條例 (Quebec Bill) は此の地の状態を全く一

變せしめ、巴里式權利は復ひカナダ人に附與せられ、全行政の爲めに立法委員 (Gesetzgebender Rat) を置き都市には自治制を施行するに至れり。此の見識と寛大とはカナダ人をして英吉利の施設に満足せしむることゝなれり。而して合衆國の獨立するや英吉利人の此の地に移住するもの遽かに多きを加へ、所謂愛國黨の人々 (Loyalisten) 英吉利政府の與黨相率ゐてカナダに移住せしもの七萬乃至八萬人の多きに達し、又合衆國獨立戰爭に出征したる英兵にして平和克復後亞米利加に止まりし者多く、彼等は北部海濱附近に土地を得て移住せり。

斯くの如くにして元と佛領たりしカナダの外、更に新英領カナダの成立を見たり。是に於て英吉利政府は種々の事情に鑑み、上カナダと下カナダとの二洲に於て其の情態に従ひて各々異なる行政を施す事としたり。兩洲は千七百九十二年小ビットの執政時代に上下兩院を有するに至れり。又他の隣接殖民地たるニュースコットランド (Neuschottland)、ニューブラウンシュワイヒ (Neubraunschweig)、ニューフオンランド (Neufundland) も同じく議會を有するに至れり。されど英本國は移住民なき土地の處分權を留保し、英國國立教會 (Anglikanische Kirche) は廣大なる土地を所有したり。本國の代表者の殖民地に對する措置は明かに甚た巧妙なりしとは謂ふべからず。殖民地生活に妄りに干渉し些細なる事項に至るまで監督を嚴にしたるの結果不平を惹起せし

め延いては公然的の衝突となり、終には反亂の爆發となるに至れり。合衆國の盛なる發展の例は餘りに近く存在し、カナダの住民にして此處に移住する者少からざりき。是に於て英吉利は其獨立の必ずしも不可能に非ざるべきを察し、速に之か防止策を講せざるを得ざりき。乃ち調査委員は設置せられ千八百三十九年カナダに於ける事情に關する報告書は提出せられぬ。這是英吉利の殖民政策史上有名なる事實なり。茲に於てか英吉利政府は重要な認可をなし、上下兩カナダを合併し、上下兩院 (Council und Assembly) を置くことゝなれり。爾來本國は漸次に自治的權限を擴張し、千八百五十六年に至り國王は立法委員 (Gesetzgebender Rat) を親ら任命せずして選舉に依らしむることゝせり。千八百六十七年に及びカナダはニュースコットランド及びニューブラウンシュワイヒと合併せられ、カナダ聯邦 (Dominion of Canada) と稱する強大なる政治的獨立團體を組織せり。其の首長として總督 (Governor General) を置く。千八百八十年に至るまでに附近の殖民地はニューフオンランドを除くの外總てカナダ聯邦に加入せり。

カナダに於ける土地の分配は最初は無償特許 (GratiskonzeSSION) の方式に依れり。其の結果幾許ならずして耕作地は毫も移住の目的なく又耕作すべき意志もなく只た土地の昂騰を待ちて暴利を占めんとする人々の所有に歸したり。當時此の弊害に關する請願の本國政府に提出せられたり

しもの其の數幾許なるを知らず。是に於てか一定の期限を定め其の期限内に移住を行ふべく、且つ一定の程度の家屋を建築すべきことを定めたり。國王は土地を復ひ掌中に收めんか爲めに大なる會社を徵收し、且つ僧侶をして其の廣大なる土地を放棄せしめたり。而して大なる不便は政府が土地占有税を施行する能はざりし點にあり。之か爲め久しき間道路及鐵道の開設に依りて此の新領土を開發すること能はざりき。ハリファックスよりクベックに至る最初の鐵道は千八百七十六年に始めて開始せり。

斯くて所謂『大カナダ』(Grösseres Canada) 即ち北部及北西部の開發極めて必要となれり。此等地方に於ては北西會社(Nord-West-Company)なるものありてハドソン灣會社と競争をなせしか、千八百二十一年に至り兩會社の聯合に依りて此の競争は止みぬ。第十九世紀の初期に當りてセルカーク卿(Lord Selkirk)は此のシムリヤに類似せる遠隔の地域の爲めに多大の盡力をなし、サザランド公妃(Herzogin von Sutherland)か其の所有地を牧羊地に變更するや、數多の英吉利移住民をカナダに向つて送りたり。彼れは英吉利の殖民に對する一大功勞者なり。此等の地は千八百五十九年英領コロンビヤ(Britisch-Columbia)の名の下に玉領殖民地(Krönkolonie)となり、後千八百七十一年に至りカナダ聯邦に合併せられたり。

カナダの土地は工業なく眞の文化なく原始的の情態にありき。故に最初より下層社會の人々を移住せしむるを以て目的としたり。此等の農夫の勞働に依る生活は固より富裕にはあらずしも極めて氣樂なりき。カナダは小地主の土地となり、堅實にして眞面目なる勞働の土地となれり。窮民、高利貸又は投機者は此の地に於て之を見ること能はざりき。北西に於ける新地は少くとも他の土地にては成功せざるか如き家庭の氣隨なる息子等は適當なりき。此の地に於ては古來身體の強健機敏及多少道德的要件の缺くること等を尊重したり。又風俗言語等も多くは『トラップベル』時代(Trapperzeit)のもの今尙ほ遺れり。例へば『家』の通り言葉として印度語の『トペー』(Tapee)を用ひ、又他人を招きて酒を饗せんとするときは『君に「角」(水牛ノ角)を呈せん』と言ふ。——カナダの主要なる資源は穀類並に森林なり。英領コロンビヤに於ては千八百八十七年以來金を産出す。而して此の地の將來は此の金の産出に至大の關係を有すと稱せらる。世人の曰く『鼠の頭アラスカ(Alaska)にあり其の尾モンタナ(Montana)にありとせば其の胸は英領コロンビヤにあり』と。

カナダ聯邦は屢々合衆國との紛糾を來したり。其の主なる原因はアラスカの境界及漁業權の問題に在り——既に久し以前より調停の目的を達せず。更に經濟上の確執は一層甚しきものあり。

合衆國の高き保護關稅はカナダに取りては大なる迫害なりと認められたり。又佛國と同じくカナダの爲めに漁業權を侵害せられたりと做すニューファンドランドとの關稅の争も激烈なりき。

印度

英吉利は亞米利加半球を自己の支配區域として主張するを得ざるに至れり。然れども彼れは其の失ひたる所を補ふべく多くの土地を得たり。第十九世紀に於て英吉利は勃興して亞細亞的強國 (asiatische Weltmacht) となり、其本國亞弗利加及濠洲は恰かも之か屬地たるか如き觀を呈せり。

印度は實に殖民史の分界標なり。印度は其の天然及其の生活上の無限の富あるか爲めに最も早く且つ永續的に歐洲人の殖民的努力の目的地となれり。而して歐洲人は固より少くとも其の歴史的運命を開拓完成せんか爲めに之を必要としたるなり。印度は全く獨特の教育ある生活形式を有し、其の人口に比して過剰の富を有したり。歐洲人の開拓者として壓制者として侵入者として斯くも激しく進入したるは此の地を措いて他に其の例を見ず。

印度とは如何なる地なるか。我か小學校地理科に於て此の語に相當するのヒンドスタン語は之あるを見ず。印度は國にあらす、大陸にして抽象したる一の世界なり。ヒマラヤ山脈と大洋の間に位する地域には他に類を見ざるか如き區々たるものと偉大なるものとの對照を藏せり。即ち版

漠なる平野と世界に於て最も高き山脈、最も強甚たる熱帶の炎熱と永久の嚴寒、全く乾燥せる地方と霧深き地方、極めて豊饒たる地と氣味惡しき砂漠、是れ皆此の地に於て見る所なり。ベンゴール (Bengal) に於ける人口は佛國のそれに二倍し、眞の「ヒンドスタン」人 (Hindostan) たる住民は合衆國に於ける白人の數を凌駕す。「マラーッテン」人 (Mahratten) は西班牙の人口と比敵すべく、「パンチャブ」 (Pantjab) 並に「スキンデ」人 (Scinde) たる住民は土耳其のそれに二倍す。其の用ふる言語は七十種の多さに及ひたり。カルカッタ (Kalkatta) 人はデリト (Delhi) の人を見ること尙ほ羅馬に於ける英國人を見るに等しく、スコットランドと希臘との距離はバンヂャブとベンゴールのそれよりも近し。印度には印度の國民なく印度の人民なかりしなり。随つて固より此の大陸には形體上、政治上、社會上又は宗教上の統一なし。印度はメキシコ (Mexico) 及ペルー (Peru) か西班牙人の爲めに征服せられたるか如く曾て征服せられたることなし。又アルゼリヤか佛蘭西人の爲めにせられたるか如く組織的に占領せられ且つ移住せられたることなし。印度の問題は殖民史上他に比類なき唯一のものなり。吾人は比較と對照とに依りて此の問題の範圍と特殊なる性質とを明らかにせざるへからず。

葡萄牙人か東印度に至る海路を發見したる事に關しては既に述べたる所なり。而して西班牙人

の印度到着は數千年の古き歴史の第三期時代を劃したるものなり。其の第一期は「アリアン」人 (Arier) の印度侵入、其の原始的住民との交配、人種の争及佛教的「ヒンヅ」文化を齎らせる宗教上の争を以て特徴とし、其の第二期は回々教を印度に輸入せし「テューラン」人及蒙古人 (Turani-sch-mongolische Völker) の侵入に依りて開始せられたり。帝國は一度建設せられて倒れ、王家は興りて復ひ滅亡し、天然の状況の不統一なるに加へて人種の混合及宗教の不統一も亦發生せり。而して斯くの如き不統一と錯雜とは即ち歐洲をして此に殖民することを可能ならしめ、遂に其の効果を收むることを得しめたる所以なり。蓋し歐洲人の此の地の獲得は固より歐洲の國家組織及歐洲の經濟組織の發展に對する一大革命を意味するものなりと雖も、印度帝國及國民に取りては此の獲得は印度の革命と危機と戦争に参加すへき貪慾なる白人を齎らしたるに過ぎざるなり。住民の多數は古來其の生活と其の感情とを墨守したり。——實際彼等をして之を更めしむること能はざりき。されは英吉利人は葡萄牙人、和蘭人又は佛蘭西人と同しく殆んど彼等の舊慣を改めしむることなかりき。

千六百年英吉利商人の一會社はエリザベス女王の特許狀を得て船舶を印度に送らんとしたり。第一回の旅行はモルツケン (Molukken) 及びスンダ島 (Sundainseln) に向つて企てられたり。千六

百九年初めて東印度に上陸してスライト (Surat) に製造場を設立したり。斯くて英吉利人は大蒙古帝 (Grosmongul) と結びて葡萄牙人に戦を挑みたり。同會社は千六百十二年に至り其の組織を變更して眞の株式會社となるか、此の時までは會社の事業及利益は各個人に屬したりき。最初の旅行は其の効果極めて大にして九五「バーセント」の利益を占めたるか爾來其の事業は頗る振はざりき。當時和蘭の東印度會社は頗る殷盛にして成績優良なる團體なりしか、英吉利の會社との意思永く疏通せず又英本國に於てすら競争者現はれたり。スチユアルト王家の王政時代及内亂 (Bürgerkrieg) 時代の英吉利に於ては印度の事業に對する元氣も全く沮喪し又購買力をも有せざりき。

カール二世 (Karl II) は再び會社に對して利益を與へたり。王は葡萄牙の皇女カタリナ (Katharina) との結婚に依り嫁資としてボンベイ島 (Insel Bombay) を獲て之を會社に下付したり。斯くして會社は次第に基礎を固め得たりと雖も、幾許もなく「マラッタン」人との葛藤を生せり。加之葡萄牙との斯る結合は英吉利人に害を及ぼしたり。即ち葡萄牙人か傳道事業の爲めに日本に於て烈しく嫉忌せられたるに及び英吉利人も亦隨つて日本より排斥せられたり。當時に於ける會社の一般の状態は頗る振はざりき。會社の役員は自ら恣に賣買を營み、富裕なる商人は印度の

貴族より特権を買収し、蒙古帝との争の結果大なる屈辱を蒙れり。本國は會社を攻撃するに至り其の内地の工業は困難なる状態に陥れり。然れども會社は英吉利に於ける有力者に賄賂を送り海賊的の所業を以て競争を敢てしたり。

千七百二年舊會社は新に組織せられたる競争者と合併してこの定款を制定したり。此の定款は其の衰運と傾くまで大部分維持せられたり。五百磅以上の株主は總會に於て一表決権を有したり。此等の株主は毎年四回集會し、二千磅以上の株主中より二十四名の重役を選出す。其の任期を一箇年とす。重役は委員をして其の事業を行はしむ。會社の英吉利に輸入せる主なる貨物は「キヤラコ」布、生絲、茶、陶器、香料等とす。其の代りに會社は印度に對して内國産物、就中金屬及木綿を輸入したり。會社の管理には莫大なる費用を要したり。其の主なる純益は重役及役員の衣囊に歸し爲めに分配すべき配當金は比較的少額なりき。當時議會に於ては盛に印度貿易を自由ならしむべきことを要求せられ、遂に會社は一定の期限満了する毎に其の特権を改正せらるゝに至れり。固より此の改正の爲めに大なる犠牲を拂ふか如きことなかりき。千七百四十四年會社は三分の極めて低き利を以て一百萬磅を英吉利政府に貸與し以て其の獨占権を確保したり。

歴史上に於る大問題は此の商事會社か印度に於て其の勢力を扶殖し、又英吉利國を其の利益の

爲めに利用し得たりしや否やの問題是れなり。和蘭の東印度會社か和蘭聯合共和國 (Republik der Vereïnigten Nederlanden) の政治的生活を如何に涵養したるかに就ては前に之を叙述したり。然らば和蘭に比して頗る大なる英吉利の状態に於て之に稍々類似せる事の果して可能なりしや否や？ 今や我等は歐洲の殖民史上極めて重大なる一轉回を見んとす。個々の會社の組織か極めて巧妙にして極めて強大なりとするも、そは永久其の事業上の利益の爲めにのみ殖民し得るや。換言すれば國民全體其の機關即ち國家をして或る一定の瞬間に於て殖民の事業に關與せしめ殖民の事業に對して義務を負はしむべき高き精神的動因歴史的必要なきや否や？

千七百四十五年英佛兩國の間に突發せし戦争は主として印度に於て且つ印度の爲めに行はれり。是れより先き佛蘭西人は幸運にも印度に進出し、其の智略に富める斬新なる手段を以て南印度を其の勢力の下に置けり。偶々年若なるロバート・クライヴ (Robert Clive) の出づるや、彼れは獨特の手段を以て佛蘭西を撃破し、又干戈を交へずして和蘭の勢力を剿滅しぬ。當時の人々は彼れか印度に於て公然數百萬の財産を獲得して私囊を肥したりとて大に彼れを非難せり。當時の風習と彼れの特性に徴するときは斯る嫌疑を受くるに至れること必ずしも理なきにあらず。而かも彼れをして英吉利の印度に於ける軍事的帝國建設の先鞭者たらしめたる、將帥としての彼

れの偉功は終に此の非難の聲を屏息せしむるに至れり。

然れともクライヴの嚴密にして強硬なる措置は、會社の勢力を強むることなく寧ろ之に打撃を與へたり。斯くて解散の手續は促進せられたり。而して何故に議會か終に會社に向つて大々の干渉を加へたるかは茲に特筆すべき事項なり。會社は蒙古帝より廣大なる土地の無制限なる所有權を獲得し、當時「何人か此の土地の所有者なりや、英吉利か將た會社か」と云ふ主權の問題を生ずるの有様を呈したり。而して此等の土地は全く世の期待する所に副はさりしを以て茲に始めて之か監督を必要とするに至れり。印度に於ける紛争、會社の不正なる事業、役員の敢てしたる收斂、印度太守 (Nabobs) より贈與を受くること、疑はしき莫大なる負債を作れること——會社は其の備人に入「バーセント」の金錢を前拂するを許し殆んど空虚となれる船を英吉利に送れり——凡そ是等の弊害と不都合とは當然政府の大々の干渉を促したるなり。斯くて會社は國家の監督の下に置かれ、貸付金を借入れ、政府は會社の通信を監督し役員の私かに貿易を營むことを禁止し、又選舉權は大株主のみに限り之を附與したり。

新制度施行後の最初の總督 (Governor General) はウォルレン、ヘスチングス (Warren Hastings) 其の人なりき。彼れの行政は右の如き制度の改革も有效ならず且つ勵行せられざりしか如きの結

果を示したり。ヘスチングスは「地方の風習に従ひ」(nach Landesitte) 亂暴極れる方法を以て自己の衣囊を肥し、會社の金錢上の利益を計るに努めたり。會社は經濟上再び基礎を得たるを以てヘスチングスに對して大に感謝したり。又會社の加入者等はヘスチングスカ議會に於て彼れに對し提起せられたる訴訟に於て七年に亘る裁判の後放釋せられたるを見て再び喜ぶ事を得たり。彼れは取るに足らざる卑劣なる英吉利商人の標本に過ぎず。彼れはクライヴ卿の如き巨人には非ず。次いで印度に於ける英吉利殖民の英勇的時代 (heroische Epoche) は來りぬ。商事會社は効果を擧げず、政府は之に干渉し、印度内地に於ける主權者の衝突はナポレオン時代の英吉利と佛蘭西との世界的葛藤に依りて歴史的大事件を惹起せしめたり。マイソール (Mysore) の王チツプー (Tipoo) は佛國の同盟者にしてトラヴァンコール (Travancore) の「チンジャー」(Rajah) は英吉利の被保護者なり。彼のウェリントン (Wellington) の兄にして「インール」の王を殺したるウェレスラー (Wellesley) は英領印度帝國 (angloindisches Reich) の創建者となれり。會社は此の巨人の小商人排斥の功を徳とせり。彼れの政策には多大の費用を要したり。英吉利の殖民に於ける帝國主義の思想即ち劍を以て海外に英吉利魂 (Britentum) を貫徹せしめ、商人を維持せんか爲めに其の殖民地を英帝國の有となすへしとの思想は實に彼れウェレスレーより出てたるものなり。

今や會社は陰影的生存の宣告を受けぬ。即ち千七百八十四年の法律に依り會社の爲めに監督廳 (Kontrollbehörde) 設置せられ、千八百十二年に至り會社の印度貿易の獨占權は遂に剝奪せられ、會社は單に支那に對する特權を所有するに過ぎざりき。數次の盛なる出征は印度に於ける英吉利の支配權を鞏固ならしめ、マラツテン國 (Malakka) は粉碎せられ、ビルマ (Burma) ガニスダン (Alganistan)、スキンデ (Sinde) と戦ひ、又千八百三十九年阿片戰爭に於て支那も亦開かるゝに至れり。此の戰爭の原因は政治的問題と云はんよりも寧ろ鴉片輸出問題に在りしなり。英吉利は平時に於て全く自由なる阿片の輸入を得ざりき。英吉利に取りて重要な問題は千八百三十四年會社の支那貿易獨占權を剝奪して以來歐洲貿易の爲めに支那の港市を開放せしめんとするに在りき。

千八百五十三年會社の特許狀は最後に改正せられ重要な權利を失へり。當時ダルハウシ (Dalhousie) の總督となるや、英吉利の政府及軍事當局は「ダルハウシ卿はウヰルレスレーの事業を繼續せり」と稱せり。彼れはシクス (Sikhs) の一揆を撃破し、パンジャブ (Pundjab) を征服し、千八百五十六年セボイ (Seboi) が其の有名なる叛亂を企つるや、英吉利軍は國家の主權に反抗する一切のものを粉碎し盡したり。ラクノウ (Lucknow) 及デリー (Delhi) も亦征服せられ最

後の蒙古帝は捕虜となりて死せり。千八百五十八年に至り會社は遂に廢止せられ、國家は其の所有權と總ての義務とを引受けたり。行政及軍隊は組織せられ、官名としては總督 (Governor General) と稱せらるゝ副王 (Vizekönig) を置きて全組織の首長たらしめたり。千八百七十七年英吉利の女王は印度の女皇を兼ねることを宣言せり。されと眞の情態は此の光彩ある形式に依りて多くの變化を來さざりき。印度の政治上の對外的地位及經濟生活上の制度に關する印度の運命は英吉利に依りて支配せらるゝに至りぬ。倫敦に在る印度省 (Statsekretariat für Indien) は最高の官府なり。特殊にして部分的なる行政組織は諸種の方法に依りて行はれたり。印度は十三州に分ち、副王及之を補佐する評議會 (Pat) 直接之を統治す。此等諸州中マドラス (Madras) 及ボンベイの二州には固有の行政會議 (ausübendes council) 及立法會議 (gesetzgebendes council) あり。ベンゴール及北西州の二州は只た立法會議を有するのみ。爾餘の諸州に在りては知事 (Governor) 又は代理知事若くは其の代理者部下の官吏と共に事務を處理す。印度の大部は尙ほ直接英吉利の行政の下に在らず、從來の王に依りて統治せられ英吉利の代表者ありて之か顧問たり。ハイデラバード (Hyderabad) デイソール (Deroor) カシミア (Kashmir) 及グワリオー (Gwalior) は其の最たるものなり。

若干の州は王領と同一名稱を有す。例へばマドラスと稱する大なる州あると同時に小なるマドラス王領あり。ベンゴール、パンジャブ、ボンベール、中央州及北西州に就ても亦同様なり。印度に於ける王の附庸關係は諸種の方法に依りて定められたり。即ち攻守同盟、等級制に依る貢税の納附、保證條約、親睦條約、内政に對して干渉權を有する保護條約等の形式あるを見る。土人の國(Eingebohrenstaaten)の數は七百の多きを算し、其の大さ其の意義の異なると同しく、其の王家の系統の長短及勢力の強弱にも大なる相違あり、英吉利は此等の王を全く其の利益の爲に利用せり。彼等は經濟上英吉利に従屬せり。英吉利人は阿諛と勳章と凡ゆる種類の顯榮とを以て彼等の名譽心と虛榮心とを利用せり。王家の子息は特設の専門學校に於て教育を施され、又兵學校に(Imperial cadet corps)に於て軍事教育を受く。

英吉利は最近數十年來印度の經濟上及精神上の發達に對して至大の努力を費したり。過去に於ける商人の妄りなる獲利と、此の巨額を費してなせる正當にして有效なる近代の政治とは蓋し好個の對照にあらずや。印度に於ける寶石よりも遙かに貴き財寶たる印度の耕作は大規模なる灌溉事業に依りて盛となれり。饑饉災禍と疫病とは組織的に且つ有効に防止せられたり。千八百九十九年より翌年に亘りし大饑饉か六千萬の人に影響を及ぼせしことを思は、斯る防止事業の如何

に緊要なるかを知り得へし。英吉利政府は恐るべき惡弊を合理的に除去せんか爲めに所謂「饑饉法典」(Famine codes)を設けたり。

歐洲の教育を普及せんとする英吉利の努力は、下層社會の群衆に對しては著しき効果を收むる能はざりしと雖も、上流階級に對しては至大の効果を及ぼし、精神上の革命を惹起して印度の文明の傾向は數十年の間に全く一變するに至れり。文明の稍々進歩したりし「ヒンズー」人の歐風化すると共に、彼等は根據を失ひ混亂を來し遂に支離滅裂の状態に立ち至りたり。斯くて精神的「ヒンズー」人、即ち所謂文士派なるものを生じ、多數の醜亂者及英吉利に對する敵愾心の鼓吹者を出せり。此等の革命的なる「ヒンズー」人は「ロマンチック」なる保守主義の「ブラーマン」人と結合し、更に彼等は外國人に對する敵意、西洋人に對する憎惡、英吉利政府の嚴格なる武斷政治に對する反抗の爲めに諸種の分子と結合したり。

今や新なる印度人魂は過去の時代に於けるものと著しく異なる新なる英吉利風の發生したるか爲に特に英吉利の主權に離反せざるを得ざりしなり。「スエズ運河は英吉利と印度とを互に相遠ざからしめんか爲めに兩者を相接近せしめたるのみ」との逆説は洵に至言なりと謂ふべし。英吉利人の印度に來るものは益々多きを加へたりと雖も其の滯居は次第に短期となれり。印度は多數の

人々に取りては面白き一挿話たるに過ぎざるに至り、最早眞面目にして大なる生活内容を見ること能はざるに至れり。英吉利人は印度の爲めに戦ひ平和を恢復し主權を擴張し、而して今や之を利用するを得るに至れりと雖、印度及其の問題を見ること極めて輕々にして且つ傲慢なり。斯る傾向は固より第十九世紀の終りに於ける英吉利の衰微に關係を有す。當時外見に拘泥すること、奢侈の風、所謂「ブライベート、セントルマン」の凡ゆる娛樂に對する觀念は一般的となれり。而して此の種の風習は時に機巧に富みたるものなきにあらざるも、多くの場合に於ては他の種族に對し破廉恥にして狹量なる行動を現はすに至れり。曾て印度のラジャ(Raja)と稱する一少年が一等車に於て英吉利の遊獵者の爲めに其の靴の掃除を強ひられたりと云ふ物語は正に之を證して餘りあり。古來の貴き文明を味へる人々か此の行動を見て如何に感したるかは固より極めて明瞭なり。名望ある印度人は英吉利人の俱樂部へ出入することを拒絶せられたり。土人は軍隊に於て下士以上に昇ることを得ず、彼等は常に英吉利の青年少尉の後に隨ふのみ。斯の如くにして終に社會上及政治上英吉利人と全く同等の地位を得んとする反英的、國民的印度人運動(englandfeindliche, nationalindische Bewegung)は起れり。カーゾン卿(Lord curzon)の行へるベンゴール州の二分の如き拙策は斯る運動の氣勢を強大ならしむるに過ぎざりき。此の結

果一切の英吉利貨物に對する非買同盟となり英吉利官吏の殺害となれり。偶々日本の覺醒は至大の影響を及ぼし、該運動の主導者は世界第一の文明國の伍に在りしことに關して國民の注意を促かすと共に、此の文明の傳承を保持したりし天分を指摘したり。

印度が英吉利より分離せんとするの危険は凡そ是等の事實に依りて一世の視聽を動かし大に論究せらるゝに至れり。同々教徒と英國の巧みに緩和策を講したる「ヒンズー」人との衝突は之か緩和の目的を達すへき望みなきに非ざりしか如しと雖も、眞の國民的大運動たる言語及階級の相違を連結することに至りては過去は勿論今日に於ても尙ほ頗る困難なり。英吉利は印度に於て政治的勢力の基礎となれる孤立と其の才智の優越と其の軍力とに依りて強大となれり。印度軍は十八萬人を有す。而かも其の高級士官中には印度人は稀なり。而して英吉利は懶巧にも見るに足るへき程の印度砲兵隊を組織することを避けたり。下級部隊は諸種の種族及階級の新兵を以て之を組織し以て彼等をして互に接觸し能はざらしめたり。印度の政治家は英吉利の羈絆を脱するも之を以て總ての羈絆より脱したるものと思考すへからず、露西亞、並に印度との貿易甚だ盛大となれる日本の干渉は極めて大なる危険なるか如し。

印度と稱する此の大陸に平和を保たしめたるは英吉利の大なる功績なり。英吉利の世界的地位

は實に此の領土に其の基礎を有す。之れ單に經濟上の大なる利益の爲めのみならず、主として印度に於て及び印度に附隨して獲得したる政治的勢力に因るものなり。カーゾン卿は印度は亞細亞大陸に於ける政治的支柱なりと曰へり。大英國の亞細亞に於ける地位は主としてローバール卿 (Robert) と共にクライヴ、ウエルレスレイ及ダルハウシの事業を繼げる此のカーゾン卿によりて確立せられ且つ發揚せられたるなり。彼の一大現象即ち彼れが研究者、遊獵者、政治家として亞細亞全土を旅行したるか如き、彼れが『極東問題』と題する書を著はしたるか如き、彼れが印度副王となれるか爲めに、又ソールズベリー卿が副王は書を著述すへからすと説へたるか爲めに其のアフガニスタンに關する著書を發表し得ざりしか如き、波斯國王、安南王、カムボヂヤ王、アフガニスタン王と親しく接觸し、シヤム王と時々通信を交へしか如き、凡そ是等は偉大の物質及び重要に對する偽なき本能に驅られて強く且つ特殊なる形に現はれたるものなり。山脈壁の彼方に在る堡壘斜堤に就いて英吉利は自ら之を略取するの要なし、而かも敵の掌中に於て之を見るに忍ひすと言へるはカーゾン卿其人なりき。波斯、アフガニスタン、西藏、印度支那一等は印度砲壘の斜堤の作出したる國にして英吉利の世界政策は從つて復た是等の國に對して其の眼と手とを向けつゝあり。

印度帝國の一附庸國にして「フアーザー、インディヤ」(Further India) と稱せらるゝ英領 ビルマ (British Burma) の獲得に依りて英吉利は後印度半島に前進し、印度支那に於ける佛蘭西の帝國に手を延はし以て支那との連絡を絶てり。マラッカの市に接せるシンガポールは最も樞要の位地を占め、隸屬せる マレー 諸國聯合 (Bund abhänzigen Malaienstaaten) (千八百九十五年以來) の中樞を成せり。此の地獲得の歴史は既に明かなるか如く和蘭の後繼者として經濟上の利益及 スンダ 群島よりの航路を求めんか爲めに之を獲得したるなり。シンガポールの對象とも稱すへき香港は阿片戰爭の結果獲得したるものにして支那に對する 暗門 を成せり。香港は南支那海の沿岸に於ける小島にして其の面積九十平方「キロメートル」を算す。香港は優越せる貿易場にして華美と輕浮なる利慾心との特徴を有する大世界の港市なり。——香港は眞の殖民地にあらず寧ろ勢力範圍の頭蓋なり。英吉利は揚子江の全流域を領地 (Domäne) として留保せんと欲したり (千八百九十八年の支那との條約) 而して十九世紀の終りには英吉利の地圖中此の地域を既に赤色に染めたるものあるを見たり。斯くて香港は第二の カルカッタ (Kalkutta) 第二の アレキサンドリヤ (Alexandrien) となれり。英吉利は列強の競争か門戸開放政策に起因すとの説に一步を譲らざる

へからざるに至れり。而して旅順及青島に對する權衡力たる威海衛は海軍根據地として設備せられたりき。千九百二年の日英同盟は、支那を碎裂すること不可能なりしか爲めに日本及支那に依りて東西に於ける關係を調節して以て英吉利の利益を計らんとしたるものに外ならず。

濠洲

日本に對する關係は又今や濠洲に於ける英吉利の地位に向つて特に至大の意義を有するに至れり。濠洲は總ての大陸中最も孤立遠隔にして且つ最も不遇なるものに屬す。凡そ世界の大陸中濠洲の如く純朴なる原始人の歴史なき生活に委せられ白色人を大に排斥したるもの他に其の例あるを見ず。巨大なる珊瑚礁は地理上相隣せる東部亞細亞より遠く彼方に濠洲を突出せしむ。濠洲に於ては其の東部のみ發達せり。其の發達の端緒は太平洋に面する地方にして此の地に於てのみ政治的生活の發達を見たり。外的原因即ち氣候の乾燥、抵抗力及び企業心を有せざる原始的住民の放浪的野蠻生活、家畜の缺乏——總て是等は歐洲の殖民者をして支配權の獲得又は獲利又は移住を促かさしりし原因なり。濠洲の盛なる發達の重大要件となりし鑛物の寶庫は後に至りて漸く歐洲人の爲めに發見せられ利用せられたり。

既に第十六世紀の末葉に於てテラ、アウストラリス(Terra Australis)の名稱ありしを見る。和

蘭の航海者は夙に此に航せり。千六百四十二年アベル・タスマン(Abel Tasman)なるもの荷蘭東印度會社の爲めに始めて大なる探檢旅行を此に企てたり。爾來和蘭人は此の大陸を「新和蘭(Neu-holland)」と稱へて之に對する要求權を得たりしか而かも其の殖民に適せざるを認めたるか爲めに遂に此の權利を實行せずして息みぬ。故にタスマンの旅行は單に學術上の價值を有するに過ぎず。彼れは南洋中には北部大陸の土地の一團の外之に比敵すへき大陸なきことを確めたり。

其の後千七百七十年英吉利の航海者ジェームス・クック(James Cook)は英吉利の爲めに南東海岸全部を占領したり。彼れの新發見地——今は濠洲中最も有利なる地なりき——に關する熱烈なる記事は大に世人の興味を喚起したり。英吉利は亞米利加の殖民地を失ふや此の地を以て之を補ふの可能なるを認めたるか如し。加之英吉利は更に新なる流刑地(Deportationsgebiet)を求めたり。ジブラルタル(Gibraltar)は其の地餘りに狭く、ガンビヤ(Gambia)は健康に適せざりき。一議會に於ては此の地に流刑囚を送るは「マラリヤ」悪疫に依りて死刑に處するに同しと報告せられたり。是に於てかニユー・サウス・ウエールズ(New-south-wales)を選ひたり。斯くて千七百八十七年八百人の罪囚は始めて此の地上陸したり。彼等は種々の社會に屬する者にして其の心情及行爲は土地の興ふる感化に依りて改善せらるることなく、違法暴行は全く其の極に達せり。殊

に毒悪なるは女囚なりしか如し。而して政治犯人として此等の普通犯人と混せられたるスコットランド人及アイルランド人の状態の實に怖るべきものありしは想像するに難からざるへし。軍隊の勢力甚だ強からず。兵士は陰謀を企て飲酒狂は到る處に暴行し、兵士は自ら酒精飲料を販賣せり。只た官廳は最も峻酷なる手段に依りて漸く幾分此等の暴行を取締ることを得たるに過ぎず。九の尾を附したる投石具を以てする笞刑は尋常の方法にして極悪なる者は淋しき無人島に送り此にて自ら生命を亡はしめたり。

歐洲人の一般に行へるか如き生存條件の發達に對する最も重要なる手段は久しからずして行はれ印度、アイルランド及カーブランド(Kapland)産の羊及牛は此の地に輸入せられたり。而して其の牧畜は頗る良好なる成績を挙げ、其の結果秩序を保ち移民の定住を容易ならしむるに至れり。千八百二年には濠洲産羊毛の第一回の見本を得るに至り、爾來濠洲羊毛の生産は漸次大なる發達を爲せり。官憲は流刑囚に對して一定の仕事に課し、其の以上に働きて彼等か得たる所は之を買取ることゝしたり。之か爲め彼等は大に力を之に盡したり。

故に純經濟上より見るときは流刑は效を奏したるものゝ如し。統治の費用は少くとも半額を減するを得たり。罪囚は變して勞働者とせられ、爲めに殖民地は低廉なる勞働力を求むるの利益を

得たり。而して此の低廉なる勞働者は此の地の發達を促かしたる主たる要素にして彼等は一の有力なる新社會を形成しぬ。他の一問題は罪囚的分子の著しき増加の爲めに一般の道德を頹敗に歸せしめさりしや否の點に在り。疑もなく濠洲の社會には流刑の爲めに秩序の紊亂を來し又殘忍粗暴の風を傳播したり。土人剿滅の爲めに用ひたる手段の如何は、懸賞に依りて土人を搜索し叢林中に於て一撃の下に之を射殺したるの一事に徴して之を知るに餘りあり。其の心情の粗野なると同じく其の金錢を得るに權謀術數を廻らすこと及金錢にのみ重きを置き之を得んか爲めには何等の頓着もなく卑劣なる行動を敢てするの性質は固より最初に移住したる群衆の道德腐敗の結果なり。之を亞米利加と比較するは最も興味あることなり。亞米利加に於ても殖民上の成り上り者の常として之に類似の性質發達したりと雖も而かも道德破壊的動因よりも倫理的分子及び心靈に對する純朴強大なる尊重心の影響大なりし也。

濠洲に於ける家族組織の問題は甚だ困難なりき。最初より男子の數は女子よりも二倍以上多かりき。其の結果は極めて悪弊を惹起せり。土人の婦人は賣笑婦となり、西濠洲の議會は流刑の際婦人の罪囚を多數移住せしむべきことを請願したり。而して店女かシドニー(Sydney)に到着するや即日三人の結婚申込を受けたりとの物語は後來有名となれり。出産の數は少かりしも移住の

爲めに人々は著しき増加を來したり。金錢は速かに之を儲けて復た速かに費消せられ、濠洲の生活は實に獨身者生活の特徴を有するに至れり。ヴィクトリア(Victoria)の總督(Governor)は曾て報告して曰く「シャンパン」は非常に多量に飲用せられメルボルン(Melbourne)に至る數哩の道路は酒場を以て敷き詰め得る程なりと。

○ 流刑は既に十五年前下院委員會に於て全く否認せられ、最古の殖民地のニュー、サウス、ウエールズに於て始めて之を廢したる後、千八百五十三年に至りて全く廢止せられたり。

○ 新殖民地たるヴィクトリア、南濠洲、西濠洲並にクィンズランド(Queensland)の起原は冒險敢爲なる殖民者の着手したる自發的殖民の擴張に因れり。大なる牧畜家("squatters")は單に其の必要に應じ許可及び支拂を要せずして新なる土地を得たり。後政府は干渉の必要を生し國家の爲めに土地の分配を整理したり。而してウエールズ、ヴィクトリア、サウス、ウエールズの地に適合せり。此の制度は同一形の土地を自然的の測定に依る均一の價格にて交付するに在り其の賣上金は移住資金に當てられたり。斯の如くにして弊害多き競買及び特權の附與を避けたり。

○ 千八百五十一年倫敦萬國博覽會開催後の或る日に於て濠洲に於ける金鑛發見の報世に喧傳せら

るや、殖民者は熱病に襲はれたるが如く農業を去りて凡ゆる方面より此處に集り來るもの相繼げり。是に於て政府は金鑛採掘の禁止、刑法の布告及政府の費用の爲めに金鑛を利用すへき事を要求せり。然れども此の要求は實行せられず、只た黄金採掘許可證に對する高き採掘税を課することによりて移住民の麁集を幾分防止することを得たるに過ぎず。されどニュー、サウス、ウエールズ及其の首府シドニー(Sydney)は忽ちにして移住民の去る所となり、ヴィクトリアに於けるメルボルンは新に黄金採掘の市となれり。之か爲め人口は僅かに數年にして二百萬の多きを算するに至れり。投機業は未曾有の盛況を呈し金鑛發見の爲めに一般の移住慾旺盛となれり。凡ゆる歐洲諸國より冒險家は現はれ、支那人も亦歐洲人より疎んせられ甚た冷遇せられたるにも拘らず此處に移住したり。

○ 千八百五十年代に於ける濠洲經濟上の發達は又濠洲に於ける憲法の發達に依りて促進せられたり。ニュー、サウス、ウエールズは最古の殖民地として他の殖民地を監督するの傾向を有したりしが、新殖民地は固より之に對して反抗を試み、遂に各殖民地は憲法を備へて近代の獨立せる國家制度を形成し得るに至れり。而して此等の各憲法は濠洲に於て英吉利を呼ぶに用ひられたる所謂「本國」("Mr. Mothercountry")の不文憲法の縮圖たりしなり。

英本國に對する關係及び各殖民地相互の關係は實に濠洲政策の主題なりき。英吉利政府は濠洲殖民地に對して頗る寛大なる態度を取り、激烈なる處置に依りて却て獨立及び離隔の運動を盛ならしむるか如き拙策を執らざりき。英吉利は千八百七十年を以て總ての軍隊を本國に召還し、殖民地内部の保護及び其の防衛は殖民地をして自ら之を行はしむることゝしたり。千八百八十年代には殖民地に變動を來せり。當時佛蘭西及獨逸は最も近接して殖民地を確立したり。ニューギニアの英吉利を去りたるは濠洲に取りて特に大なる苦痛なりき。英吉利政府は濠洲人に對して行政費を負擔せしめんとしたり。クインズランドは千八百八十三年に此の負擔に應せんことを宣明したるかダービー卿(Lord Derby)は之を延期したり。斯くて獨逸帝國は其の一部を占領するの目的を達し得たり。是に於てか英吉利の爲めに残れるは濠洲の經濟的援助の下に經營せらるゝ南東部の微々たる一小地ありしのみなり。而してニューギニア事件並に太平洋に於ける群島の分割は濠洲に於て國家思想を發達涵養せしむるの必要を感得せしむるに至れり。而かも此の大陸に於て有爲果敢にして勤勉なる市民を求むること難かりしを以て強制と恐怖とを以て、盛にして猜忌的なる政治的自覺心を發達せしめんとしたり。

千八百七十七年英露の間に戰鬪を交ふるの機將に迫るや、タスマニア(Tasmanian)の總督は

「憐れなる殖民地」の保護を請はんか爲めに心亂れたるか如き言葉を以てせる電報を殖民省(Kolonialamt)に送れり。當時既に濠洲は大世界の動搖を感しサー、ヘンリー、パークス(Sir Henry Parkes)其の人に依りて世界の新時代に對應すへき國家的統一を見んとするに至れり。濠洲のピスマークと稱せられしパークスは極めて徐々に其の處置を行ひ得たり。蓋し各殖民地間の軋蹶の爲めに大に聯合會議を遷延せしめたるか故なり。最初には殖民地の重要な生存問題——支那人の移住問題、殖民地相互間の判決執行問題及び殖民地の防備問題の爲めにニュー、サウス、ウェールズ、ヴィクトリア及び南濠洲を以て小なる聯合を形成することを得たり。此の濠洲聯合體はニューギニアに關しエクワトル(Aequator)の南方の地域を外國の爲めに占領せらるゝは英吉利帝國の利益を害するものなりと宣言せり。極めて緩徐たる努力の後遂に聯邦憲法の成案を得たり。同憲法は上下兩院より成る議會を置くこと、最高の聯邦裁判所を置くこと及行政官廳として英吉利國王より任命せられたる總督(Generalgouverneur)を置き下院の多數を以て定めたる内閣を之に附することを定めたり。ニュージブランドは常に聯合に加盟することを避けつゝありしか終に聯合に加入せざることを宣言するに至れり。西濠洲は特別の利益を要求したり。此の西濠洲は殖民地中最も新しく最も發達せざりし地にして千八百六十八年までは條件附執行免除の犯人を強制

的に移住せしめ恰も流刑殖民地の狀を呈し居りたり。クイーンズランドは經濟上の利益の爲めに全く分裂せり。即ち北部の地は諸種の種族に屬する勞働者を用ひて栽植を營み聯合を離れて全く特別の殖民地を形成せんと欲したり。

斯くて千九百年に至り濠洲聯邦 (Commonwealth von Australien) は英吉利の兩議院より中古時代の嚴肅なる形式を備へたる新憲法を認可せられたり。而して凡ゆる近代の國家制度中最も非歴史的なる此の國家の憲法の冒頭には古佛蘭西の式に則りて 'La Reine le veut' なる「ノルマン」語を掲げたり。

此の分離し難き永久に團結せる聯邦の成立は最近の殖民史上に於ける大なる出來事の一たるを失はず。亞米利加合衆國の如く濠洲も亦成熟して自治を得たり。然れども并は分裂し又はカナダの如く離隔し亞米利加化することなくして新なる形態を成せり。——濠洲は飽くまで英領にして英國風を以て誇りとなせり。固より弱點の徴は此に存在す。經濟的發達は固より駸々たるものありしと雖も最も重要な殖民地生存の源泉たる移住は停滯したりき。濠洲は勞働者の樂園となれり勞銀は極めて高く其の勞働關係及び其の保護は些細なる點に至る迄規定せられたり。されど生活の全班は稍々頑固偏癢にして古風なるものあり。又自覺心の熱烈なるに相當すべき自然的強壯

なる力を缺如せり。濠洲の負債は印度の其れに比敵すべく而かも其の收入は印度のその四分の一に過ぎず。而して人口は五百萬を出てさるなり。

ニュージールランドは濠洲と云はんよりも寧ろ濠洲的なりと云ふへし。——ニュージールランドは英吉利殖民の諷刺畫とも稱すべきものにして随つて之に對して特別の觀察を費すの價值あり。此の二島より成れる地の濠洲に對する位置は歐洲に對する英國の位置、亞細亞に對する日本の位置と類似し其の獨特なる歴史的發達も亦略々類似せり。其の名稱は和蘭人に依りて始めて發見せられたるものなることを想起せしむ。此の島はニュー、サウス、ウエールズ及びタスマニアと共に古の「マロンチック」なる時代を経験したるなり。ニュージールランドは罪囚及び黃金探掘者の爲めに、其運命を傷害せらるるか如きことなかりしも、其の代りに全歐洲の冒險家の爲めに探險せられたり。同島は原始的情態と形様に於て發達し多く歐洲人は土人の信頼を受け且つ其の指導者たることを得たり。千八百四十年佛蘭西政府はニュージールランドを占領せんと企てたりしか、英吉利の代理者は速かに此の事を認知し佛蘭西人に先んして之を獲得したり。——是れ佛蘭西人が英吉利人の爲めに欺騙せられたる多くの實例の一に過ぎず。

斯くて移住は開始せられ單純にして自然的なる態様の純民主的社會は發達しぬ。之に屬する人

々は何等の傳説もなく何等の先入の見もなくして事物を観察したることを誇としたり。民主主義の形式に於ける立法は労働者階級の眞の遊戯に等しきものとなれり。極めて個人的に且つ威厳もなく盛に行はれたる政治的争闘の裡に輕浮誇大なる「アポステルツーム」(Apostelium)なるもの生ぜり。此の主義は歐洲を以て憐れなる流行後れの國民なりと嘲笑しニュージールランド人は最も進歩せるものにして世界は自己の利益の爲めに之を利用せんとすと傲せり。而かも奇怪にも此の模範的民主黨よりして富の人、地位の人を以て組織せられたる保守黨を發生せるなり。又萬事を自己の利害の如何に従つて處置せんと欲する「自由労働者同盟」(Liberale Arbeiterkoalition)の發生を見たり。此の同盟は革命的又は共產主義を持するにあらず、全く利己主義にして樂しきものにもあらず又趣味豊かなるものにあらずなり。

ランカシャー(Lancashire)の「教師の息セドン」(Seddon)なる者は濠洲の麥酒店の主人より身而起して政黨の首領となり、次いで大臣となり終にニュージールランドの主權者となれり。當時の國人は誇り顔に彼れを名づけて「ディック王」(King Dick)と呼べり。彼れの指導の下にニュージールランドの労働者保護に關する法律は制定せられたり。其の法律は主に無料を以てする學校教育、強制的の仲裁手續及び仲裁裁判、最低賃銀額の確定並に養老年金の制度を包含す。

斯の如くにしてニュージールランドは自覺ある努力に依り模範的發達を遂げたり。人若し此の理想的殖民地の政治的及び社會的生活を観察せんか、其の餘りに單調にして内容の空虚なるに驚き且つ微笑を發せざるを得ざるへし。移住民は不快と無情とを以て迎へらる、蓋し彼等は苦役に服するを欲せざるか故なり。又失敗を招ける者は生活上の呼吸とも稱すへき尊敬を失へり。階級の誇、社會的及婦人權の共同地、宗教上の偏強、市民的盟約及び偽善、酒精の防止、「サー」(Sir)及び「Lord」(Lord)就中英吉利の宮廷、社會的及び俗的幸運の最高の表現を著しく畏敬尊重すること、是等は即ち此の殖民的「スノビズム」(Snobismus)の原動力なり。

又ニュージールランドは其の自己獨特の立場より世界政策を判定せんとするの風あり。ニュージールランドはオセアニア(Oceania)は「アングロサクソン」に屬すと云ふを以て其の信條となせり。佛蘭西及び獨逸は彼れに取りては厄介物なり。而して彼れは少しく事を爲さんか爲めにクック群島(Cookarhipol)を併合したり。彼れは帝國主義の思想に燃へつゝ其の忠實に尊敬しつゝある英本國が戰爭を爲すに當りて之に夥しき兵を送りたり。兎に角ニュージールランドは世の期待したる所を遂行したり。されど其の人口はハンブルグ(Hamburg)の如く多からず。

○濠洲は英國の生産物中最も英國的たるもの一なり。其の特質は強大我執にして而かも全く平

凡なり。彼れは其の家族と遊戯と教會との三體を以て精神、美術及歴史に於ける總ての偉大なるものより遠さかれり。而して今や濠洲の世界には最も怖るべき生存上の危険か接近しつつあり。即ち支那人の移住は如何なる法律を以てするも之を防ぐこと能はざるへし。其の電勉と一切の慰樂に對して無頓着なることは黄色人をして此の麻痺しつつある歐洲人の社會に於て缺くへからざる従僕たり、農夫たり、小賣商人たらしめたり。而して其の後方には政治上危険なる日本の膨脹力の將に迫りつつあり。黄金に執着せる大都市と僻地と羊群とより成れる此の國家は如何にしてか之に對應せんとする？

英吉利人は印度及濠洲に於て幸運にも和蘭人の後繼者なりき。又和蘭人の未だ有せざりし地に於ても亦英吉利人は角逐者として現はれ出てたり。即ちボルネオの北半は彼等に依りて古領せられ、冒險家ジェームス・ブルック(James Brooke)の建設に係れる「サルタン」領サラワク(Sarawak)は彼等の保護國となりぬ。然れども特殊の意味に於て英吉利人と和蘭人とはカープランド(Kapland)及び之に關聯せる殖民的膨脹の爲めに角逐したり。又英吉利か此の地の支配權を獲得するや英吉利魂に對抗すべし和蘭魂(Holländisches Volkstum)は殖民上著しき變化を見る

に至れり。カープ殖民地の歴史は亞弗利加に於ける英吉利の殖民と至大の關係を有す。

英吉利か一度亞米利加に於ける地位を獲得し而して後少くとも世界歴史上の見地より見て復ひ之を失ひたることは既に述べたる所なり。亞細亞に於ては彼れは其の舊來の要求權の爲めに兵力を動かして戦ひ、其の主權及び勢力範圍を次第に擴大し、亞細亞に於ける世界強國として露西亞及び支那と相對し斯くて日本と握手したり。是に於て濠洲は終に全く英吉利のものとなれり。而して最も脆弱なる大陸たる亞弗利加に於ても亦大英國は一強國となれり。此の地に於ては少くとも能動的の現象を呈したり。即ち此の地に於ては英吉利の外、其の競争者たる強國佛蘭西及び獨逸の現出し、葡萄牙も亦其の權利を主張し、更にコンゴ國の奇異なる姿も亦參加するを得たりしなり。

亞弗利加は發達せざる沿岸と其の濕潤なる河口と其の粗暴殘忍にして矇昧なる國民を有する粗大の地なるか爲めに舊英國の殖民事業熱を誘起すること少かりき。英吉利か殖民的基礎を確立せんか爲めに此の地に於て爲したる企圖に就ては吾人は稀に之を聞くのみ。即ち千六百十八年にはガンビヤに金、胡椒及び象牙の貿易の根據地として一の堡壘を設けられたり。されど第十七世紀以來英吉利は盛に奴隸賣買を行ひ、特許狀を得たる一會社は千六百六十二年以來年々少くとも

三千人の黒人を亞米利加に供給すべき義務を負ふに至れり。英吉利の奴隸輸出はガンビヤに於ては一年に二千乃至三千人、シエラ、レオン(Sierra Leone)に於ては四千乃至五千人の賣行ありたりと云ふ。黄金の貿易も亦既に第十七世紀の頃亞弗利加西海岸に於て盛んに行はれたり。古の英吉利金貨は其の名をグイネア(Guinea)より取りしものなり。當時の貿易は何れの國に於ても高尙なる國家觀念より出でたる殖民の爲めに行はれたるものにはあらず。英吉利も亦葡萄牙及和蘭と同一の行動を取り、文明的の企圖は思ひも及はず、亞弗利加は主として只た奴隸市場と認められ此の事業の道德的惡影響の如きは毫も顧みられざりしなり。

其の後清教徒的道德及び啓蒙的唯理論の興るに及び、反奴隸賣買運動の曙光を見、亞米利加の「クエーカー」教徒、英吉利の傳道師及佛蘭西の革命主義の人權論者中より最も盛なる運動者を出すに至れり。唯歴史は大なる敬意を以てウイルバートフォース(Wilberforce)を讀へ得し。彼れは確乎として其の名譽ある全生涯を奴隸解放の事業に捧げたり。斯くて解放せられたる奴隸を救済するの問題を講究すべき團體成立し、千七百八十七年に至りシエラ、レオンに一の殖民地建設せられ、總へて亞米利加の黒人を解放せられたる市民として其の郷國たる此の殖民地に移住せしむることゝなれり。

余は茲に只殖民史の見地より少しく奴隸問題に觸れんとす。此の問題は奴隸の解放、其の自由に必要な教育、奴隸賣買の防遏、亞米利加に於ける栽植事業の爲めに如何にして自由なる勞働者を求むへかりしかと云ふ問題、最後に又歐洲の殖民は勞働者を自ら保持せる亞弗利加と如何に調和すへかりしかの問題に關係を有す。随つて此の問題は人種學、倫理學、經濟學及び政治上の問題と相關聯す。されと歴史家としては政治上の問題を主眼とすべきなり。

奴隸の解放及び黒人賣買の防遏に依りて政治上最も多くの利益を得たるものは英吉利なり。黒人奴隸の禁止に關する最初の國法は千七百九十二年丁抹に於て制定せられ、次いで合衆國及び佛蘭西之に倣へり。英吉利は千八百七年に至りて漸く奴隸を禁し之か實施の權は政府自ら之を掌握せり。而して英吉利か他國の奴隸を乗せたる船を搜索し且つ剿滅し、而かも英吉利自らは西印度に於て私かに奴隸を使用し、加之其の數を増加したるの事實を見て、劣等國か盛に抗議を申込みたるは固より理なきにあらず。各國の仁慈ある義氣は英吉利國に取りては實に其の勢力の扶植及び勢力膨脹の動因となれり。英吉利は佛蘭西、葡萄牙及び西班牙を壓迫したり。實に英吉利は南羅馬の諸國民に對して莫大なる金額を支拂ひ、而して又塗膏を施したるか如き人道をも吝まざりき。然れとも政治上及び經濟上の利益は英吉利側に歸せり。彼れは微弱なる競爭國の貿易及び裁